

2027年国際園芸博覧会 環境影響評価準備書の概要

令和5年10月

公益社団法人 2027年国際園芸博覧会協会

1. 環境影響評価制度について
2. 対象事業の計画内容
3. 環境影響評価項目
4. 環境影響評価の概要
5. 事後調査
6. 縦覧及び意見書の提出について

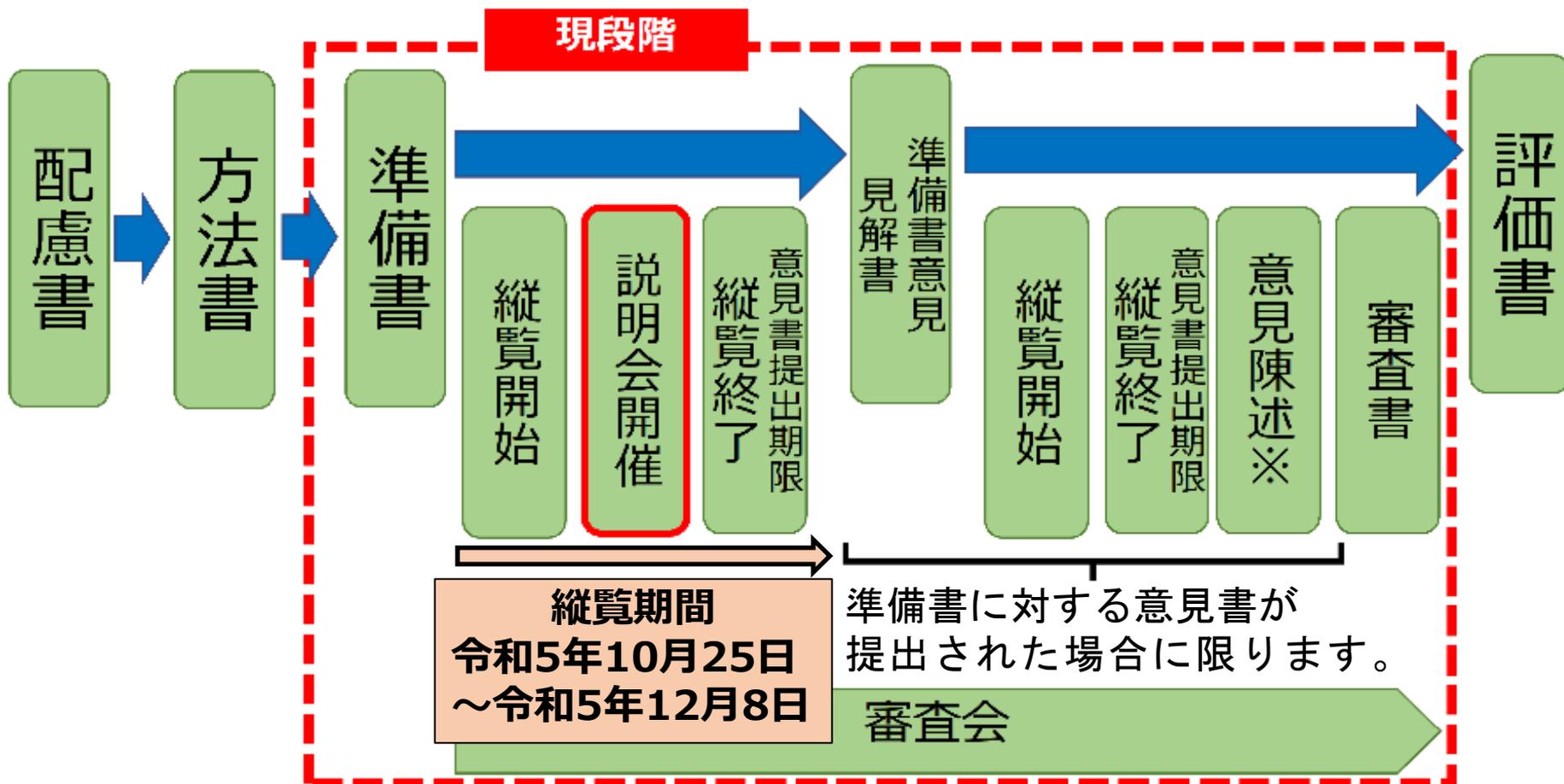
1. 環境影響評価制度について

環境影響評価（環境アセスメント）制度

事業が環境に及ぼす影響について

- ・ 事前に調査、予測、評価
- ・ その結果を公表
- ・ 市民等から意見を聴くなどの手続きを実施

適切な環境保全対策等を検討し、
事業計画に反映させる制度



※ 審査会に対し意見を述べたい旨の申し出があった場合

それぞれの図書の内容について

配慮書

事業の計画を立案するにあたり、環境の保全について配慮すべき事項の検討を行い、その内容を記載したもの

方法書

環境への影響を調査・予測・評価する項目や、調査・予測の手法などを記載したもの

準備書

方法書等に基づき、環境への影響を調査・予測・評価した結果などを記載したもの

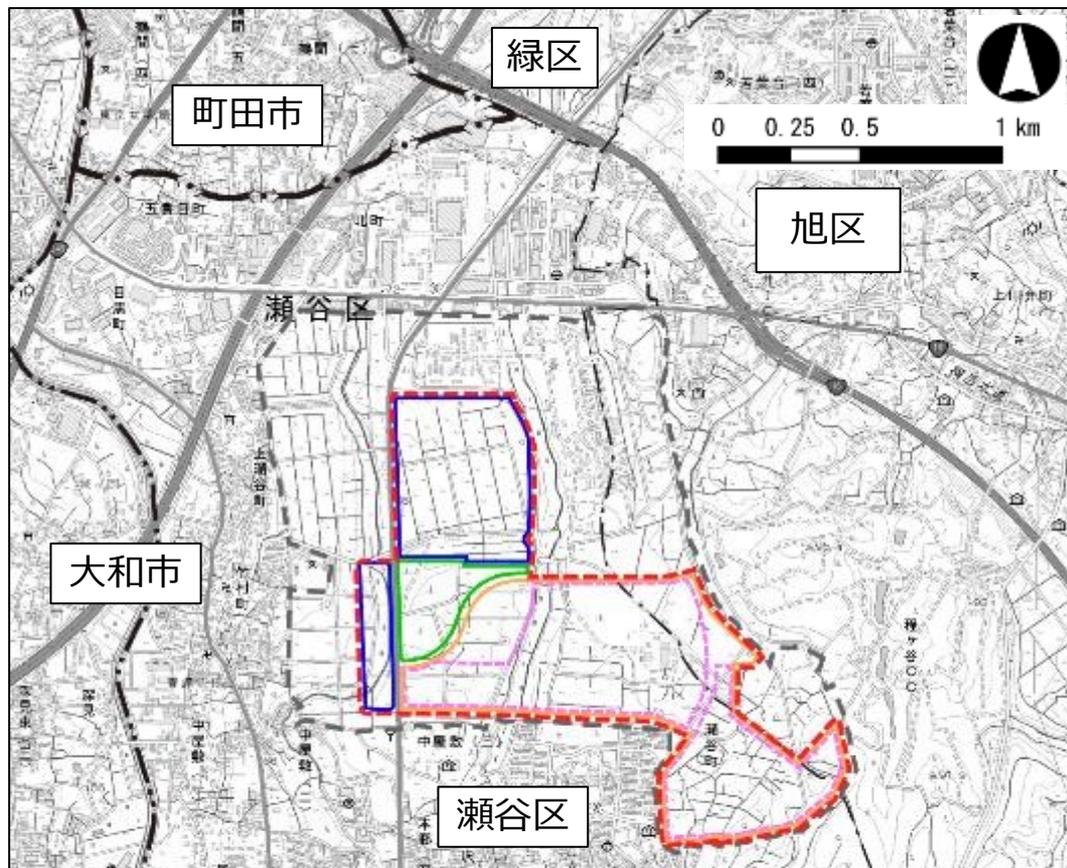
評価書

市長や住民等の意見を踏まえ、準備書の内容に検討を加え、環境影響評価の最終的な評価を記載したもの

2. 対象事業の計画内容

対象事業の概要

事業者の氏名及び住所	名称	公益社団法人 2027年国際園芸 博覧会協会
	代表者の氏名	事務総長・代表理事 河村 正人
	主たる事務所の所在地	横浜市中区住吉町 1丁目13番地 松村ビル本館
対象事業の名称	2027年国際園芸博覧会	
対象事業の種類、規模	開発行為に係る事業 (第1分類事業) 対象事業実施区域の 面積：約118.1ha (会場区域 約75.2ha、 駐車場・バスターミナル 約42.9ha)	
対象事業実施区域	横浜市旭区上川井町、 瀬谷区瀬谷町	



- <凡例>
- 対象事業実施区域
 - 旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業※1実施区域
(仮称)旧上瀬谷通信施設公園整備事業※2実施区域
 - 会場区域
 - 駐車場区域
 - バスターミナル
 - 都県界
 - 市界
 - 区界
- ※1：以下「土地区画整理事業」とします。
 ※2：以下「公園整備事業」とします。

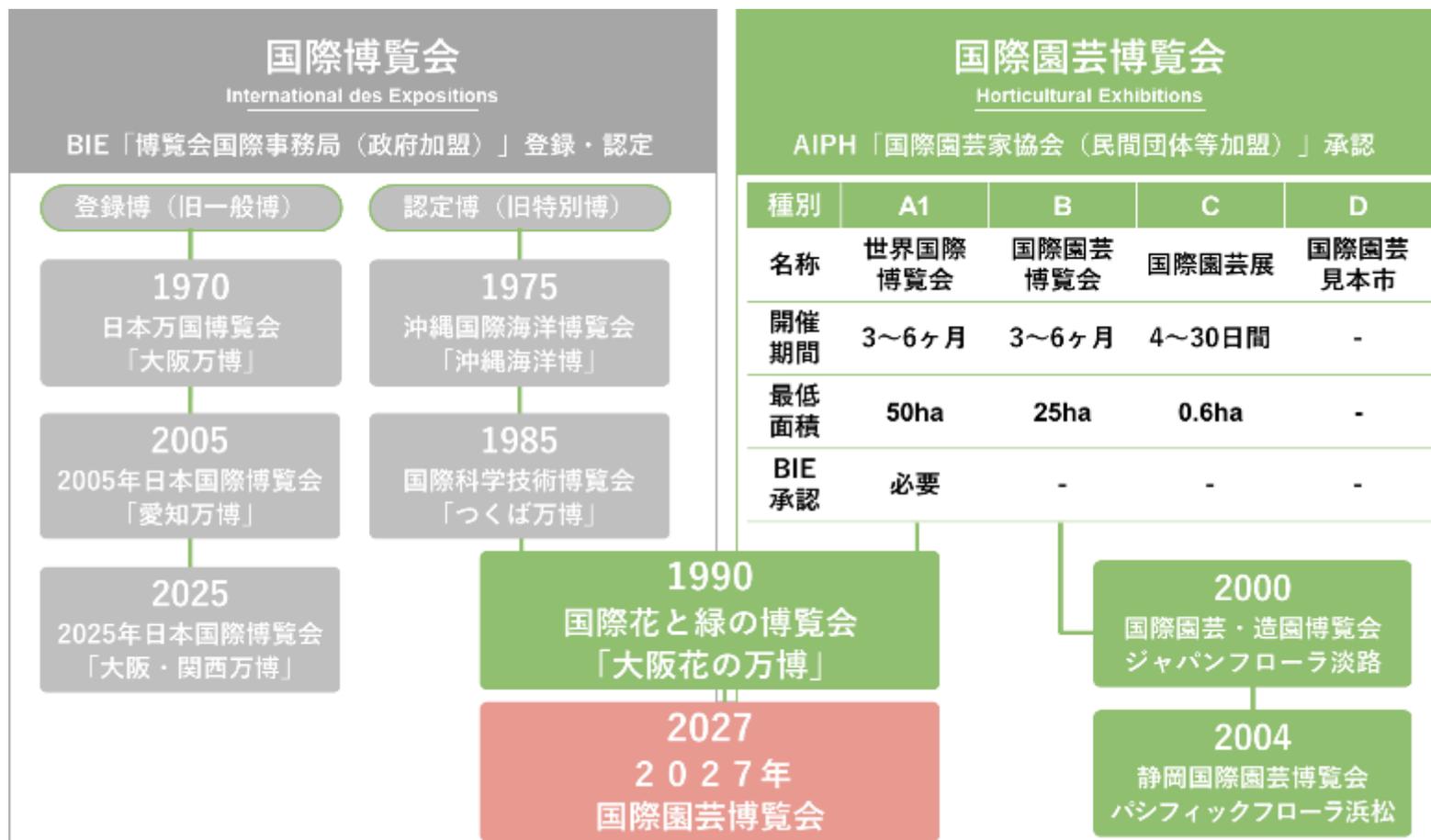
対象事業の目的

- 国際的な園芸文化の普及
- 花と緑のあふれる暮らし
- 地域・経済の創造
- 社会的な課題解決等への貢献

地球環境を展望した未来志向の国際園芸博覧会を開催、
横浜・上瀬谷の地から友好と平和のメッセージを発信

国際園芸博覧会の趣旨

- ・最上位のA 1クラスの国際園芸博覧会。
- ・国際園芸家協会(AIPH)の承認、博覧会国際事務局 (BIE) の認定を受けて開催。





(1) テーマ

幸せを創る明日の風景

~Scenery of The Future for Happiness~

サブテーマ

自然との調和
Co-adaptation

緑や農による共存
Co-existence

新産業の創出
Co-creation

連携による解決
Co-operation

(2) 会場コンセプト

①自然環境ポテンシャルを
取り入れた会場

②あらゆる主体がつながり、
将来につながる会場

③誰もが使いやすい会場

開催期間	令和9（2027）年 3月19日（金）～9月26日（日） 開催日数：192日間
参加者数	1,500万人 （地域連携やICT（情報通信技術）活用などの多様な参加形態を含む、有料来場者数：1,000万人以上）



会場計画（会場を構成する施設等）

庭園

庭園・花壇の種類	想定規模
公式参加者庭園	40,000m ²
一般参加者庭園	27,000m ²
開催地庭園	44,000m ²
主催者庭園	20,000m ²

その他

区分	想定規模
管理運営施設等 (試験植栽圃場、植物 バックヤード等)	31,000m ²

建築物

区分	想定規模 (延床面積)
展示建築施設 (シンボル展示、国内外の展示等)	9,500m ²
催事施設	1,500m ²
サービス施設 (診療所、案内所、 トイレ、休憩所等)	7,000m ²
営業施設(飲食施設、物販施設等)	13,000m ²
管理運営施設等 (運営本部、 ゲート、倉庫等)	17,000m ²

会場計画（施設配置計画）



※ 施設配置計画については、検討を進めていくなかで、変更される可能性があります。

会場計画（主な環境配慮事項及び公園に引き継ぐ施設）

準備書P. 2-22

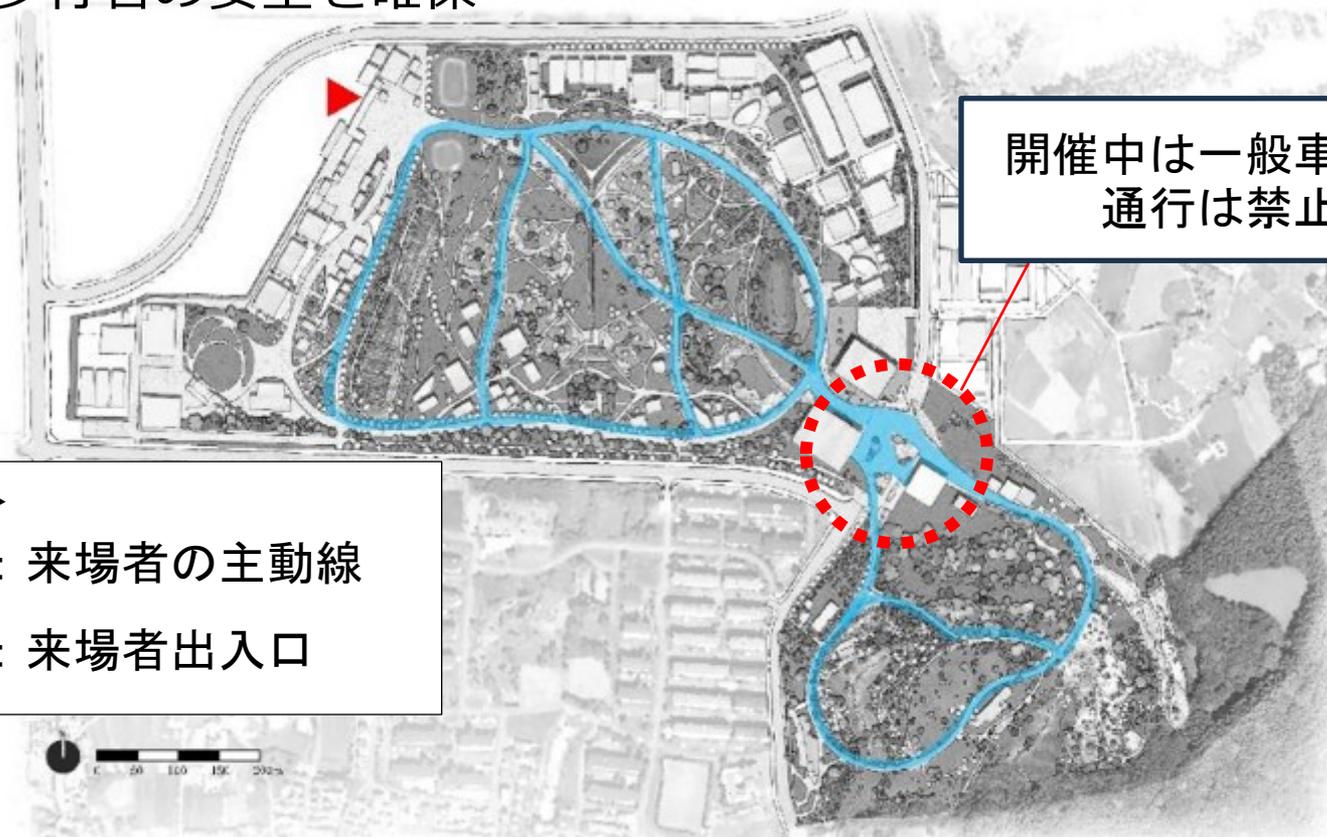


※ 保全・活用する施設等のうち、園路については、現在、横浜市と調整を進めており、本博覧会協会が想定するものを示したものです。今後の調整により変更となる可能性があります。

区分	展開イメージ	
環境 植栽	<p>会場のランドスケープの骨格となる景観木や並木、空間の背景となる緑地、大面積の草地を形成する既存樹木や高中木、芝生を中心とした植栽空間</p> <p>公園計画による植栽を生かした、土地の歴史を表す大径木や新植の樹木・芝等</p>	
修景 植栽	<p>主催者が主体となり、会場内の沿道等に展開し、ランドスケープを補完する宿根草や一年草を中心とした植栽空間及び添景</p> <p>プランターや壁面、ハンギングバスケット等の装置を用いて表現する花や緑による装飾</p>	

会場計画（動線計画）

- ・多くの来場者・利用者の安全な移動
- ・先端技術等により快適性向上や移動負担の軽減
- ・展示された花や緑を鑑賞しながら楽しく移動
- ・開催中は、新規に整備する区域内道路の一般車両の通行は禁止し、歩行者の安全を確保



開催中は一般車両の
通行は禁止

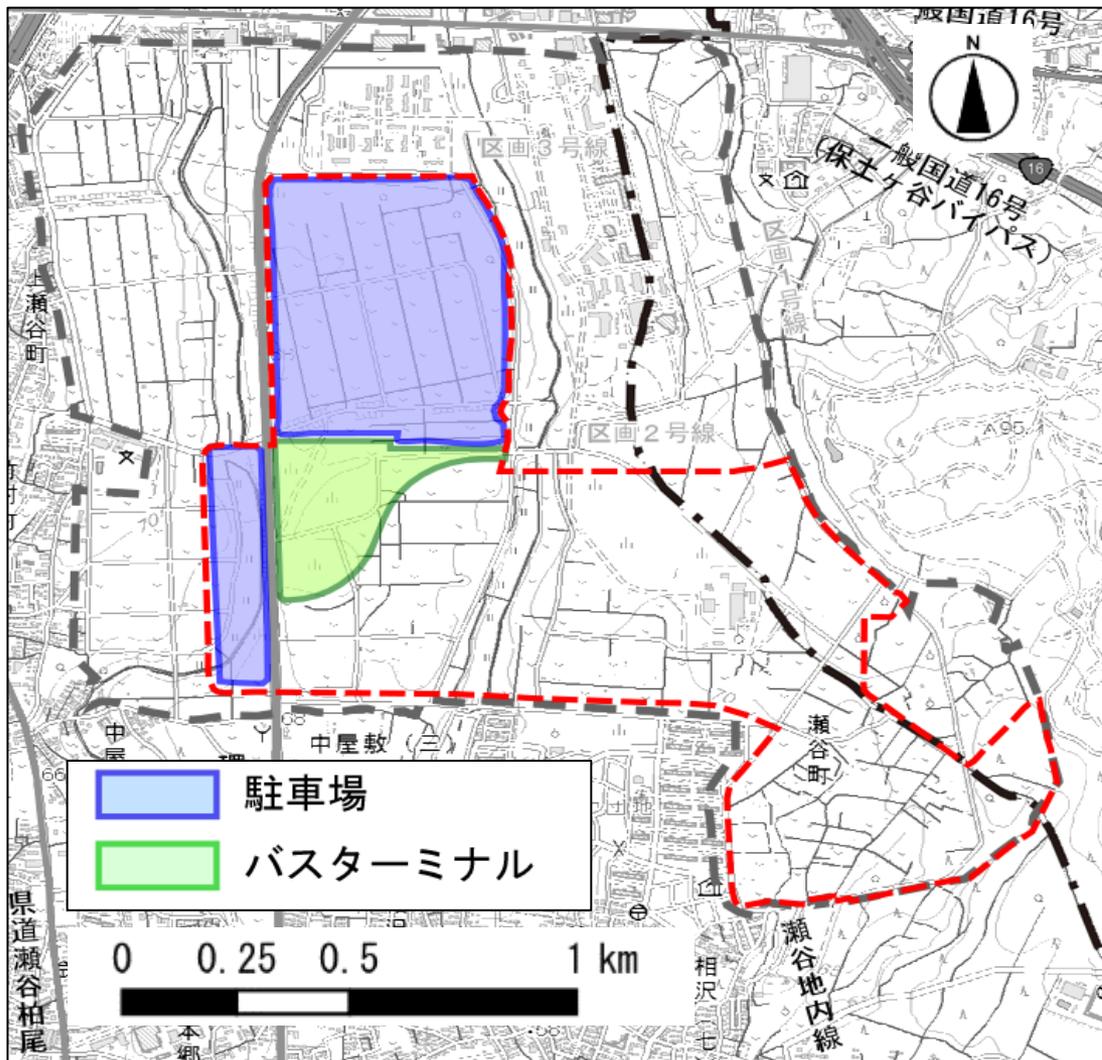
<凡例>

 : 来場者の主動線

 : 来場者出入口

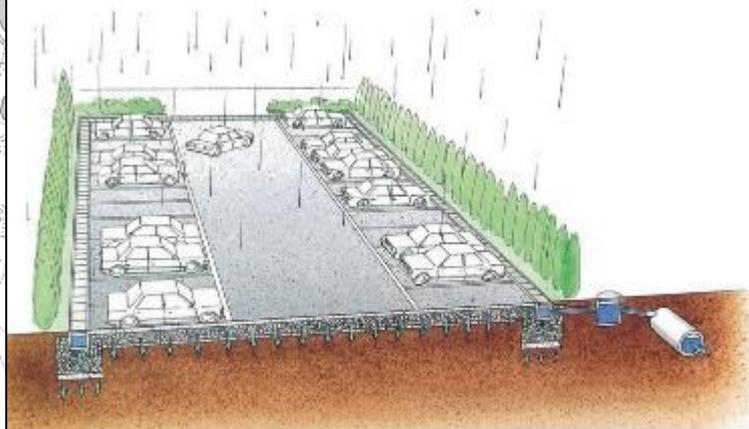
駐車場（配置、規模及び性状）

準備書P. 2-25, 26

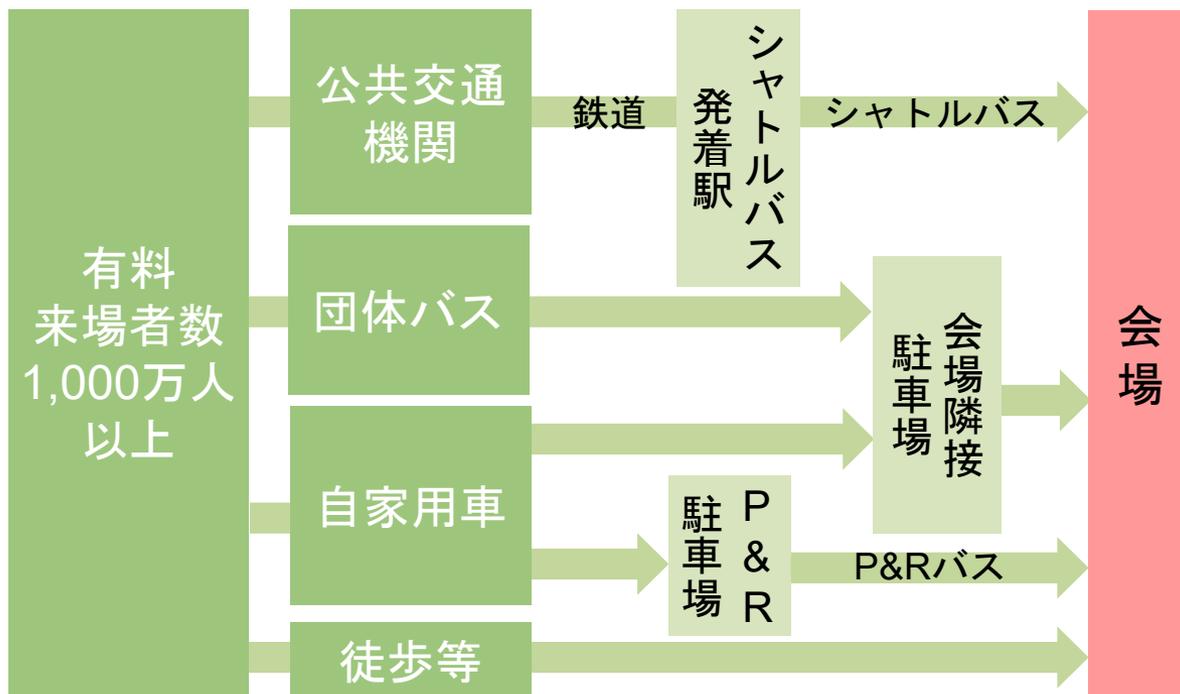


想定車両	想定台数
自家用車	5,400台
団体バス	800台

緑化と透水性舗装による
整備のイメージ



輸送計画



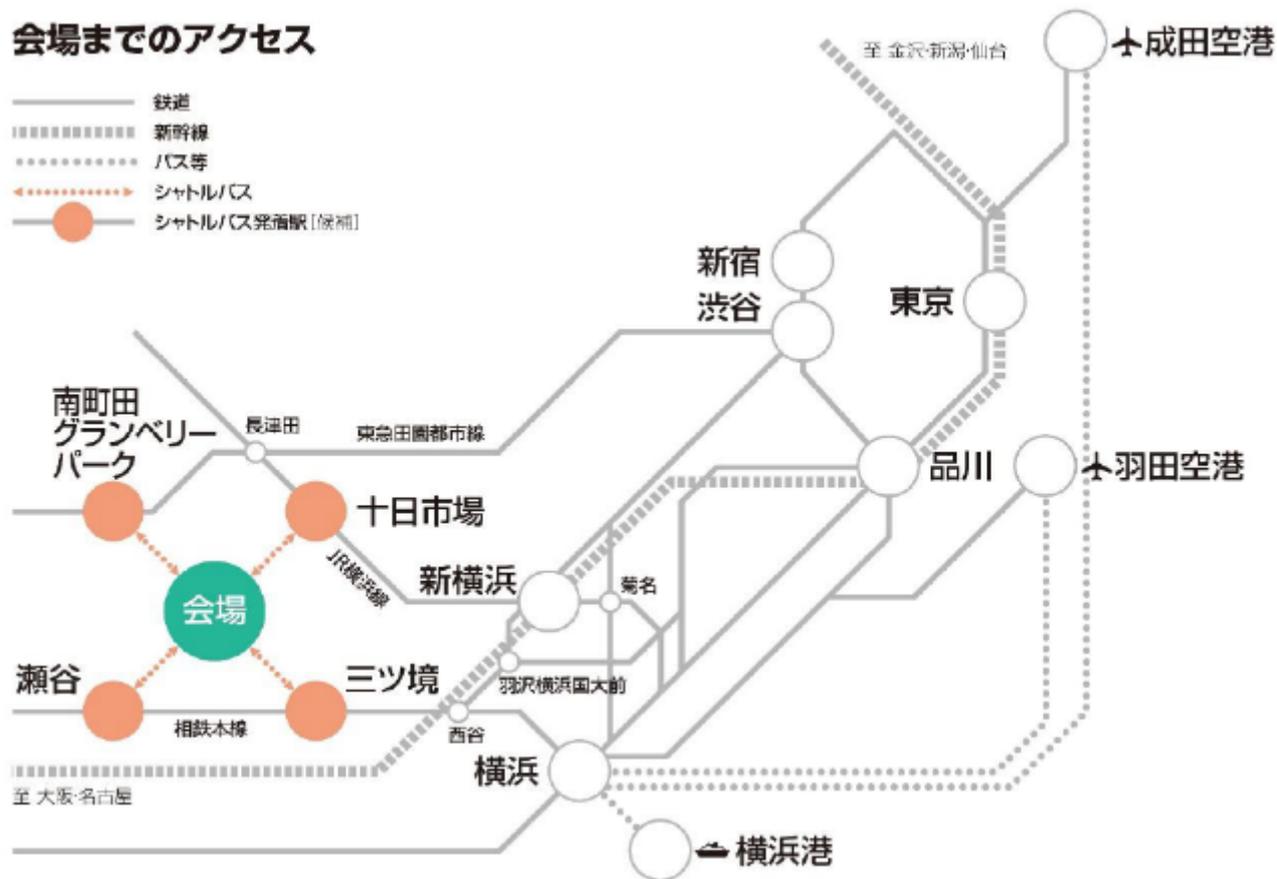
分担率	
公共交通機関	約 33%
団体バス	約 27%
自家用車	約 34%
徒歩等	約 6%
計	100%

来場者の想定

輸送の分類	公共交通機関	団体バス	自家用車	徒歩等	総数
多客日 (GW など10日程度)	約 4万人	約 1.6万人 (約500台)	約 4.3万人 (約 14,300 台)	約 0.6万人	約 10.5万人
休日平均	約 2.5万人	約 2.1万人 (約600台)	約 2.8万人 (約9,300台)	約 0.4万人	約 7.8万人
平日平均	約 1.7万人	約 1.6万人 (約500台)	約 1.7万人 (約5,700台)	約 0.3万人	約 5.3万人

会場までのアクセス

- 鉄道
- ⋯ 新幹線
- ⋯ バス等
- ⋯ シャトルバス
- シャトルバス発着駅 [仮補]



公共交通 (シャトルバス)

● 鉄道駅から

発着駅

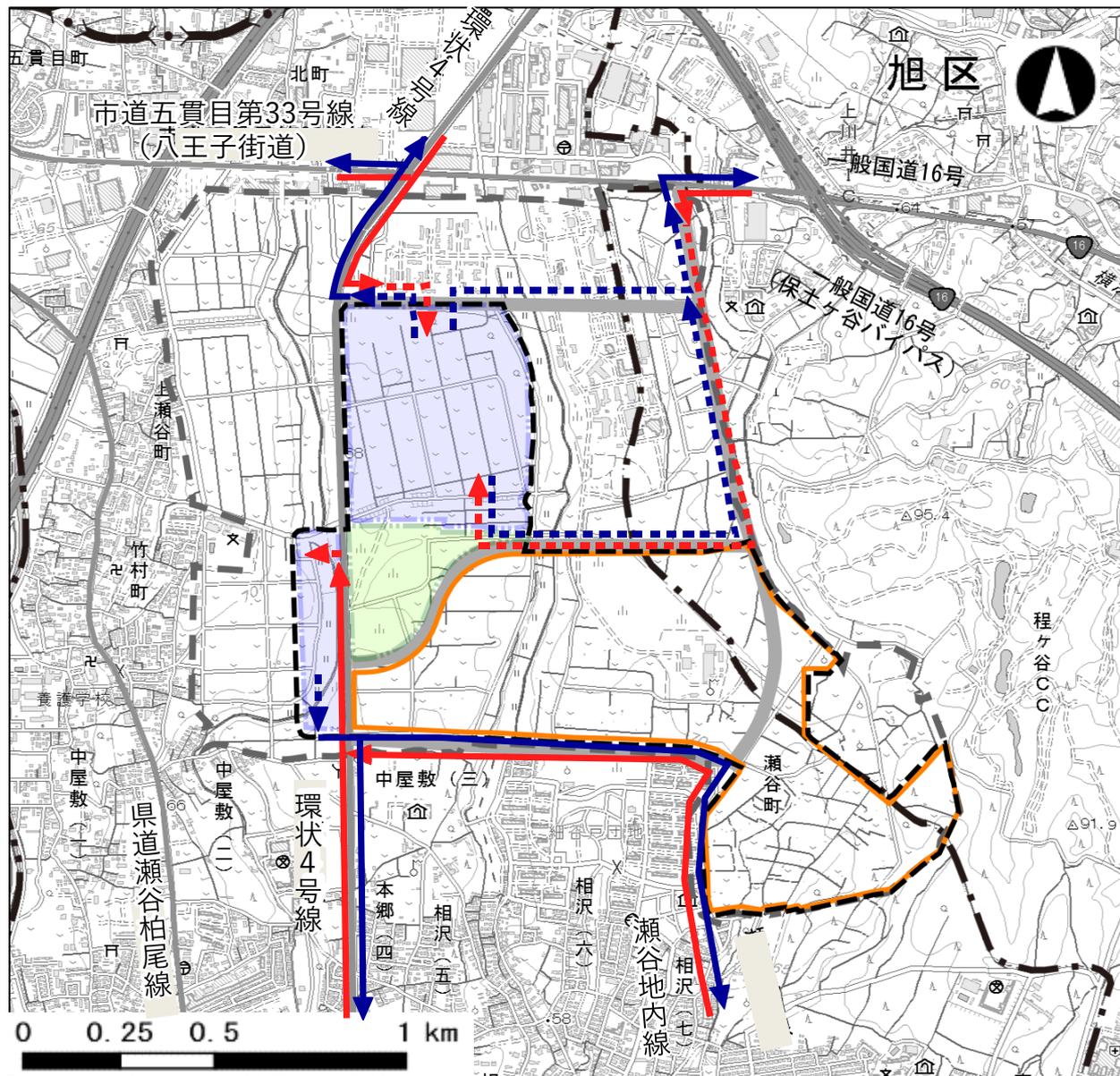
- 瀬谷駅
- 三ツ境駅
- 南町田
グランベリー
パーク駅
- 十日市場駅

● ターミナルからの 直行バス

発着駅

羽田空港、新横浜駅、横浜駅等を想定
(現時点)

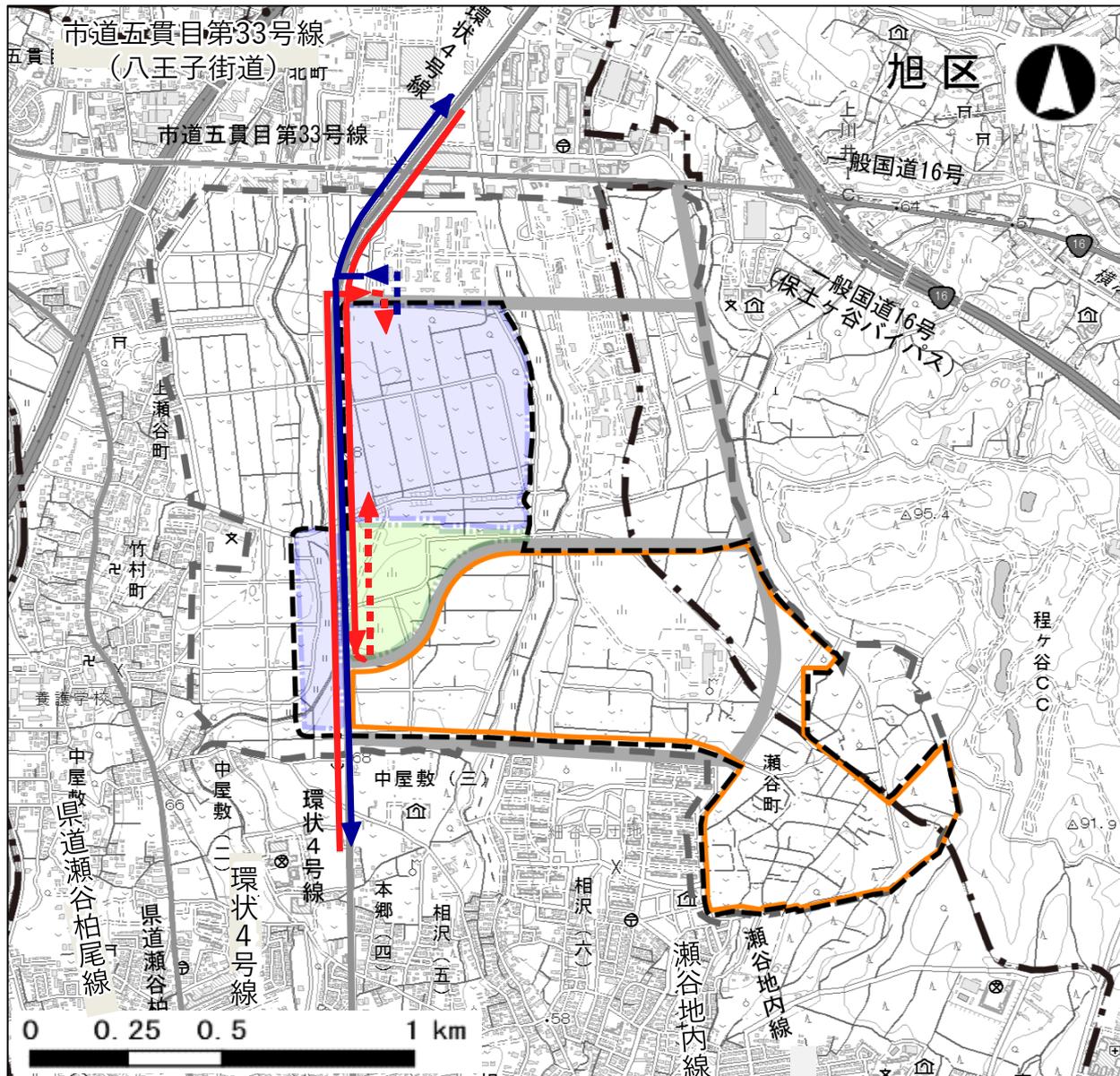
輸送計画（自家用車のルート）



※現時点での想定であり、変更する可能性があります。

-  駐車場
-  バスターミナル
-  入場
-  退場
- 破線は公道以外

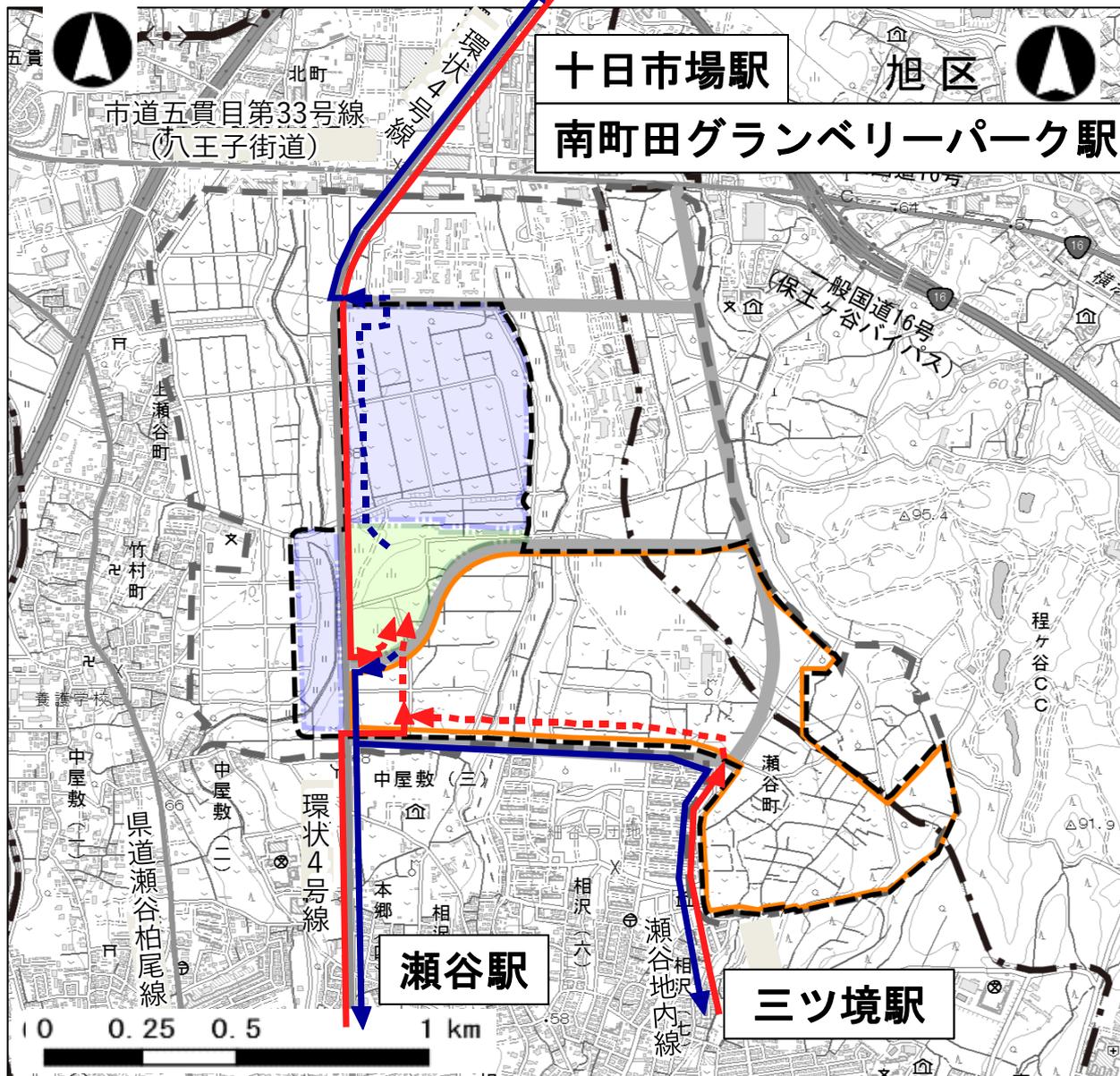
輸送計画（団体バスのルート）



※現時点での想定であり、変更する可能性があります。

-  駐車場
-  バスターミナル
-  入場
-  退場
- 破線は公道以外

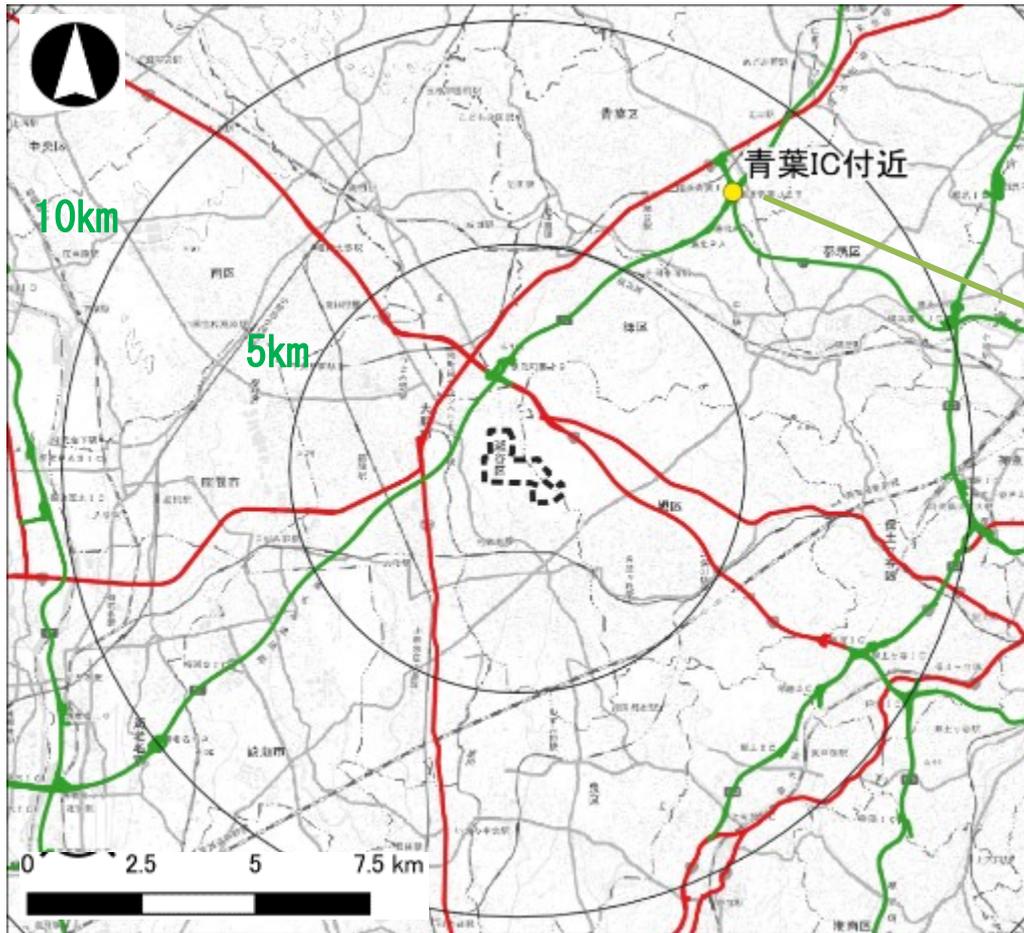
輸送計画(鉄道駅シャトルバスのルート)



※現時点での想定であり、変更する可能性があります。

-  駐車場
-  バスターミナル
-  入場
-  退場
- 破線は公道以外

輸送計画（混雑緩和対策）



凡例

- | | | | |
|--|---------------------|--|-----------|
| | 対象事業実施区域 | | 一般国道 |
| | パークアンドライド
駐車場候補地 | | 高速自動車国道など |
| | 会場からの距離 | | |



パークアンドライド
駐車場候補地
(約600台)

青葉IC付近

- ・パークアンドライド駐車場は約4,000台を確保
- ・会場まで概ね30分以内の距離
- ・輸送効率を考え1か所あたり約300台以上を想定
- ・既存駐車場の活用など施設整備費用の縮減

(1) 会場運営

- ・ 行催事としては、公式行事、主催者催事、ナショナルデー・スペシャルデー、参加者催事等を想定

(2) 物流

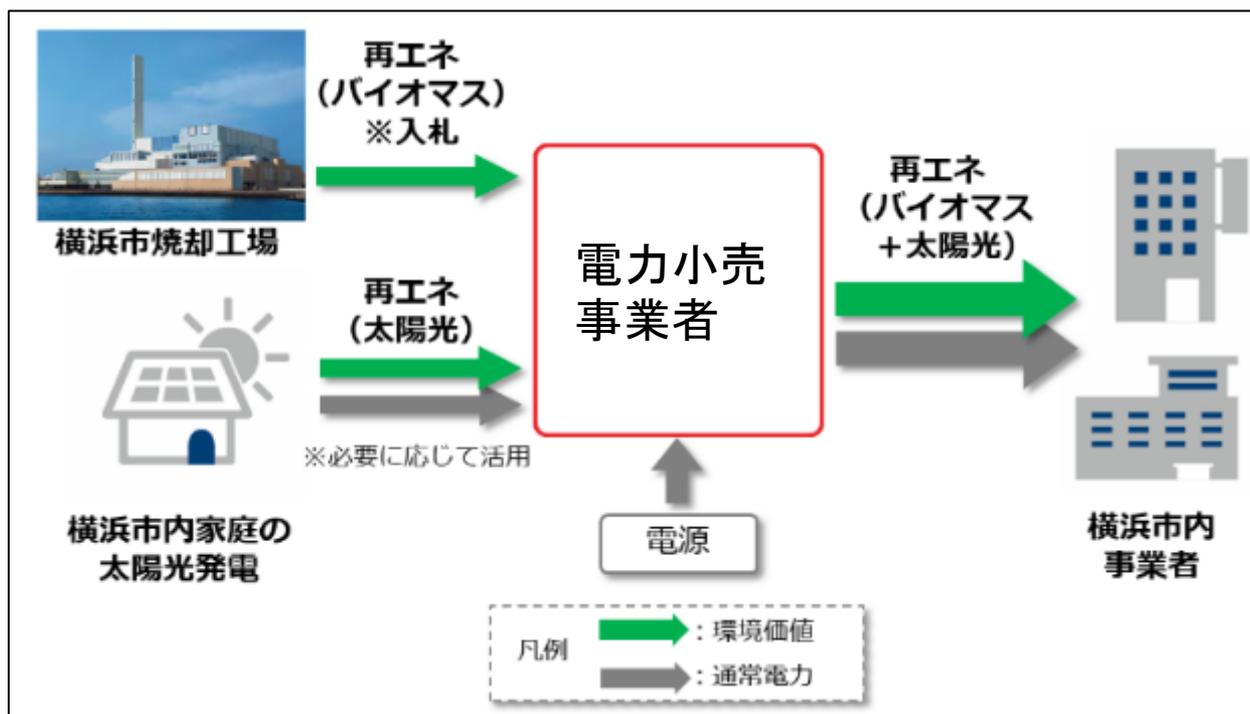
- ・ 海外からの公式参加者の展示品や関連資材の円滑な輸送・展示・保管等に対応
- ・ 貨物量の推定に基づき必要とされる物流運営体制を構築

(3) 廃棄物

- ・ 廃棄物は会場内ストックヤードに集約、横浜市内等の処分施設にて適切に処理
- ・ 食品ロスの削減に向けた取組、植物残渣等の堆肥化等廃棄物の減量化、3R（リユース、リデュース、リサイクル）を推進

(4) エネルギー

- ・ 電力については、再生可能エネルギーの100%活用を推進
- ・ 「エネルギーの地産地消」、太陽光発電などの「創エネ」の導入、省エネルギー、雨水利用等を推進



横浜市風力発電所 (ハマウィング)

はまっこ電気

資料：横浜市記者発表資料（令和4年3月24日）をもとに作成

(1) 植栽地管理

- ・生態系への影響が懸念される植物は慎重な取扱いを徹底。
- ・植物を良好な状態に保つため、適切な維持管理を実施。
- ・地域ボランティアの育成など、ソフトレガシーへの継承
- ・植物残渣は環境に配慮した手法で適切に処理
- ・農薬の飛散防止対策の徹底と生態系への影響が少ない種類の選定。

(2) 植物検疫等

- ・植物防疫法や外来生物法などの関係法令等に従って適切に取り扱われるよう、植物検疫所など関係機関と連携した体制を構築。
- ・植物検疫に関するガイドラインを策定し、参加国への周知徹底。



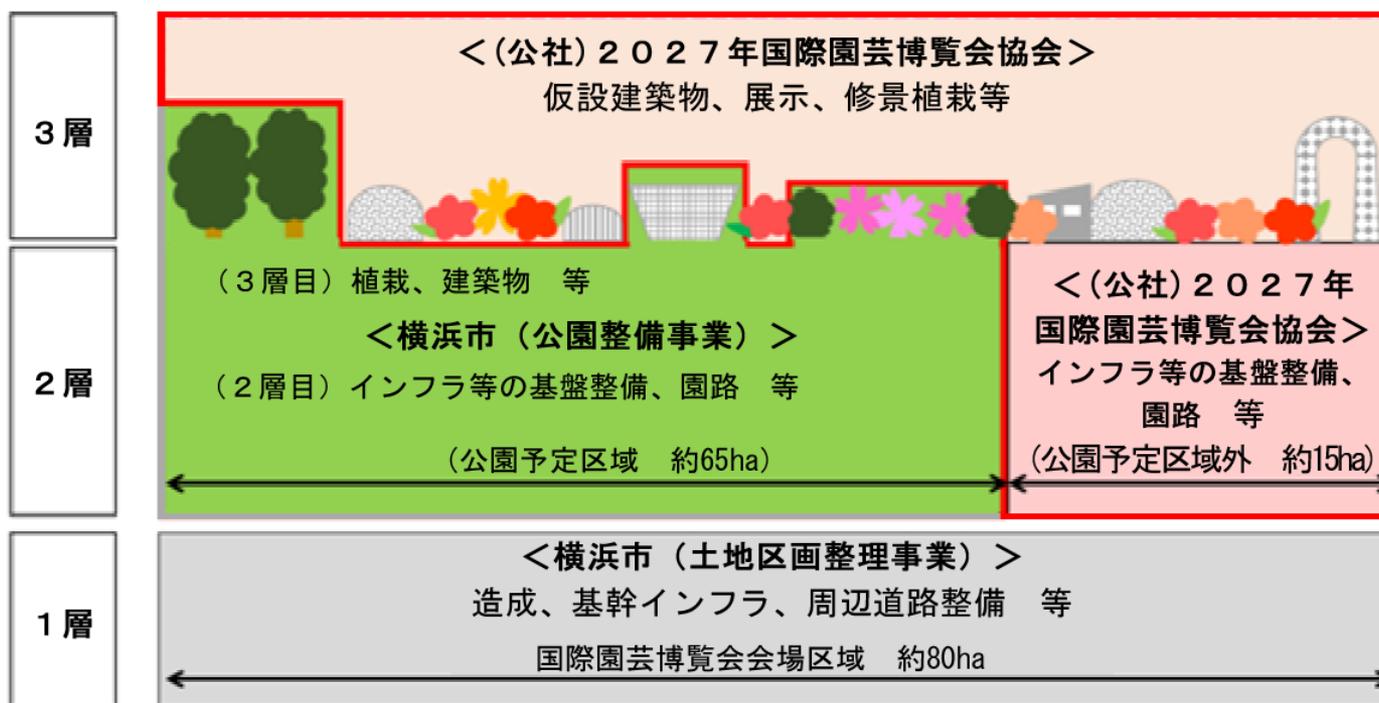
(1) テーマを展開するレガシーの方向性（10の方向性）

- Society5.0 の実現や新たな価値の創出
- みどりの食料システム戦略の推進
- 観光立国・地方創生の推進
- グリーンシティや自然と共生する暮らしの展開
- 将来のまちづくり
- 多様な主体の連携の普及
- 心豊かなライフスタイルの実現
- 花き園芸・造園・農の発展
- 花き園芸文化の定着
- 人材教育・育成

(2) 博覧会レガシーの展開（横浜市による公園としての利用）

- 横浜の市民力の発展、多様なコミュニティの醸成
- 自然と共生する都市モデルの発信拠点(グリーンインフラ実装の展開)
- 自然とともに生きるライフスタイルの提案
- 花き園芸や農に関する文化、技術の継承発信の拠点

- ・ 土地区画整理事業による造成や基幹インフラ等の整備
- ・ 公園整備事業による植栽、建築物、園路等の整備
- ・ 本博覧会が使用する仮設建築物や駐車場等を整備
- ・ 本博覧会で整備する仮設施設は開催後に撤去
- ・ 植栽などの施設の一部は公園整備事業に継承



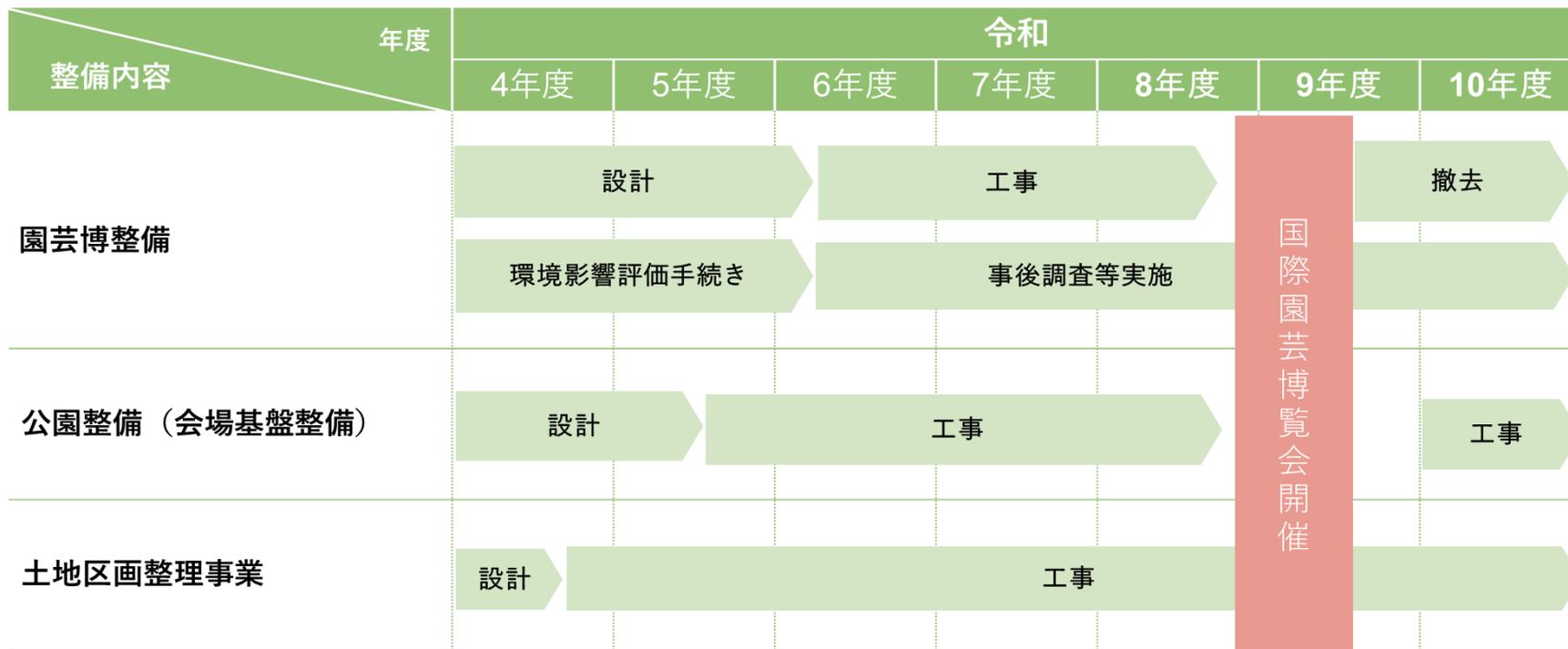


施工計画（工事工程）



準備書P. 2-41、43、44

- ・ 本博覧会の工事は令和6年度に着工
- ・ 関連事業と連携して工事の平準化を推進
- ・ 本博覧会の開催後は、速やかに仮施設等解体・撤去





施工計画（本博覧会の工事工程）



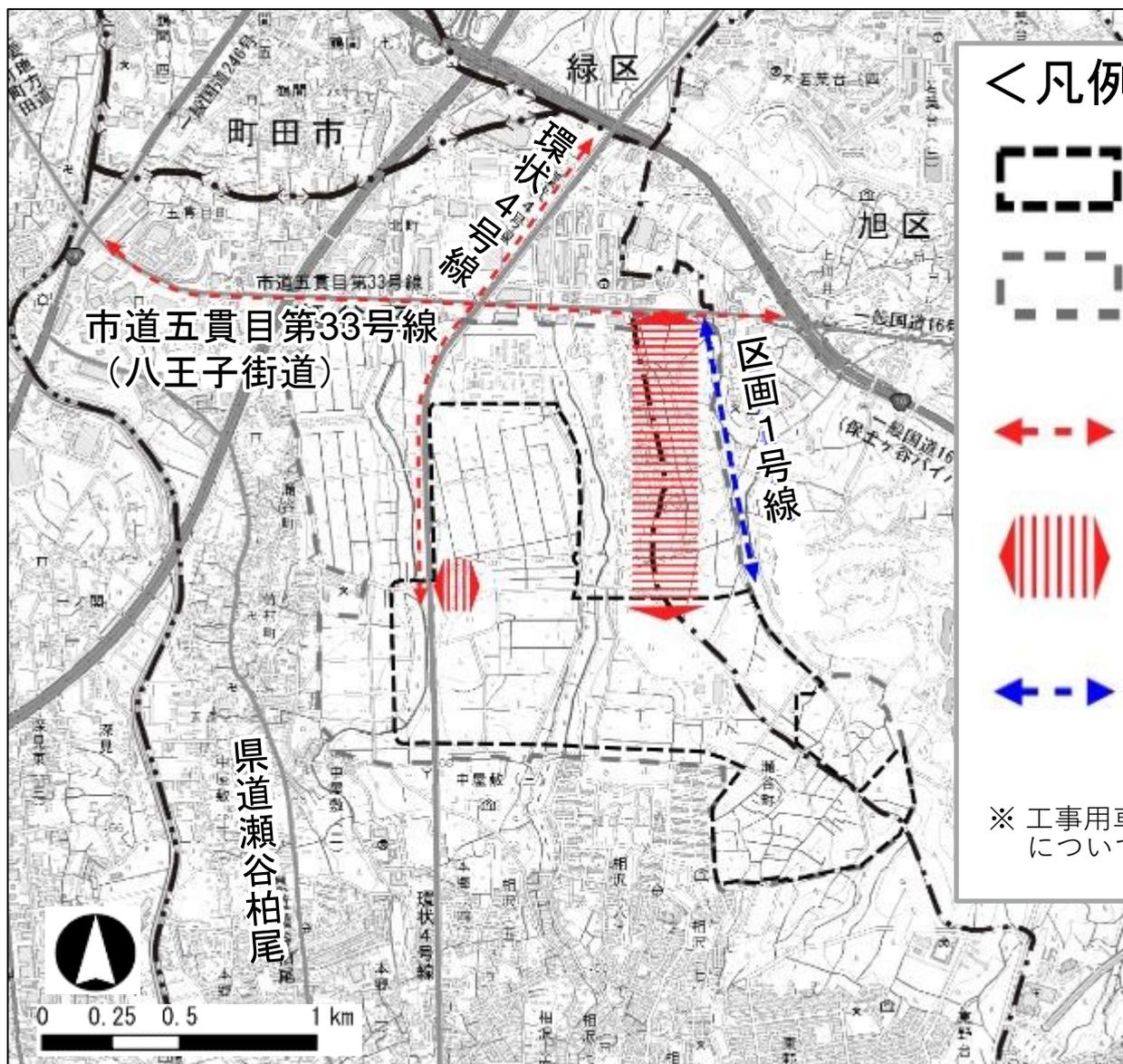
準備書P. 2-44

工種種別	令和							
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
着工準備期間	■							
準備工				■				
基盤整備工					■			
植栽工				■				
設備工					■			
園路広場工						■		
施設整備工					■			
出展整備工					■			
撤去・復旧工								■

2027年国際園芸博覧会

施工計画（工事用車両の走行ルート）

準備書P. 2-46



<凡例>

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  工事用車両の走行ルート
(工事中・撤去中)
-  工事用車両の専用出入口
(工事中)
-  工事用車両の走行ルート
(撤去中)

※ 工事用車両の専用出入口の詳細な位置・線形については、現時点で未定。

3. 環境影響評価項目

■ 工事中及び撤去中

環境影響評価項目及び細目		環境影響要因			
		建設機械の稼働	工事用車両の走行	建設行為等の実施	仮施設等 の撤去
温室効果ガス		○/◎	○/◎	○	
生物多様性	動物／植物／生態系			○	◎
水循環	地下水水位及び湧水の流量			○	
廃棄物	一般廃棄物			○	◎
	産業廃棄物			○	◎
大気質	大気汚染	○/◎	○/◎		
騒音		○/◎	○/◎		
振動		○/◎	○/◎		
地域社会	交通混雑		○/◎		
	歩行者の安全		○/◎		
触れ合い活動の場			○/◎		

注：「○」は工事中、「◎」は撤去中を示します。

開催中

環境影響評価項目及び細目		環境影響要因			
		会場施設等の存在	施設の供用	関係車両の走行	外来植物を含む植栽等の管理
温室効果ガス			●	●	●
生物多様性	動物／植物／生態系	●	●		●
水循環	地下水位及び湧水の流量	●			
	河川の形態、流量	<u>●</u>			●
廃棄物	一般廃棄物		●		●
	産業廃棄物		●		●
大気質	大気汚染			●	
騒音			●	●	
振動				●	
地域社会	交通混雑			●	
	歩行者の安全			●	
景観		●			
触れ合い活動の場			●	●	

注：赤字下線部：「方法書」からの変更点を示します。

4. 環境影響評価の概要

- 本博覧会の着工直前の整備前の状況をもとにして、本博覧会の実施による影響について予測、評価を実施
- 関連事業において実施された現地調査の結果を引用し、現況把握に活用

環境影響評価項目	現地調査	土地区画 整理事業	公園整備 事業	博覧会 事業
温室効果ガス	—	—	—	—
生物多様性	○	○	○	—
水循環(湧水の流量、河川の流量)	○	○	○	—
廃棄物・建設発生土	—	—	—	—
大気質	○	○	—	—
騒音	○	○	—	—
振動	○	○	—	—
地域社会(交通混雑、歩行者の安全)	○	○	—	—
景観	○	○	○	○
触れ合い活動の場	○	○	—	—

温室効果ガス



予測結果

準備書P. 6.1-19、21、22、24

工事中（建設機械の稼働、工事用車両の走行、建設行為の実施）

工事中の二酸化炭素排出量		
建設機械の稼働	約 11,651 tCO ₂ /期間	工事中合計 約22,492 tCO ₂
工事用車両の走行	約 10,601 tCO ₂ /期間	
建設行為等の実施	約 240 tCO ₂ /期間	

撤去中（仮設施設等の撤去）

撤去中の二酸化炭素排出量		
建設機械の稼働	約 3,832 tCO ₂ /期間	撤去中合計 約13,481 tCO ₂
工事用車両の走行	約 9,649 tCO ₂ /期間	



主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.1-38、16

工事中及び撤去中

- 建設機械等の整備・点検を徹底して性能を維持
- 会場施設については、公園整備事業の建築物を利活用するとともに、仮設施設はレンタル・リースを採用することで、工事に係る建設機械の稼働台数を削減
- 工事用車両は、エネルギー効率の高い低燃費の車種を使用
- 工事中は植物バックヤード等における効率的な温度管理を実施

●環境保全目標

温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を可能な限り抑制すること



予測結果

準備書P. 6.1-28、29、32、33、35、41～43

開催中（関係車両の走行、施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理）

開催中の二酸化炭素排出量		
関係車両※の走行	約 31,077 tCO ₂ /期間	開催中合計 約35,597 tCO ₂
施設の供用	約 4,417 tCO ₂ /期間	
外来植物を含む 植栽等の管理	約 103 tCO ₂ /期間	

※関係車両：来場車両（自家用車、団体バス、シャトルバス）、運営資材の搬入車両、廃棄物の収集車両 など

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.1-28、29、32、33、35、41~43

開催中(関係車両の走行、施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理)

環境保全措置による温室効果ガスの削減量	
給湯設備に高効率給湯器を導入	約111tCO ₂
電力は、再生可能エネルギーを100%活用	約3,627tCO ₂
合計	約3,737tCO ₂

※四捨五入の関係で合計数値が合わない。

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.1-39、40

開催中（関係車両の走行、施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理）

- エコドライブの徹底、電気自動車等の導入等の実施
- 水や風、光などの自然環境を有効に活用した、エネルギー消費の軽減を重視した会場設計
- 環境に配慮した素材を選び、特に国産木材等を積極的に使用
- 高効率給湯器の利用や電力の再生可能エネルギー100%活用
- AIPHの規則等に基づき、今後、サステナビリティ戦略※等を策定し、温室効果ガスの削減等に関する取組を推進

●環境保全目標

温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を可能な限り抑制すること

※ AIPHが国際園芸博覧会の主催者に対し、AIPHの規則等に基づき策定を求めているサステナビリティ（持続可能性）に関する戦略。

生物多様性（動物、植物、生態系）

調査結果（主な生息・生育環境の区分）

準備書P. 6.2-35

<凡例>

- 対象事業実施区域
- 河川・池沼
- 地域区分
- 保全対象種の生息・生育環境
- 地上式調整池（調整池4）
- 困障区域



調査結果（注目すべき種）（動物）

準備書P. 6.2-37~102

主な生息環境		区分	注目すべき種	
区内	①人工的土地利用域	一般鳥類、猛禽類	7種	モズ、ツバメ、カワラヒラ等
	②相沢川周辺の谷戸地域	一般鳥類、猛禽類、両生類、昆虫類、爬虫類、底生動物	16種	ハナグロトンボ、ヤマサナエ、シュレーゲルアオガエル、ヤマカガシ、オオヨシキリ等
	③樹林が点在する広大な草地	一般鳥類、猛禽類、昆虫類	14種	オオヨシキリ、ヒバリ、ショウリョウバッタモドキ、モズ、ツバメ、セッカ等
	④和泉川源流域	一般鳥類、猛禽類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物	19種	ホトケドジョウ、ヤマサナエ、アズマヒキガエル、ヒバリ、セッカ、クツワムシ等
	⑤樹林が点在する耕作地域	一般鳥類、猛禽類、爬虫類、昆虫類	22種	モズ、ヒバリ、ツバメ、カワラヒワ、ヒガシニホントカゲ、ナツアカネ等
	⑥堀谷戸川左岸の耕作地域	一般鳥類、猛禽類	7種	ツバメ、セッカ、ツミ等
区外	⑦住宅地域	一般鳥類、猛禽類	7種	ノスリ、サシバ、ハヤブサ等
	⑧樹林域	一般鳥類、猛禽類、両生類、爬虫類、昆虫類、ホタル類	22種	フクロウ、ミサゴ、ヒガシニホントカゲ、キイロトラカミキリ、ゲンジボタル等

調査結果（注目すべき種）（植物）

準備書P. 6.3-23～30

主な生息環境		区分	注目すべき種	
区域内	①人工的土地利用域	—	0種	—
	②相沢川周辺の谷戸地域	維管束植物、 付着藻類	4種	ウスゲチョウジタデ、ミズタカモジ、アオカワモズク、シャジクモ
	③樹林が点在する広大な草地	—	0種	—
	④和泉川源流域	—	0種	—
	⑤樹林が点在する耕作地域	維管束植物	2種	ヒロハノカワラサイコ、ウスゲチョウジタデ
	⑥堀谷戸川左岸の耕作地域	—	0種	—
区域外	⑦住宅地域	—	0種	—
	⑧樹林域	維管束植物	4種	ヤブムグラ、アマナ等

注1：重要な種の保護の観点から、一部の種を非表示としております。

調査結果（生態系の注目種等）

準備書P. 6.4-12

地域を特徴づける生態系	植生、土地利用	区分	注目種等
①低地の樹林・畑地・草地の生態系	<ul style="list-style-type: none"> メヒシバーエノコログサ群落、畑地が優占 コナラ群落、スギ・ヒノキ植林及びムクノキ・エノキ群落が分布 人により利用されている場所が多い 	上位性	オオタカ
		典型性	タヌキ
			ヒバリ
			トノサマバツタ
			落葉広葉樹林
②湿性低地・河川の生態系	<ul style="list-style-type: none"> 相沢川沿いは、畑地、水田、休耕田が分布し、人により利用されている場所が多い 和泉川沿いは、チガヤ群落、オギ群落、植栽樹林が分布し、関係者以外立ち入りが禁止されている 	上位性	シマヘビ
		典型性	シオカラトンボ
		特殊性	ホトケドジョウ

注：上表の記載内容は既存資料（土地区画整理事業）における現地調査結果に基づきます。47

予測地域及び予測項目

予測の前提となる事項

- 対象事業実施区域内は、横浜市の土地区画整理事業の造成工事により全域が改変される可能性
- 横浜市の土地区画整理事業によって相沢川周辺の谷戸地域及び和泉川源流域には保全対象種の生息・生育環境及び地上式調整池（調整池4）が整備・創出
- 本博覧会では開催に必要な範囲の整地及び庭園や植栽などの施設等の設置を実施
- 本博覧会の実施により、間接的影響を受けるおそれがあると認められる地域を対象として予測を実施

予測地域及び予測項目

準備書P. 6.2-114、6.3-37

予測地域		予測時期		
		工事中	開催中	撤去中
区域内	①人工的土地利用域			
	②相沢川周辺の谷戸地域	◎	◎	◎
	③樹林が点在する広大な草地域			
	④和泉川源流域	◎	◎	◎
	⑤樹林が点在する耕作地域			
	⑥堀谷戸川左岸の耕作地域			
区域外	⑦住宅地域	○注	○注	○注
	⑧樹林域	◎	◎	◎

工事中の夜間照明、騒音・振動、雨水・汚水排水等による間接的影響

会場施設等の存在及び施設の供用に伴う間接的影響

工事中の夜間照明、騒音・振動、雨水・汚水排水等による間接的影響

注：○については、動物のみ予測評価の対象



予測結果（動物、植物、生態系）

準備書P. 6.2-122、6.3-40、41、6.4-24

工事中（建設行為等の実施）、撤去中（仮設施設等の撤去）

- 本博覧会では保全対象種の生息・生育環境や、市民の森等の樹林域等の周辺で工事を実施するが、これらの環境は改変しない
- 工事中は作業時間の順守等の配慮をすることから、動物、植物及び生態系への影響を軽減できると予測
- 新たに配慮すべき動植物が、駐車場・バスターミナルの整備区域に定着しないよう、適切に管理することから、動物、植物及び生態系への影響は軽減できると予測



主な環境の保全のための措置（動物、植物、生態系）



準備書P. 6.2-126、113、6.3-42、36、6.4-29、19

工事中（建設行為等の実施）、撤去中（仮設施設等の撤去）

- 夜間作業は行わないなど、作業時間を遵守
- 工事敷地境界には仮囲いを設置
- 最新の低騒音、低振動型の建設機械を使用
- 駐車場等の区域に新たに配慮すべき動植物が定着しにくくなるよう対策を検討

● 環境保全目標

- 注目すべき種の動物相及びその生息環境への影響を最小限に留めること **【動物】**
- 注目すべき種の植物相及びその生育環境への影響を最小限に留めること **【植物】**
- 地域の生物多様性に係る影響を最小限に留めること **【生態系】**



予測結果（動物、植物、生態系）

準備書P. 6.2-124、6.3-41、6.4-25

開催中（会場施設等の存在、施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理）

【対象事業実施区域全体】

- 郷土種を用いた多様な植物の植栽を行うとともに、既存樹木、表土の保全・活用に努めることから、動物、植物及び生態系への影響は軽減できると予測
- 開催中に行催事を実施しますが、音響設備の音量や稼働時間についての、適切なルールを設定することから、動物相及び生態系への影響は軽減できると予測
- 会場に持ち込まれる植物等については、関係法令等に基づくガイドライン等で周知徹底を図るなど、適切な管理を行うことから、動物、植物及び生態系への影響は軽減できると予測



予測結果（動物、植物、生態系）

準備書P. 6.2-124、125、6.3-41、42、6.4-25～27

開催中（会場施設等の存在、施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理）

【相沢川周辺の谷戸地域・和泉川源流域】

- 保全対象種の生息・生育環境等に配慮した園路の配置及び利用とすることから、動物、植物及び生態系への影響は軽減できると予測
- 樹林地内や水辺の利用を制限し、人と自然環境との距離を適切に確保することから、動物、植物及び生態系への影響はほとんどないと予測
- 市民の森等の隣接部は、多数の来場者が長時間に亘って滞在する施設は配置しないことから、動物、植物及び生態系への影響は軽減できると予測

【住宅地域・樹林域】

- 夜間の行催事では、照明の向きや照度等への配慮など適切な運営ルールとすることから、影響は軽減できると予測



主な環境の保全のための措置（動物、植物、生態系）



準備書P. 6.2-127、128、6.3-43、6.4-30、31

開催中（会場施設等の存在、施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理）

【対象事業実施区域全体】

- 郷土種を用いた多様な植栽を行うとともに、既存樹木、表土の保全・活用に努め、植栽を適切に維持管理
- 現存する草地環境（乾性草地）の一部を活用して整備する広場については公園整備事業に継承
- 音響設備の音量、稼働時間についても適切なルールを作成
- 種子による繁殖が想定される植物については、定期的に植替
- 関係法令に基づき、会場に持ち込まれる植物等のガイドラインを作成し、参加者等に周知徹底



主な環境の保全のための措置（動物、植物、生態系）



準備書P. 6.2-127、128、6.3-43、6.4-30、31

開催中（会場施設等の存在、施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理）

【相沢川周辺の谷戸地域・和泉川源流域】

- 保全対象種の生息・生育環境等の周辺は、園路の配置及び利用計画に配慮し、保護エリアとして人と自然との距離を適切に確保
- 市民の森等の隣接部は、多数の来場者が長時間に亘って滞在する施設は配置しない

【住宅地域・樹林域】

- 夜間の行催事では、照明の向きや照度等への配慮など適切な運営ルールを作成

●環境保全目標

- ・ 注目すべき種の動物相及びその生息環境への影響を最小限に留めること **【動物】**
- ・ 注目すべき種の植物相及びその生育環境への影響を最小限に留めること **【植物】**
- ・ 地域の生物多様性に係る影響を最小限に留めること **【生態系】**

水循環（湧水の流量、河川の流量）



予測結果

準備書P. 6.5-18

工事中（建設行為等に伴う湧水の変化）

- 帯水層を遮断するような連続的な土地の改変は行わないため、帯水層への影響は小さいと予測
- 本博覧会で湧水源の直接改変を行わない
- 和泉川源流域では、現況の地形、地層をいかして浸透水から水路への流れを保全するとともに、瀬谷市民の森に隣接する既存樹林地を保全することから、湧水の分布及び流量への影響は小さいと予測
- 堀谷戸川の集水域では、横浜市の土地区画整理事業で、既存樹林を可能な限り保全し、必要な環境保全措置が実施されることから、湧水の分布及び流量への影響は小さいと予測

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.5-25、15

工事中（建設行為等に伴う湧水の変化）

- 土地区画整理事業により保全される地形や樹林地等をいかし、既存樹の移植、郷土種を用いた多様な植物の植栽や、表土の保全・活用に努める
- 庭園や植栽等の整備を計画している範囲では、裸地を早期緑化して雨水の地中浸透量を確保

●環境保全目標

湧水の分布及び流量の変化を最小限とすること



予測結果

準備書P. 6.5-22

開催中（会場施設等の存在に伴う湧水及び河川の変化）

- 本博覧会での水利用・排水処理は上下水道を利用し、地下水の揚水は行わない
- 雨水浸透枘の設置などにより、地下浸透させることで、降雨直後の河川への流出量の増加分を、一定程度減少させることができるかと予測
- 横浜市の土地区画整理事業及び公園整備事業で整備される、調整池、礫間貯留、バイオスウェル^注、透水性舗装等の雨水浸透貯留施設も活用・維持管理
- 以上により、和泉川、堀谷戸川、大門川、相沢川の各流域における湧水及び河川の流量への影響は小さいと予測

注：バイオスウェル（緑溝）：雨水を一時貯留し、地下浸透させる機能を持つ、帯状の施設。面的に整備したものはレインガーデン（雨庭）と呼ばれる。


 予測結果

準備書P. 6.5-26

開催中（会場施設等の存在に伴う湧水及び河川の変化）

有効流出量の変化	流 域				4 流域計
	和泉川	堀谷戸川	大門川	相沢川	
整備前の有効流出量 (m ³) [a]	20,647	11,705	38,364	46,265	116,980
開催中の有効流出量 (m ³) [b]	20,802	14,044	41,288	51,254	127,387
流出量の変化 (m ³) [b - a]	155	2,339	2,924	4,989	10,407
流出量の比較 [b/a]	1.01	1.20	1.08	1.11	1.09

注：有効流出量 = 降雨量 × 流域面積 × 流出係数。降雨量は10年確率降雨（205mm/24時間）

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.5-25

開催中（会場施設等の存在に伴う湧水及び河川の変化）

- 横浜市により保全される地形や樹林地等をいかし、既存樹の移植や郷土種を用いた植物を植栽
- 横浜市の公園整備事業により整備される礫間貯留、透水性舗装等の浸透・貯留施設を活用
- 駐車場・バスターミナルや園路などは、できる限り透水性の素材で構成
- 駐車場・バスターミナルや主要な建築物に浸透枘や浸透トレンチ、園路周辺にバイオスウェルを設置

●環境保全目標

湧水の分布及び流量、河川の流量の変化を最小限とすること

予測結果、主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.5-24、15

開催中（植栽等の管理に伴う河川の変化）

（予測結果）

- 庭園や植栽への灌水は主として水道水を利用する計画であり、下流の河川流量に対する影響は生じないと予測

（主な環境の保全のための措置）

- 庭園や植栽への灌水は主として水道水を利用

●環境保全目標

河川の流量の変化を最小限とすること

廃棄物



予測結果

準備書P. 6.6-19、20

工事中(建設行為等の実施)

区分	発生量	再資源化量	処分量
一般廃棄物	—	—	—
産業廃棄物	約 2,286t	約 2,027t	約 259t

※一般廃棄物：植物残渣

※産業廃棄物：建築工事及び植栽管理によるもの

撤去中(仮設施設等の撤去)

区分	発生量	再資源化量	処分量
一般廃棄物	約14t	—	約14t
産業廃棄物	約 201,146t	約 200,738t	約 408t

※一般廃棄物：植栽や庭園の撤去に伴う植物残渣

※産業廃棄物：仮設建築物、仮設工作物（園路広場駐車場の舗装、浸透枘等、照明灯）

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.6-28

工事中(建設行為等の実施)

環境の保全のための措置	廃棄物削減量 ※発生量における削減量
公園施設の利活用	約 244t
建築物のレンタル・リース	約 845t
合計	約 1,089t

撤去中(仮設施設等の撤去)

環境の保全のための措置	廃棄物削減量 ※発生量における削減量
公園施設の利活用	約 2,095t
建築物のレンタル・リース	約 23,825t
合計	約 25,920t

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.6-26、12

工事中及び撤去中

- 会場施設は公園施設を利活用するとともに、基礎の設置を伴わないレンタル・リースを採用
- 植物トレーやポット等はリユース（返却）を推進
- 工事関係者に対して、廃棄物の減量化及び分別の徹底を啓発

●環境保全目標

工事及び撤去により発生する一般廃棄物及び産業廃棄物の発生抑制・再利用・再資源化、並びにこれらの適正な処理が行われること

開催中（施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理）

区分	発生量	再資源化量	処分量
一般廃棄物	約 3,159 t	約 882 t	約 2,277 t
産業廃棄物	約 1,175 t	約 854 t	約 321 t

※一般廃棄物：可燃ごみ、パンフレット・OA用紙等、食品残渣、不燃ごみ、植物残渣

※産業廃棄物：プラスチック類、ペットボトル、びん、缶、廃食用油、植物ポット・トレー

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.6-27、12

開催中(施設の供用、外来植物を含む植栽等の管理)

- 来場者や出展者等に対し、食品ロス削減や分別の徹底等について周知
- 植物残渣については、焼却等処分が必要なものを除き、可能な限り堆肥化を推進
- 植物トレーやポット等の産業廃棄物はリユース（返却）を推進
- 発生した廃棄物は分別し、可能な限り再資源化
- AIPHの規則等に基づき、今後、サステナビリティ戦略等を策定し、廃棄物の削減等に関する取組を推進

●環境保全目標

開催に伴い発生する一般廃棄物及び産業廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用、並びにこれらの適正な処理が行われること

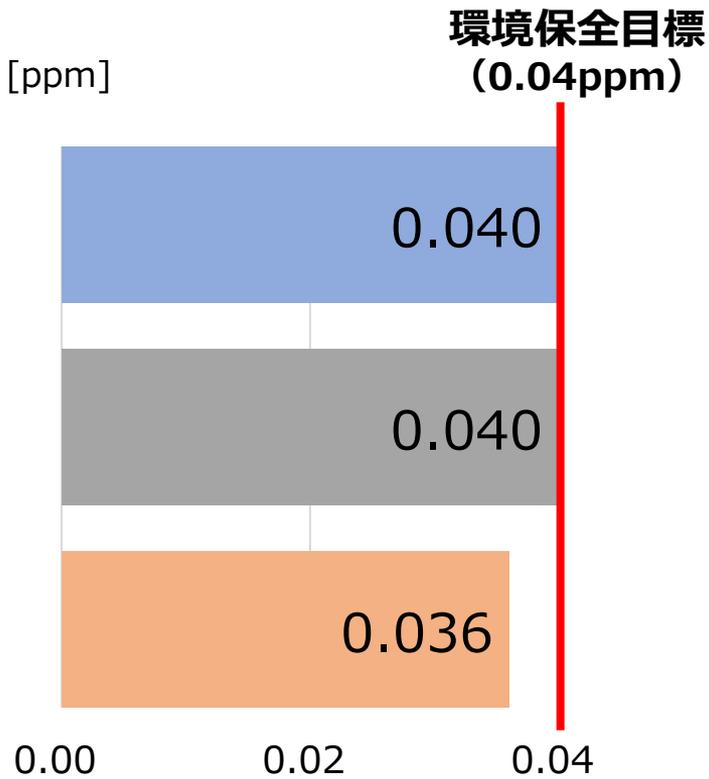
大気質

予測結果

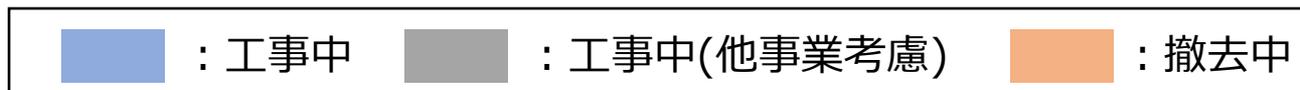
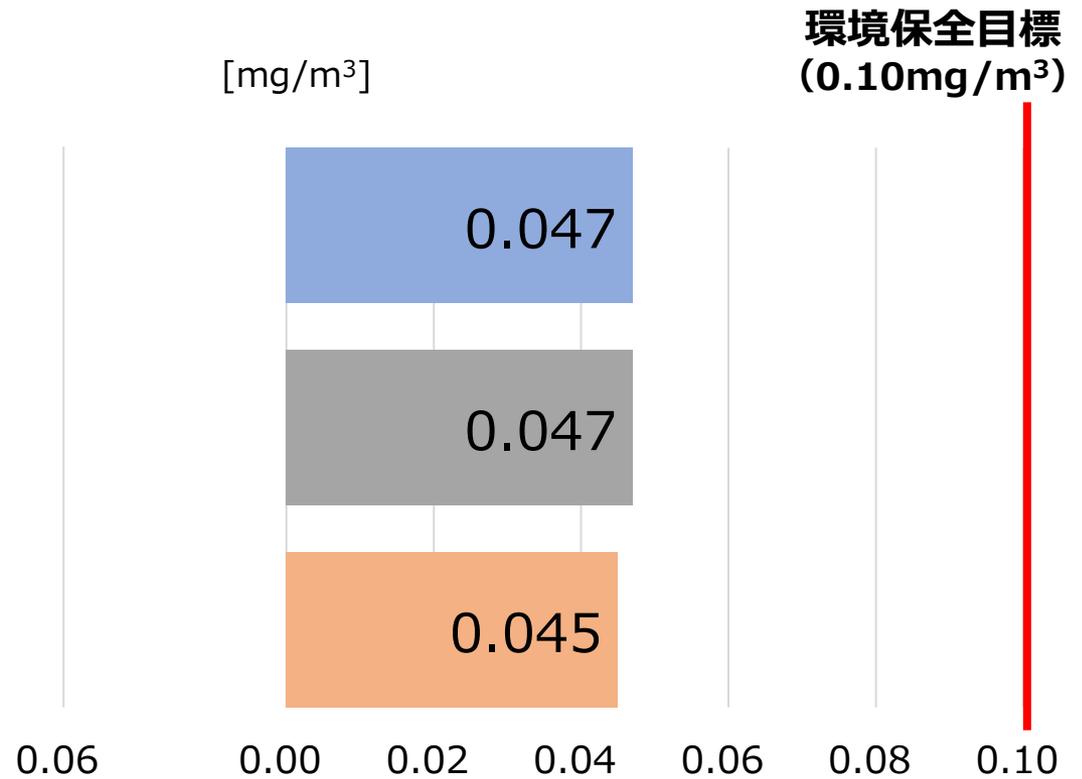
準備書P. 6.7-42~50

工事中(建設機械の稼働)

■ 二酸化窒素



■ 浮遊粒子状物質

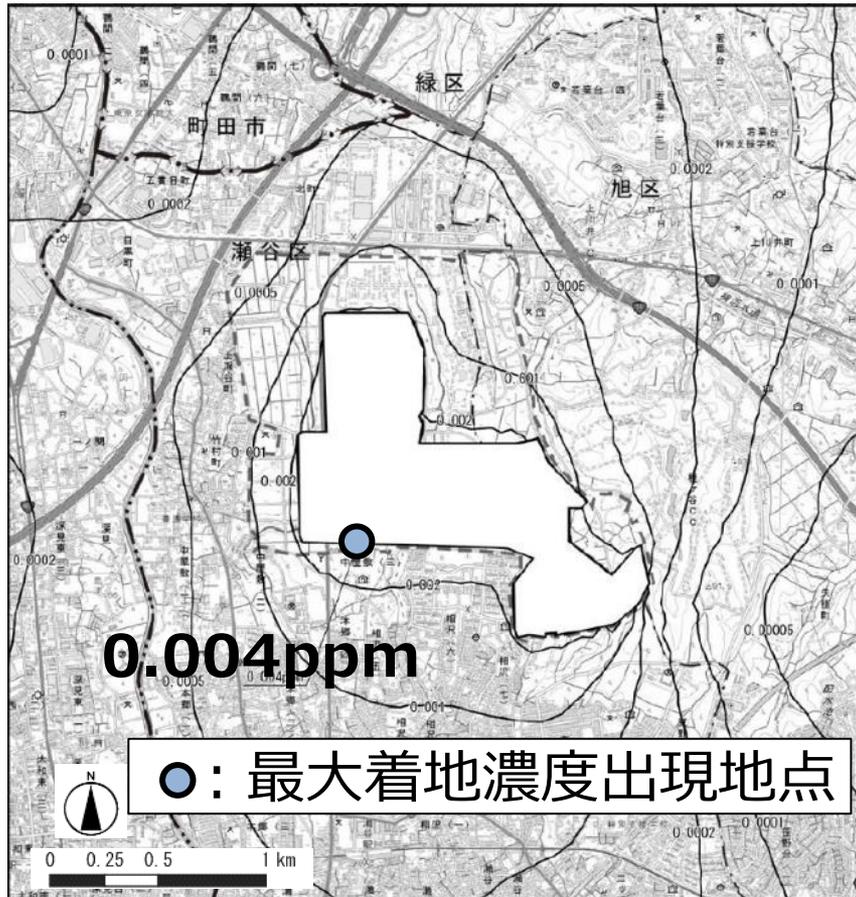


予測結果

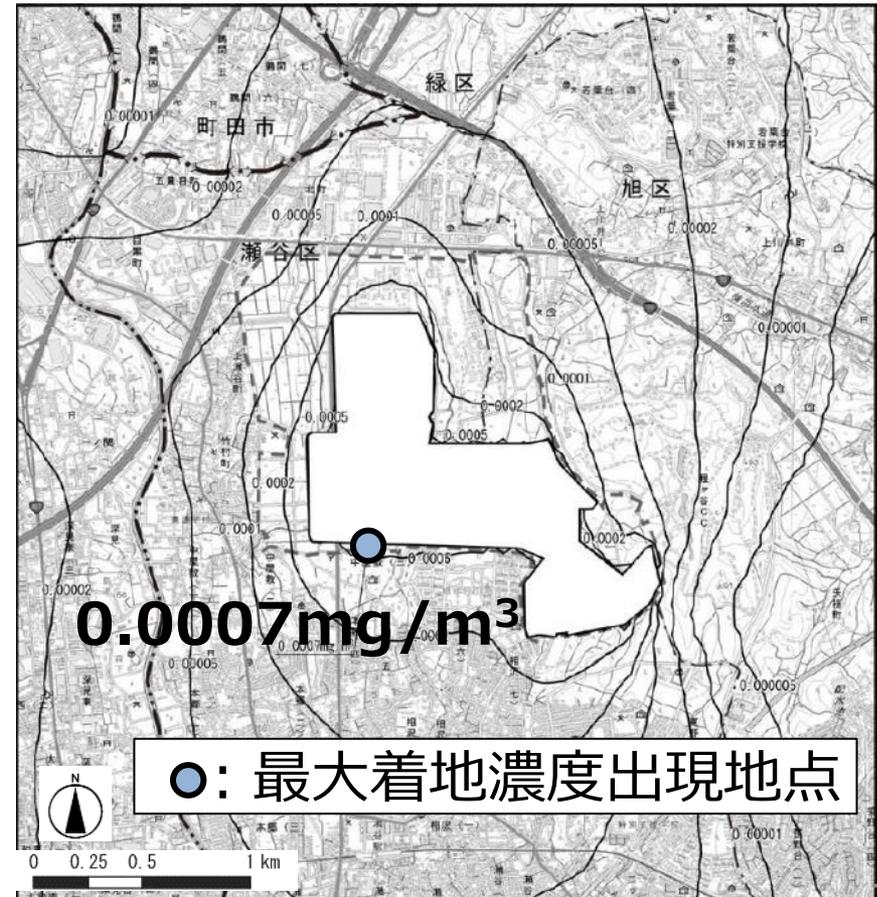
準備書P. 6.7-43、44

工事中(建設機械の稼働)

■ 二酸化窒素



■ 浮遊粒子状物質



※二酸化窒素、浮遊粒子状物質とも建設機械による寄与濃度です

予測結果

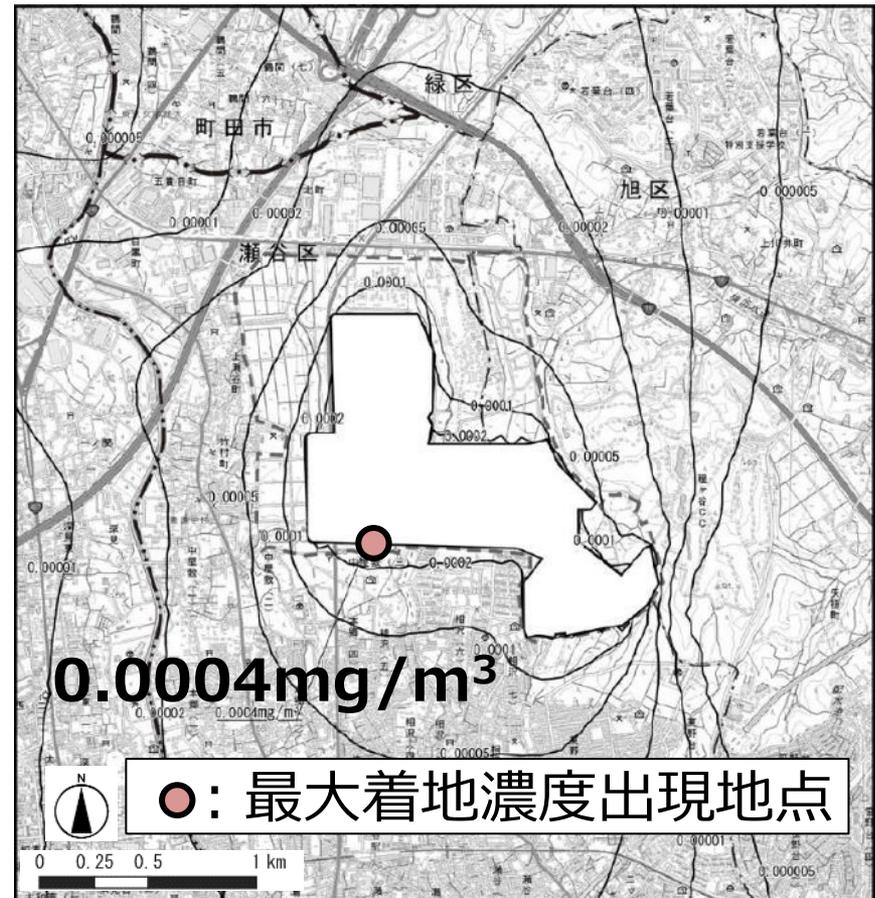
準備書P. 6.7-46、47

撤去中(建設機械の稼働)

■ 二酸化窒素



■ 浮遊粒子状物質



※二酸化窒素、浮遊粒子状物質とも建設機械による寄与濃度です

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.7-78

工事中及び撤去中（建設機械の稼働）

- 可能な限り最新の排出ガス対策型建設機械を使用
- 施工計画を十分に検討、建設機械の集中稼働を回避
- 工事関係者への建設機械のアイドリングストップ周知、無用な空ぶかしや高負荷運転をしないための指導・教育を徹底
- 必要に応じて散水、掃除等、粉じんの飛散防止措置を実施

●環境保全目標

二酸化窒素：

1日平均値の年間98%値が0.04ppmを超えないこと

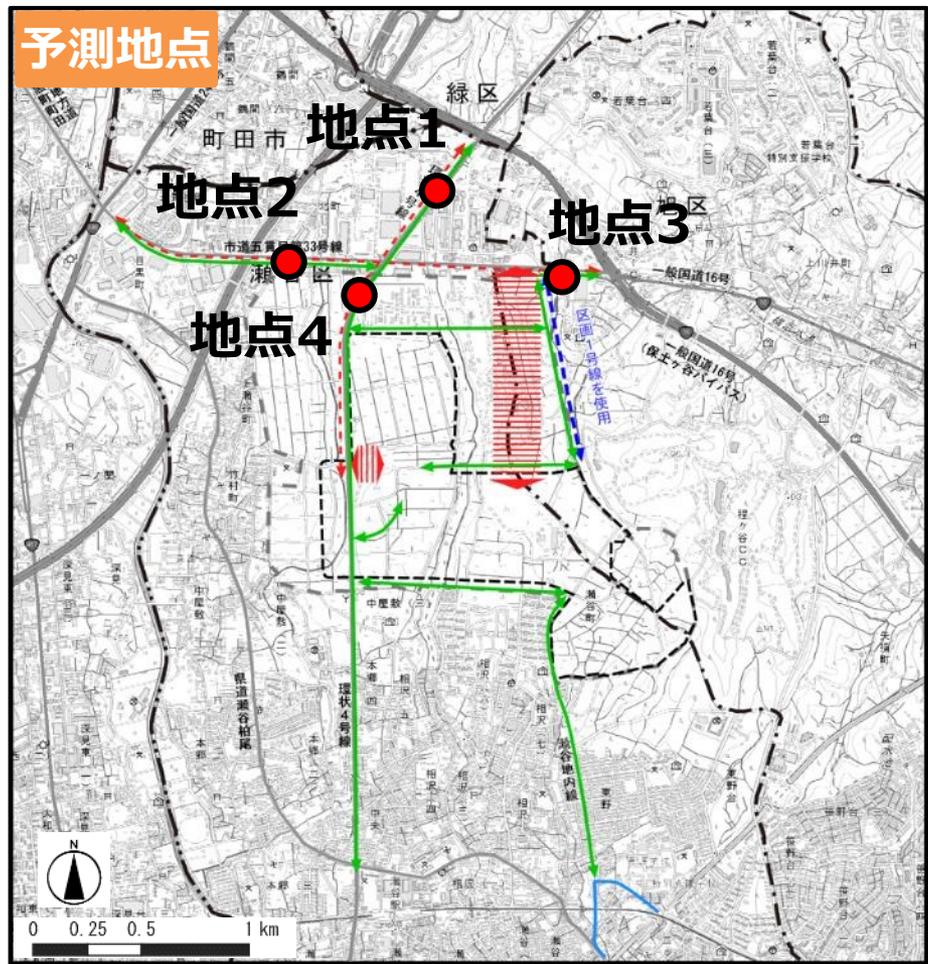
浮遊粒子状物質：

1日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m³を超えないこと

予測結果

準備書P. 6.7-51

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)



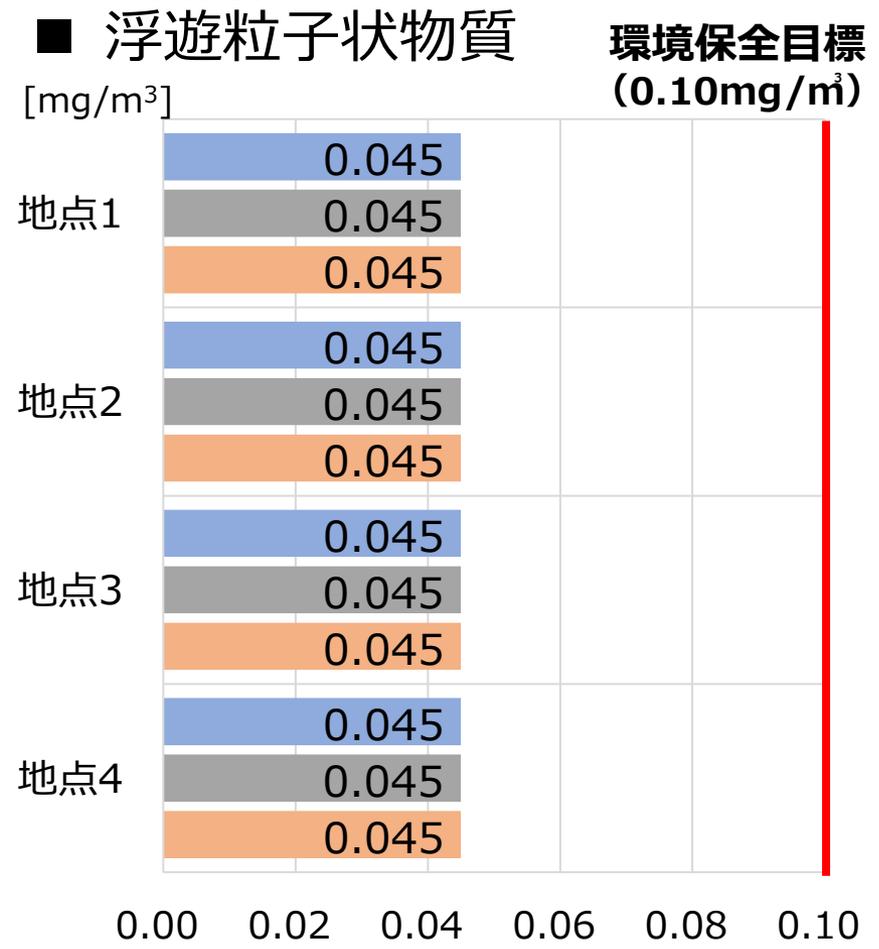
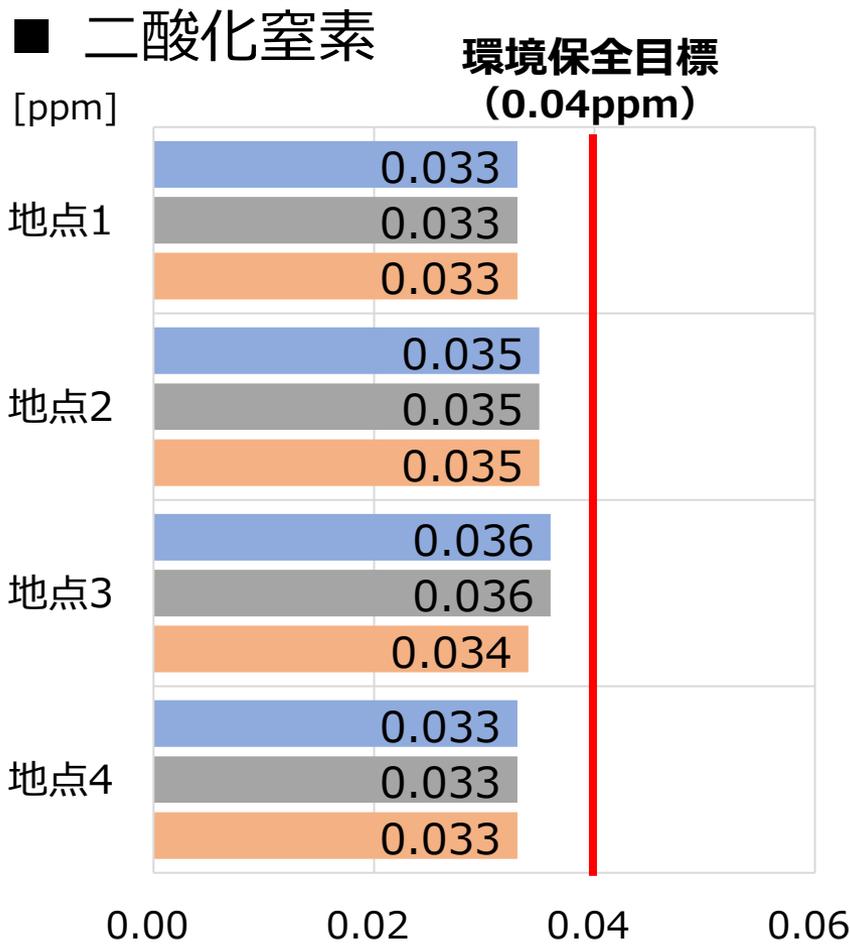
地点1	環状4号線
地点2	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点3	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点4	環状4号線

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
- 工事用車両の専用出入口
- 工事用車両の走行ルート (撤去中)
- 予測地点

予測結果

準備書P. 6.7-62~67

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)



: 工事中
 : 工事中(他事業考慮)
 : 撤去中

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.7-78、27

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)

- 可能な限り新しい排出ガス規制適合型の車両を使用
- 工事用車両は、特定の日や時間帯での集中を避け、計画的な運行管理を実施
- 工事関係者に対してアイドリングストップの徹底、無用な空ぶかしをしないなどエコドライブに関する指導・教育を徹底

●環境保全目標

二酸化窒素：

1日平均値の年間98%値が0.04ppmを超えないこと

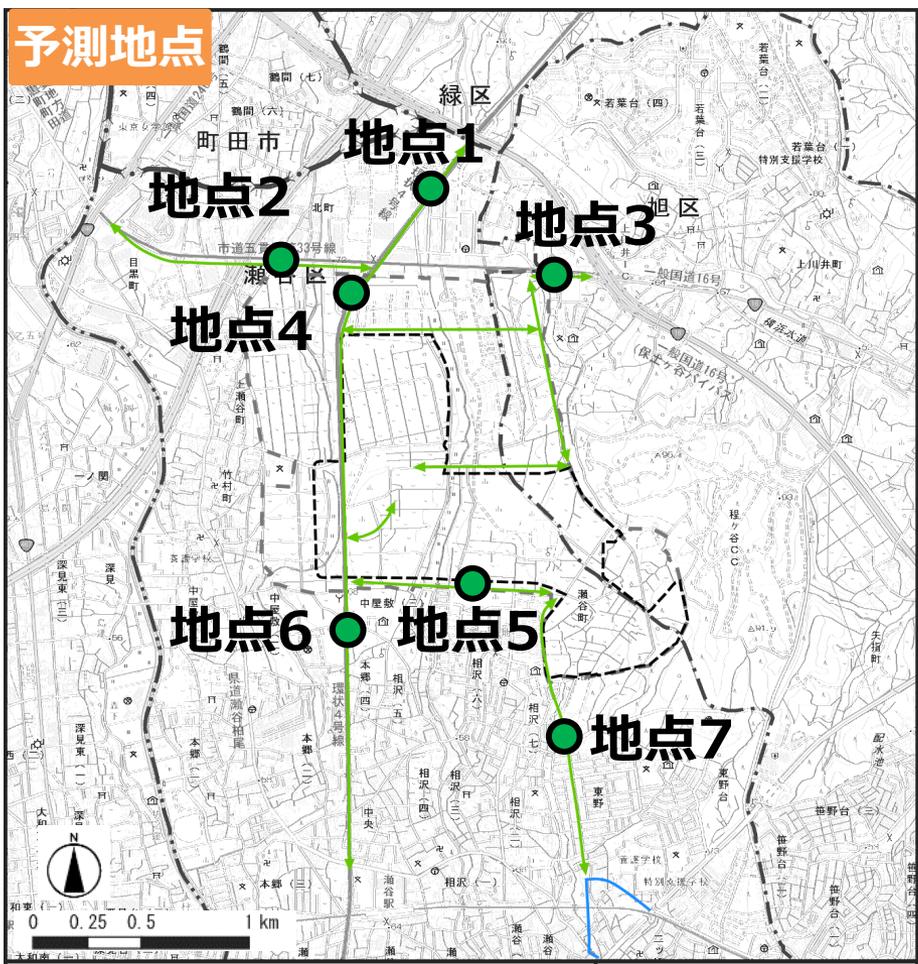
浮遊粒子状物質：

1日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m³を超えないこと

予測結果

準備書P. 6.7-68

開催中(関係車両の走行)



地点1	環状4号線
地点2	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点3	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点4	環状4号線
地点5	深見第228号線
地点6	環状4号線
地点7	瀬谷地内線

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 関係車両の走行ルート
- 予測地点
- 整備計画中の道路

予測結果

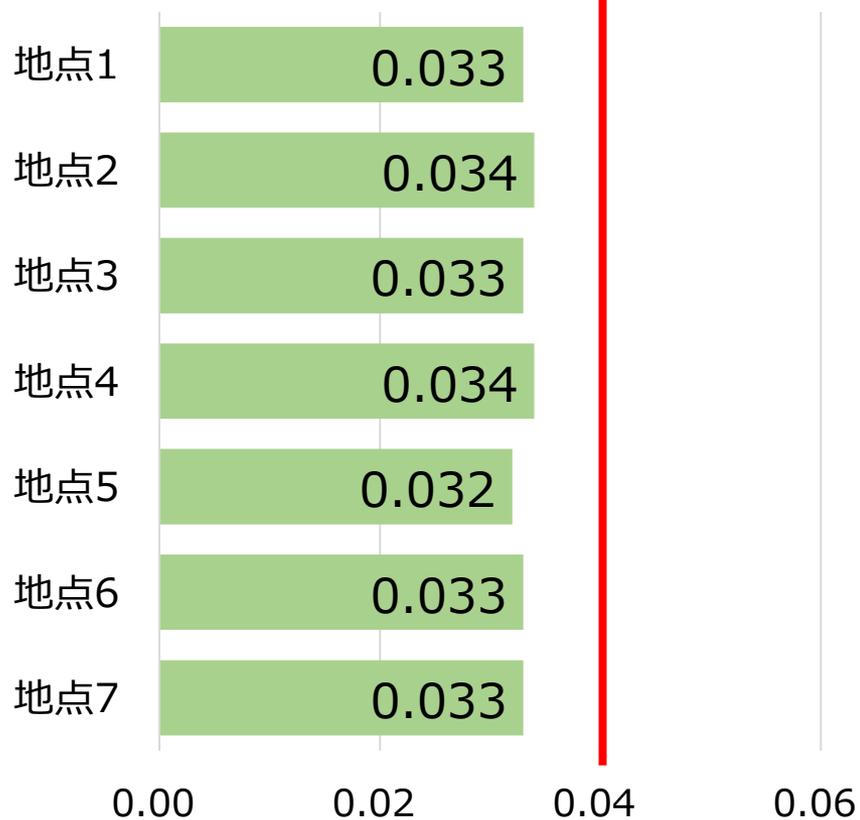
準備書P. 6.7-75~77

開催中(関係車両の走行)

■ 二酸化窒素

[ppm]

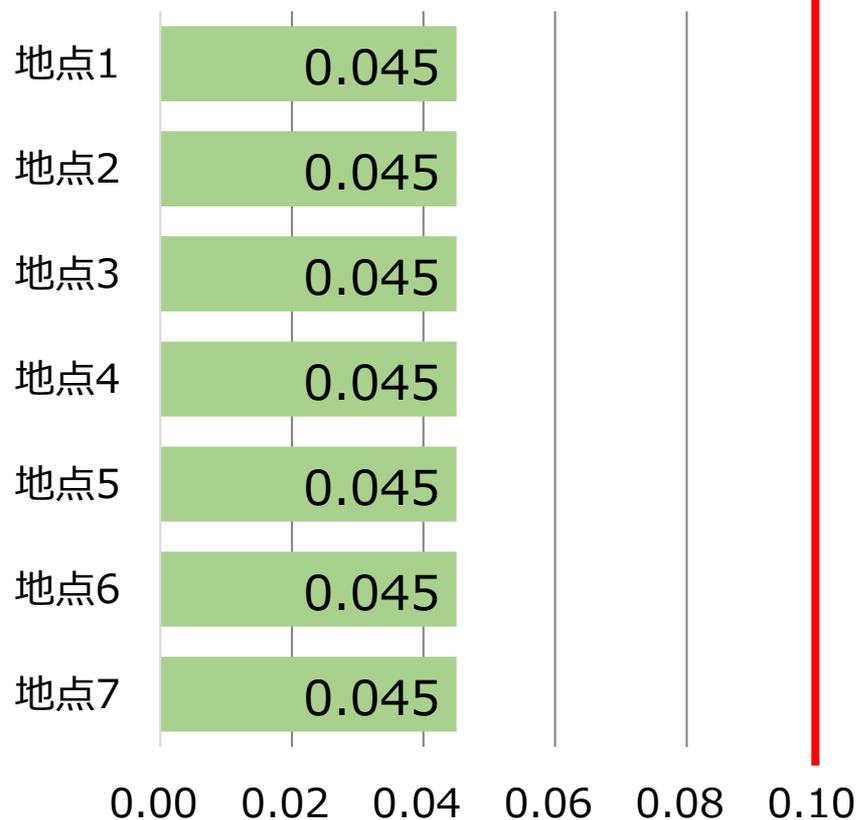
環境保全目標
(0.04ppm)



■ 浮遊粒子状物質

[mg/m³]

環境保全目標
(0.10mg/m³)



主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.7-79、27

開催中(関係車両の走行)

- 公共交通機関の利用促進を図るとともに、パークアンドライド、駐車場の事前予約の導入等により、会場周辺への交通集中を抑制し、負荷を低減
- 輸送車両や搬出入車両の効率的運行、エコドライブの徹底、輸送車両に環境配慮型車両（電気バス）を一部導入
- 自家用車での来場者に対しては、エコドライブ徹底や環境配慮型車両（EV等）での来場を促す

●環境保全目標

二酸化窒素：

1日平均値の年間98%値が0.04ppmを超えないこと

浮遊粒子状物質：

1日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m³を超えないこと

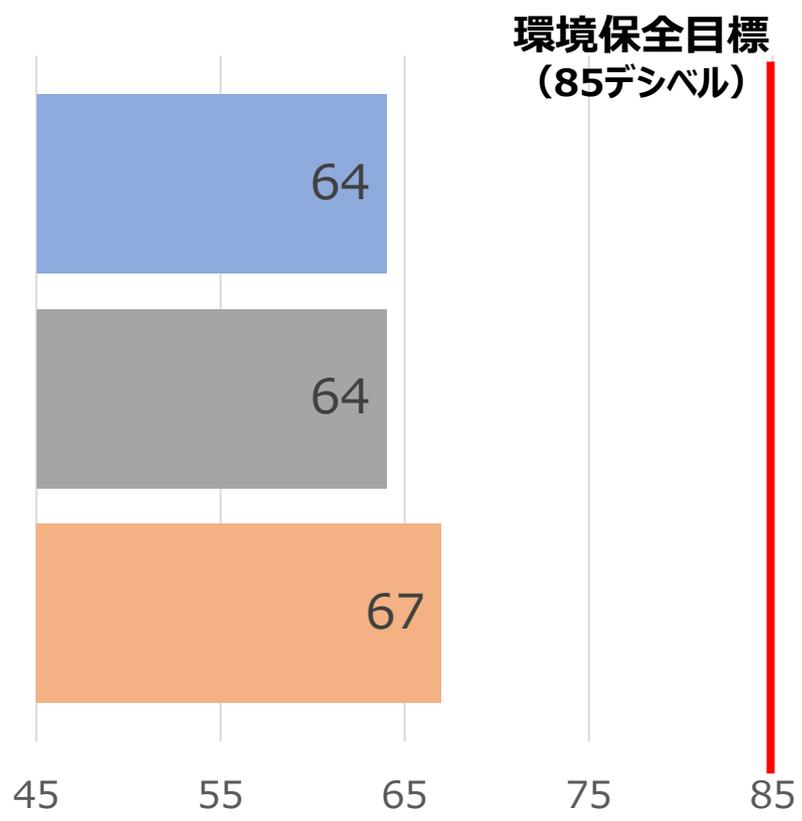
騒音

予測結果

準備書P. 6.8-25~29

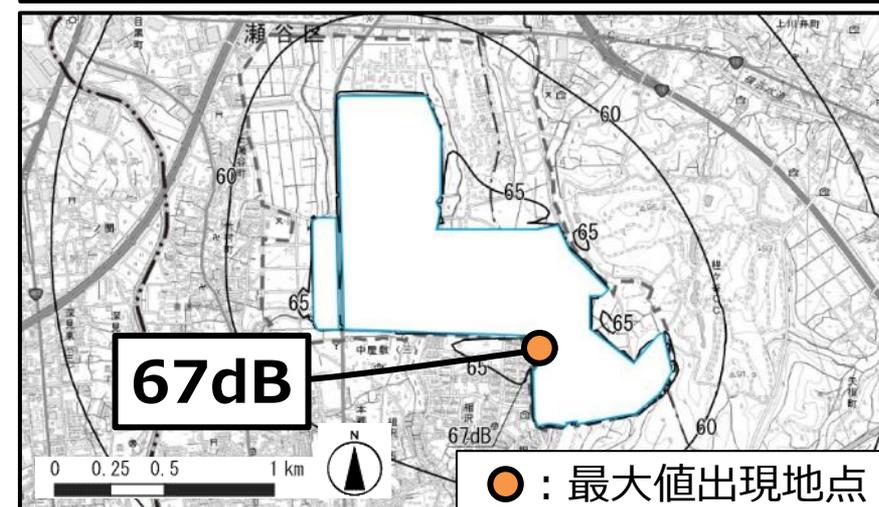
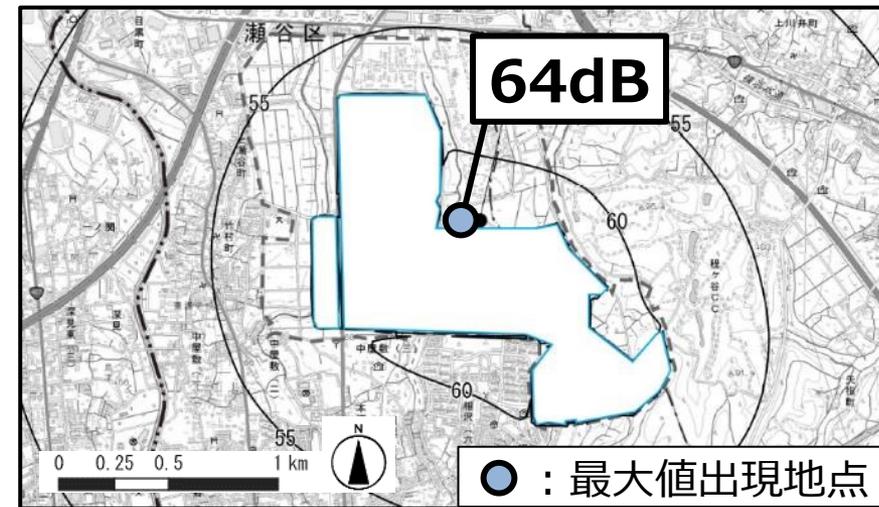
工事中及び撤去中(建設機械の稼働)

■ 騒音レベル



- : 工事中
- : 工事中(他事業考慮)
- : 撤去中

■ 騒音レベル分布図 (本事業のみ)



主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.8-54、15

工事中及び撤去中（建設機械の稼働）

- 最新の低騒音型建設機械を使用
- 施工計画を十分に検討し、建設機械の集中稼働を回避
- 工事関係者に対して、建設機械のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないための指導・教育も徹底

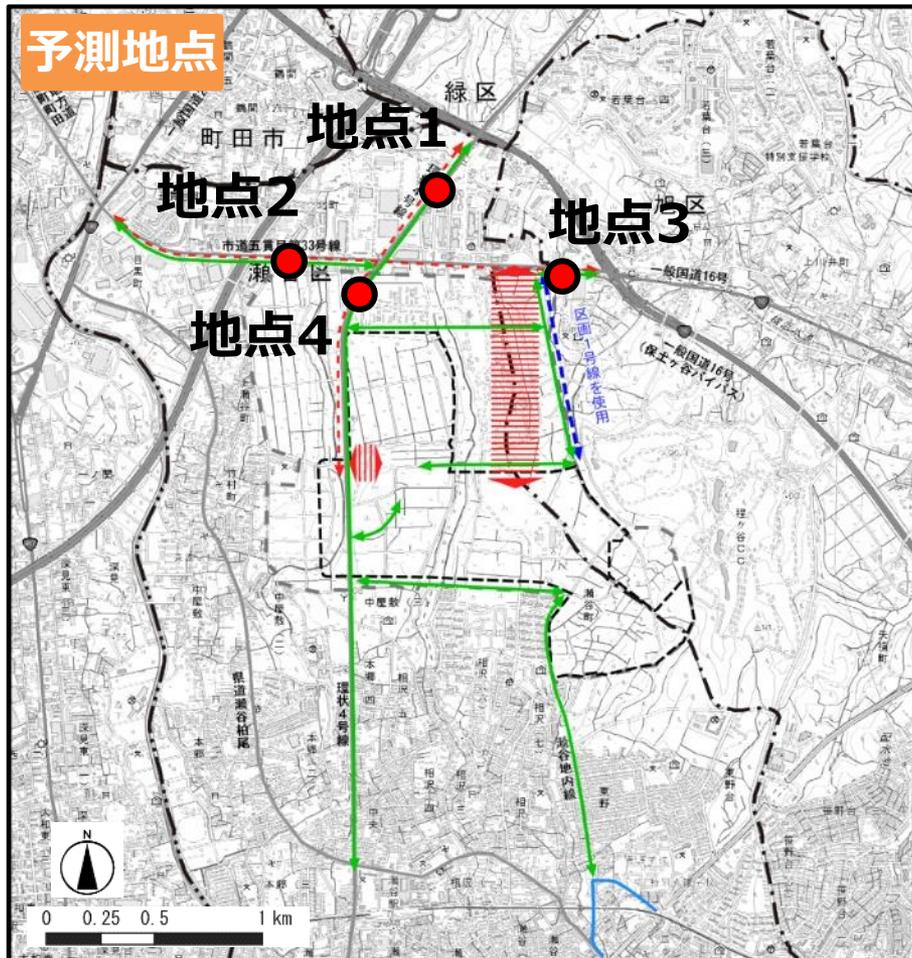
● 環境保全目標

騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」である85デシベル以下とすること

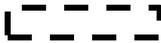
予測結果

準備書P. 6.8-30

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)



地点1	環状4号線
地点2	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点3	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点4	環状4号線

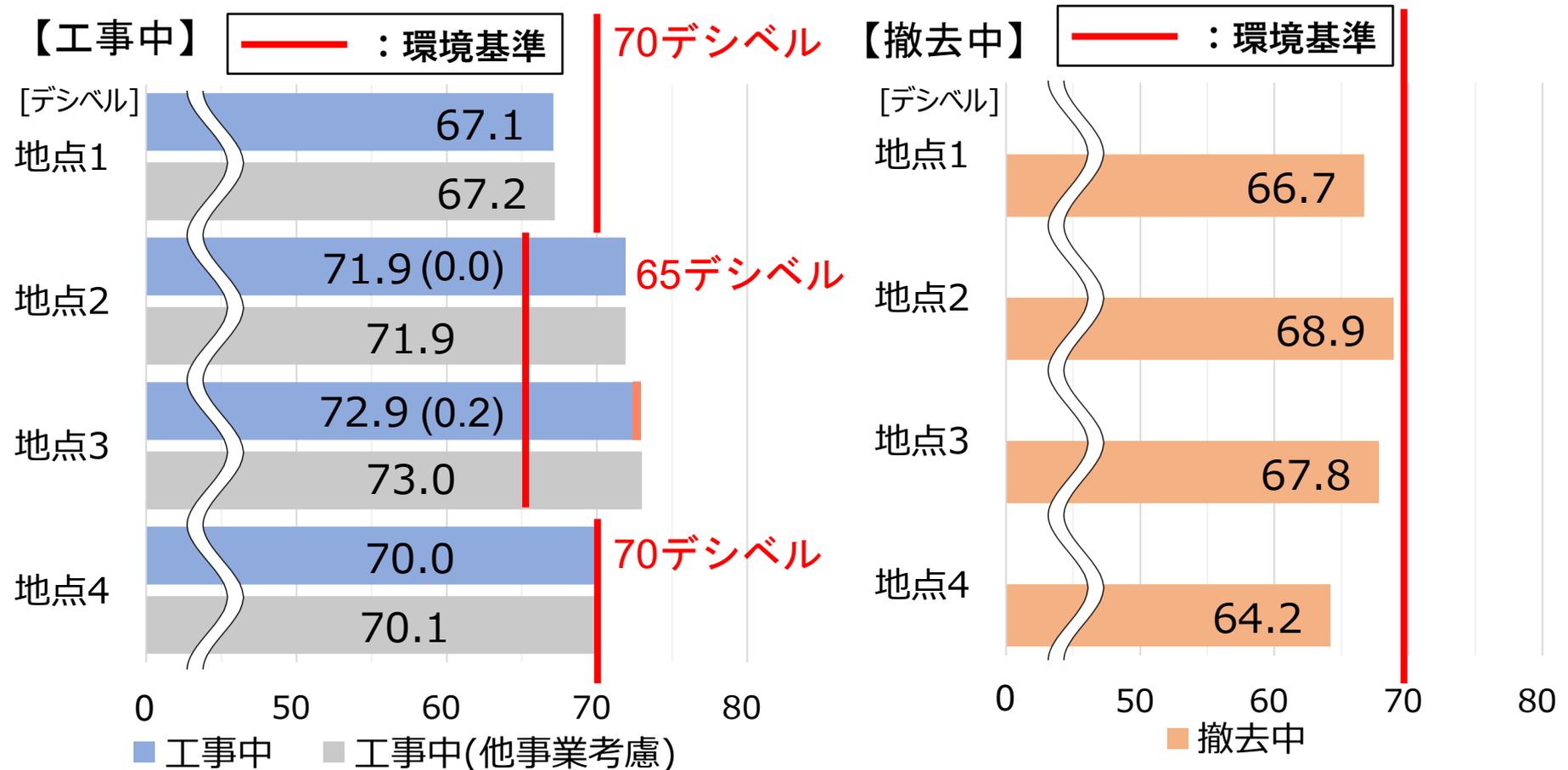
-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
-  工事用車両の専用出入口
-  工事用車両の走行ルート (撤去中)
-  予測地点

予測結果

準備書P. 6.8-40~42

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)

■ 騒音レベル



※ () 内は環境基準超過地点における工事用車両による増分(デシベル) : ■

※ 各地点の騒音レベルが高い方の道路端の値を表示しています。

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.8-54、15

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)

- 工事用車両が特定の日や時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理
- 工事関係者に対してアイドリングストップの徹底、無用な空ぶかしをしないなどエコドライブに関する指導・教育を徹底
- 渋滞が生じやすい道路や交差点について、工事関係者に周知し、時間差で出退勤等を行うよう指導

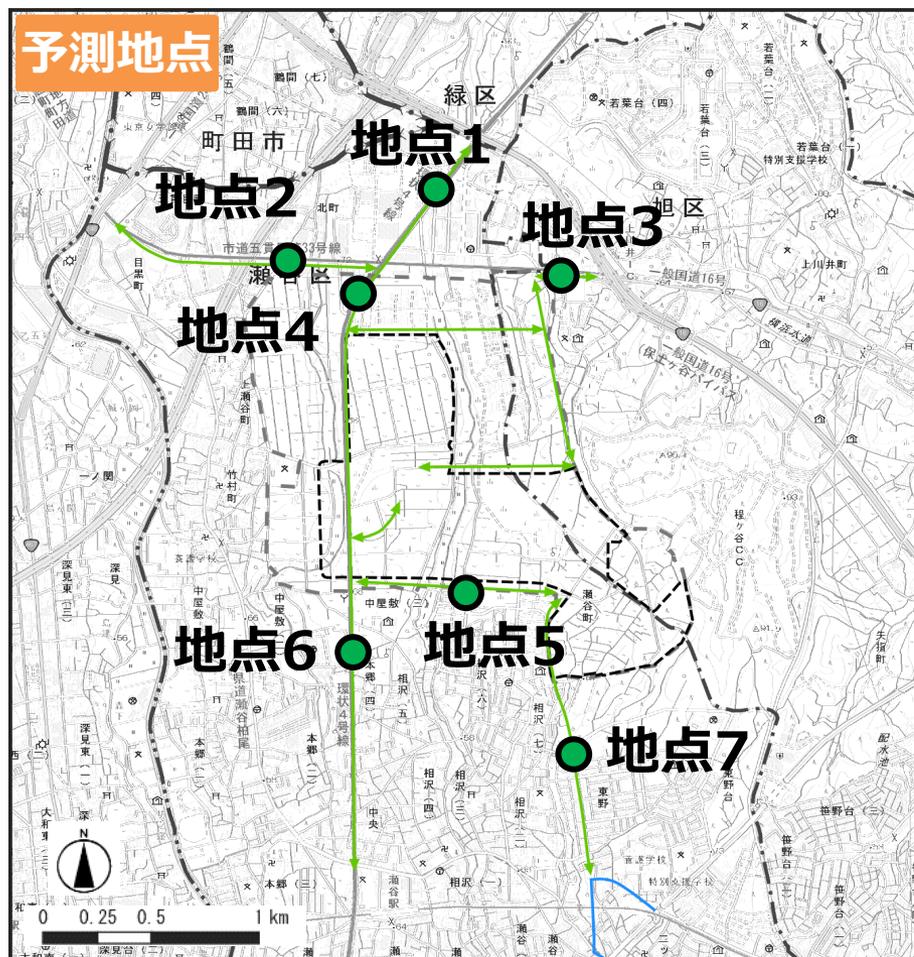
●環境保全目標

周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書P. 6.8-43

開催中(関係車両の走行)



地点1	環状4号線
地点2	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点3	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点4	環状4号線
地点5	深見第228号線
地点6	環状4号線
地点7	瀬谷地内線

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  関係車両の走行ルート
-  予測地点
-  整備計画中の道路

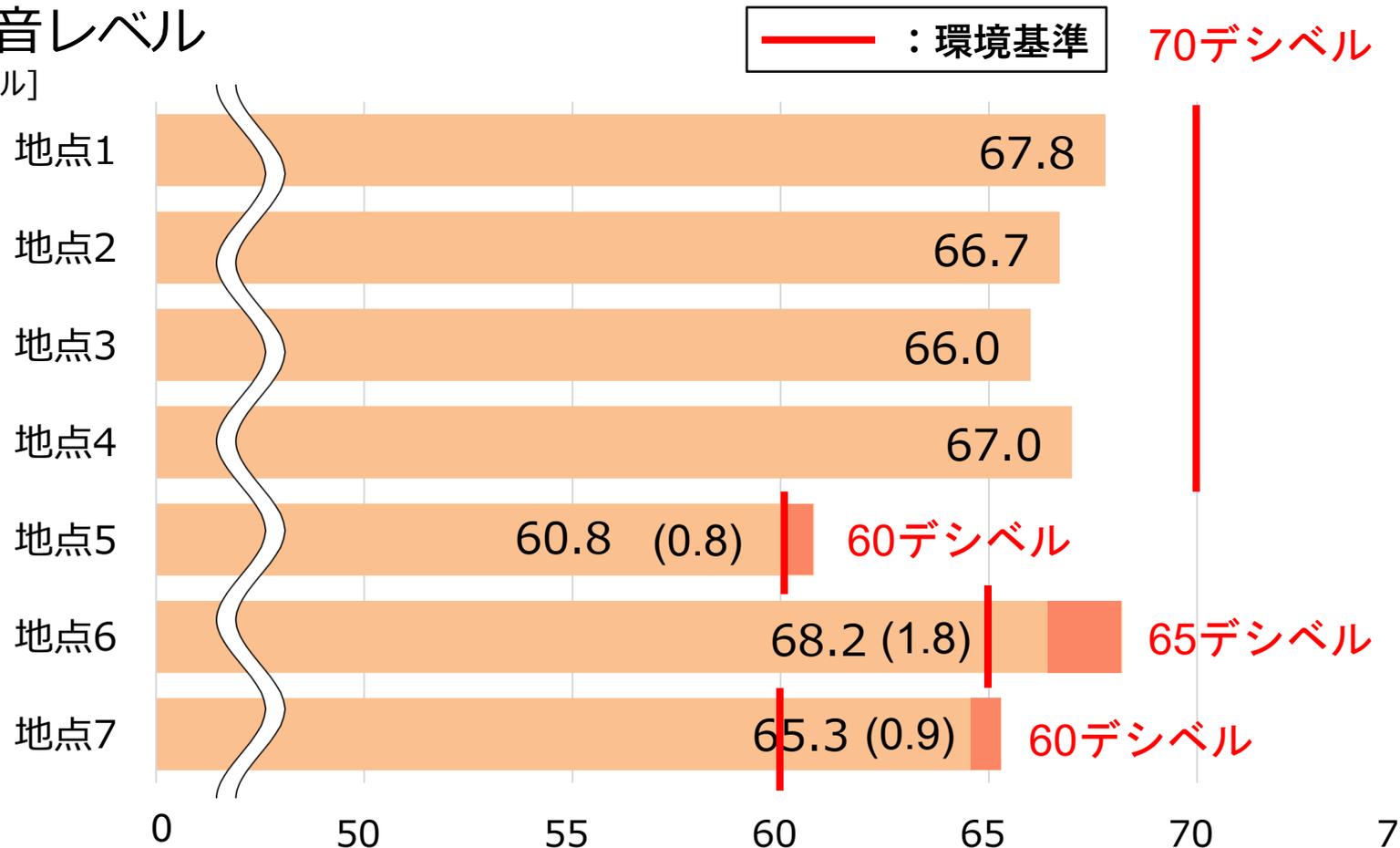
予測結果

準備書P. 6.8-49

開催中(関係車両の走行)

■ 騒音レベル

[デシベル]



※地点ごとの用途地域や道路の区分によって、それぞれの環境基準が定められています。

※ () 内は環境基準超過地点における関係車両による増分(デシベル)：

※ 各地点の騒音レベルが高い方の道路端の値を表示しています。

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.8-55、15

開催中(関係車両の走行)

- 公共交通機関の利用促進を図るとともに、パークアンドライドの導入、駐車場の事前予約の導入等により、会場周辺への交通集中を抑制し、来場車両による負荷を低減
- 輸送車両や搬出入車両の効率的運行、エコドライブの徹底、輸送車両に環境配慮型車両（電気バス）を一部導入
- 自家用車での来場者に対しては、エコドライブ徹底や環境配慮型車両（EV等）での来場を推奨

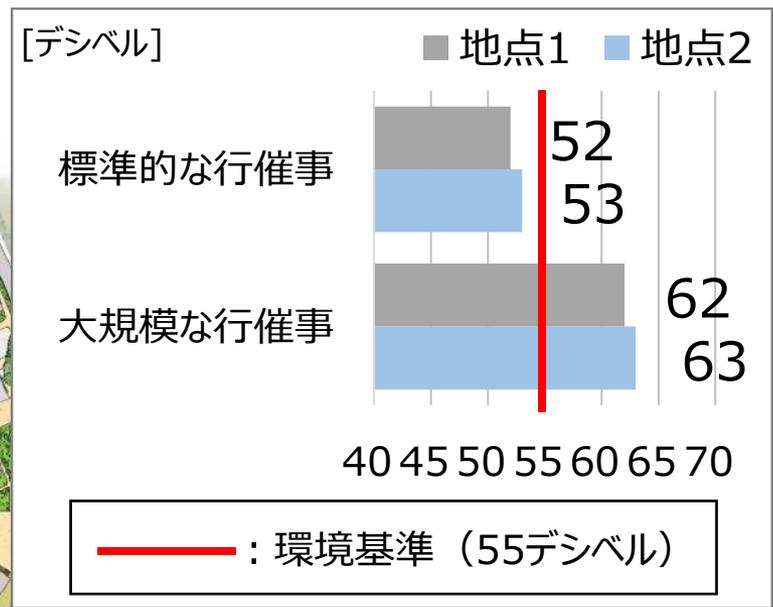
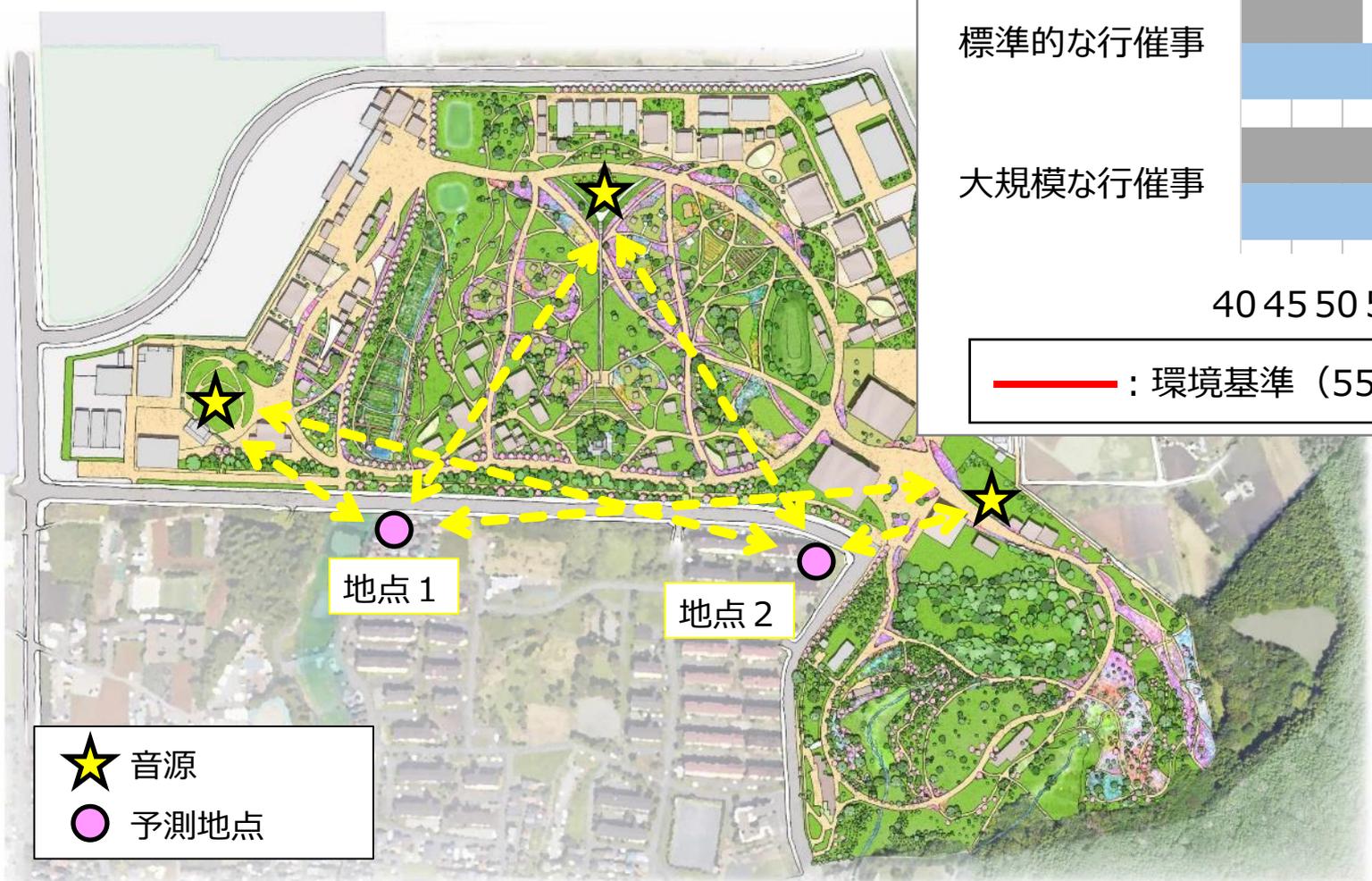
●環境保全目標

周辺的生活環境に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書P. 6.8-53

開催中(施設の供用)



主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.8-55、15

開催中(施設の供用)

- 対象事業実施区域南側の住宅団地の隣接地においては、大音量の音響設備の使用を原則禁止
- 音響設備の音量や稼働時間についての適切なルールを設定
- 隣接する住宅団地や市民の森方向への音の低減対策
- 大規模な行催事を開催する場合には事前に周辺住宅等に周知

●環境保全目標

周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさないこと

振 動

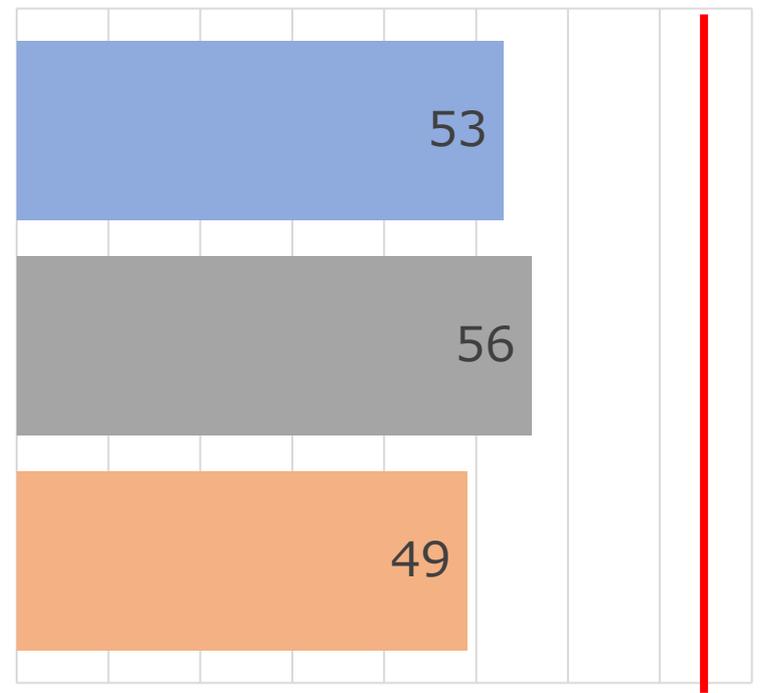
予測結果

準備書P6.9-19~23

工事中及び撤去中(建設機械の稼働)

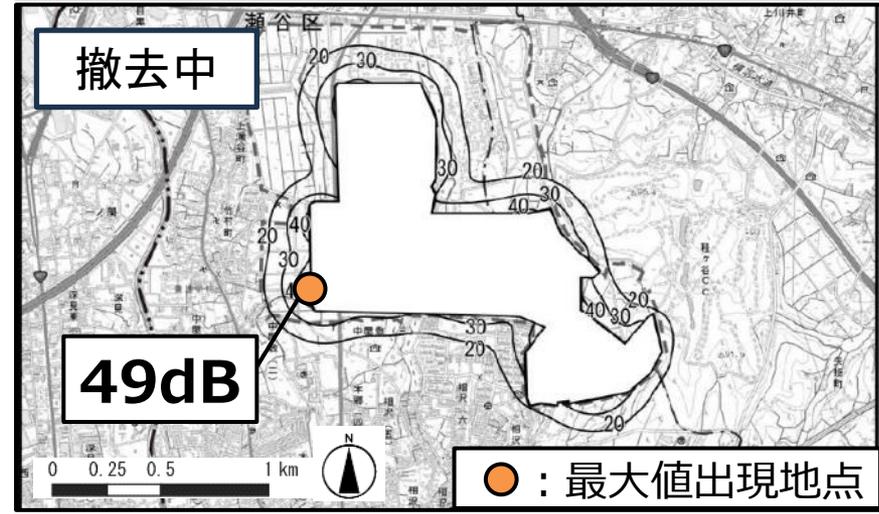
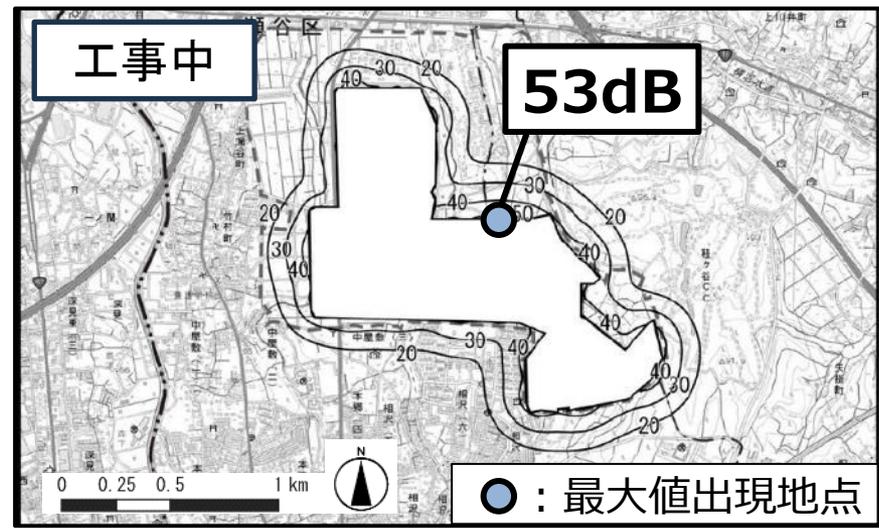
■ 振動レベル

環境保全目標
(75dB)



- : 工事中
- : 工事中(他事業考慮)
- : 撤去中

■ 振動レベル分布図



主な環境の保全のための措置

準備書P6.9-43、14

工事中及び撤去中（建設機械の稼働）

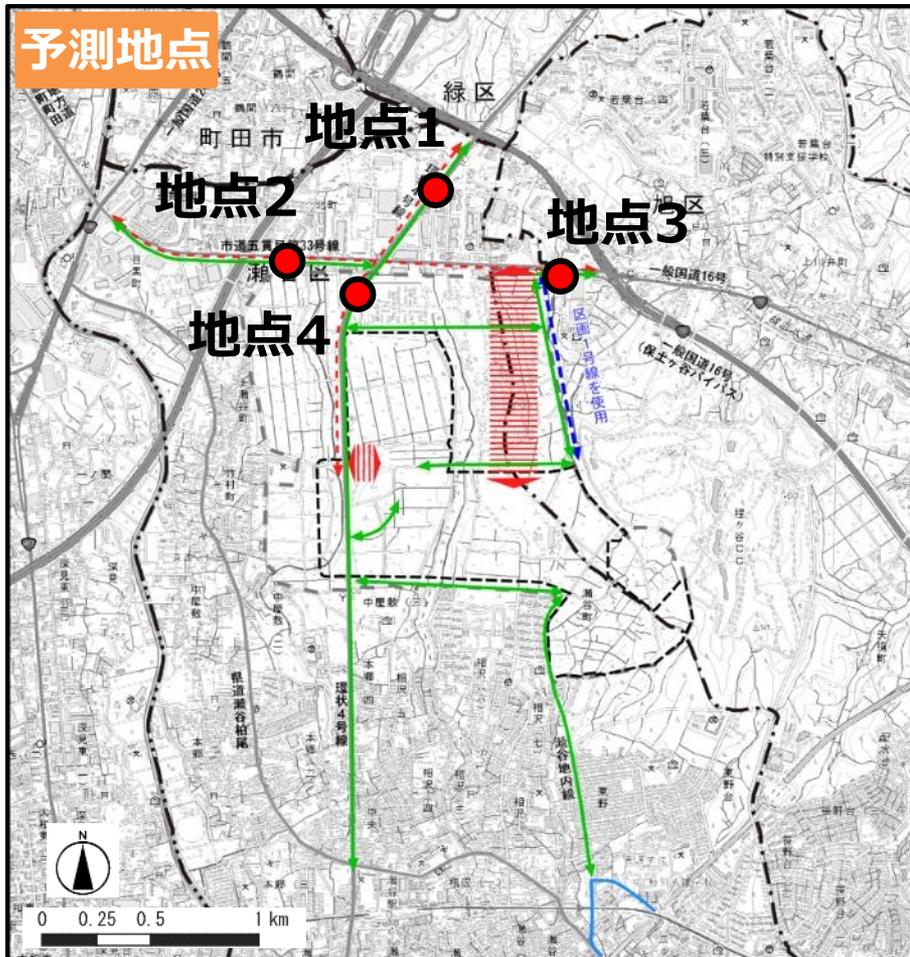
- 可能な限り最新の低振動型建設機械、低振動の工法を採用
- 施工計画を十分に検討し、建設機械の集中稼働を回避
- 工事関係者に対して、建設機械のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないための指導・教育も徹底

●環境保全目標

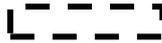
振動規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」である75デシベル以下とすること

予測結果

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)



地点1	環状4号線
地点2	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点3	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点4	環状4号線

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
-  工事用車両の専用出入口
-  工事用車両の走行ルート (撤去中)
-  予測地点

予測結果

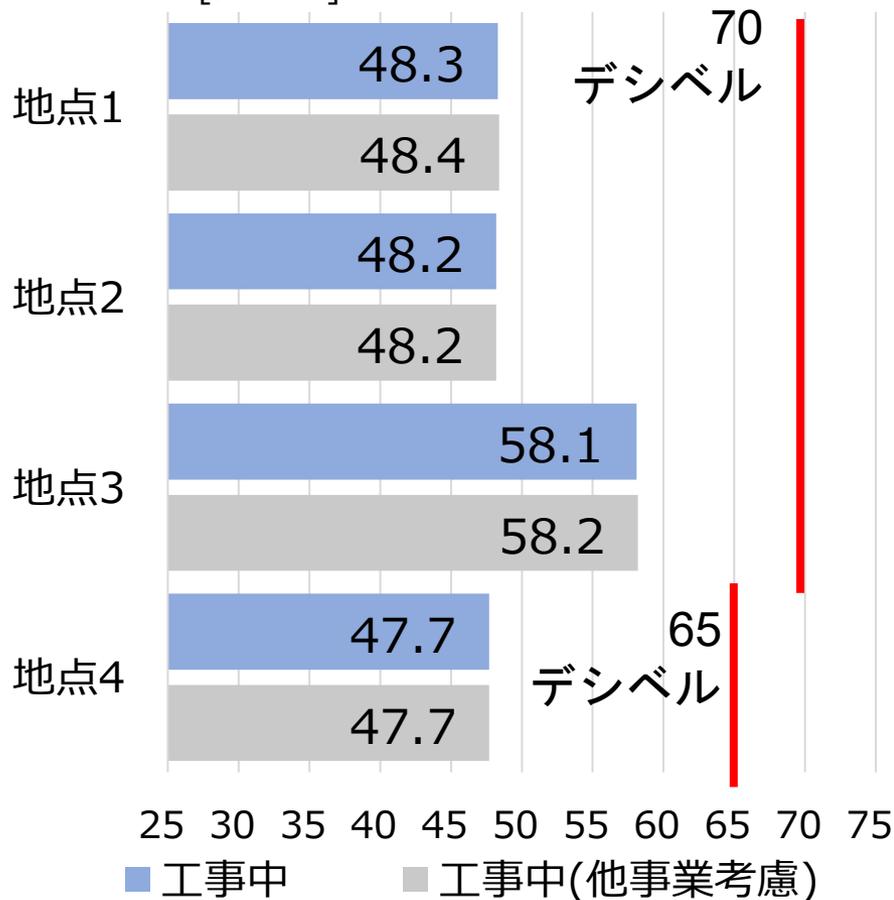
準備書P. 6.9-33~35

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)

■ 振動レベル

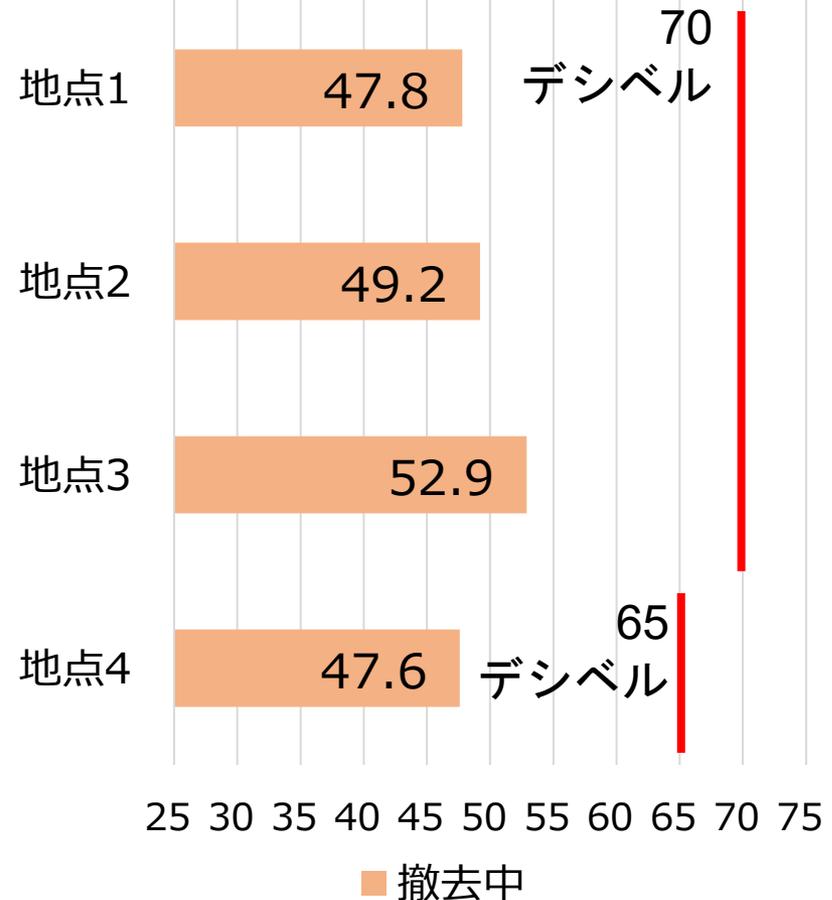
【工事中】[デシベル]

— : 要請限度



【撤去中】[デシベル]

— : 要請限度



※グラフは、昼間の、各地点の振動レベルが高い方の道路端の値を表示しています。

主な環境の保全のための措置

準備書P6.9-43、14

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)

- 工事用車両が特定の日や時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理
- 工事関係者に対してアイドリングストップの徹底、無用な空ぶかしをしないなどエコドライブに関する指導・教育を徹底

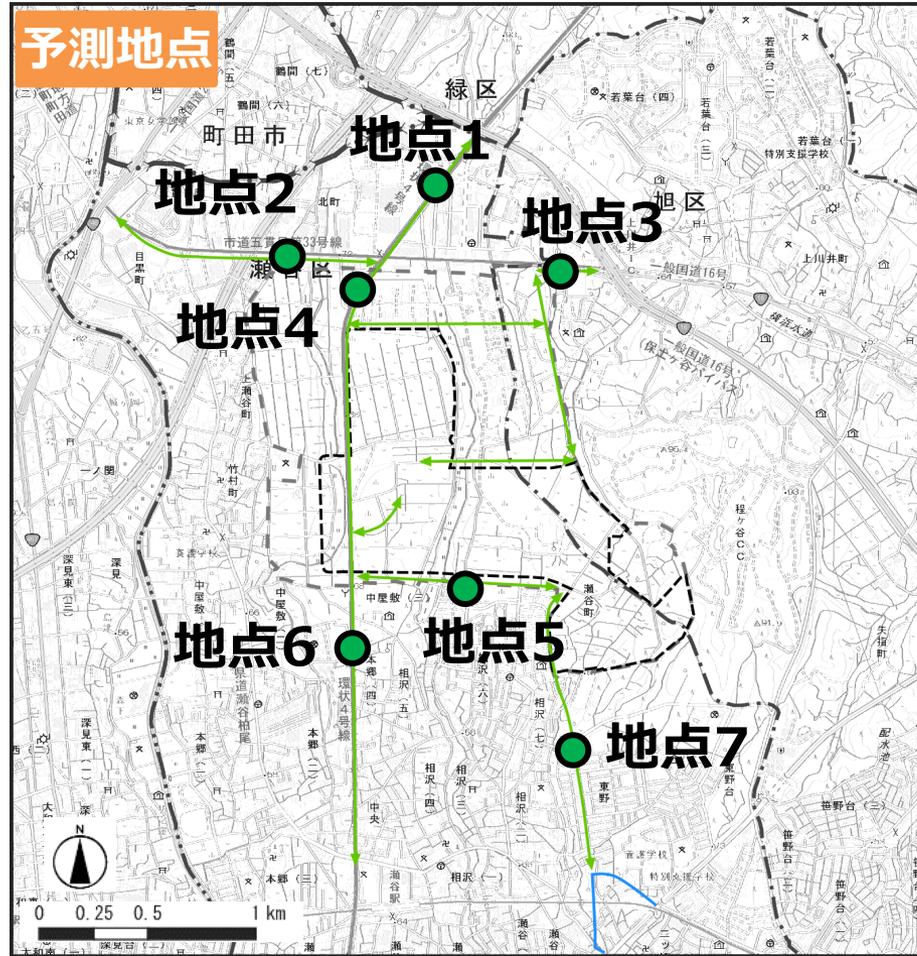
●環境保全目標

周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書P. 6.9-36

開催中(関係車両の走行)



地点1	環状4号線
地点2	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点3	市道五貫目第33号線 (八王子街道)
地点4	環状4号線
地点5	深見第228号線
地点6	環状4号線
地点7	瀬谷地内線

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 関係車両の走行ルート
- 予測地点
- 整備計画中の道路

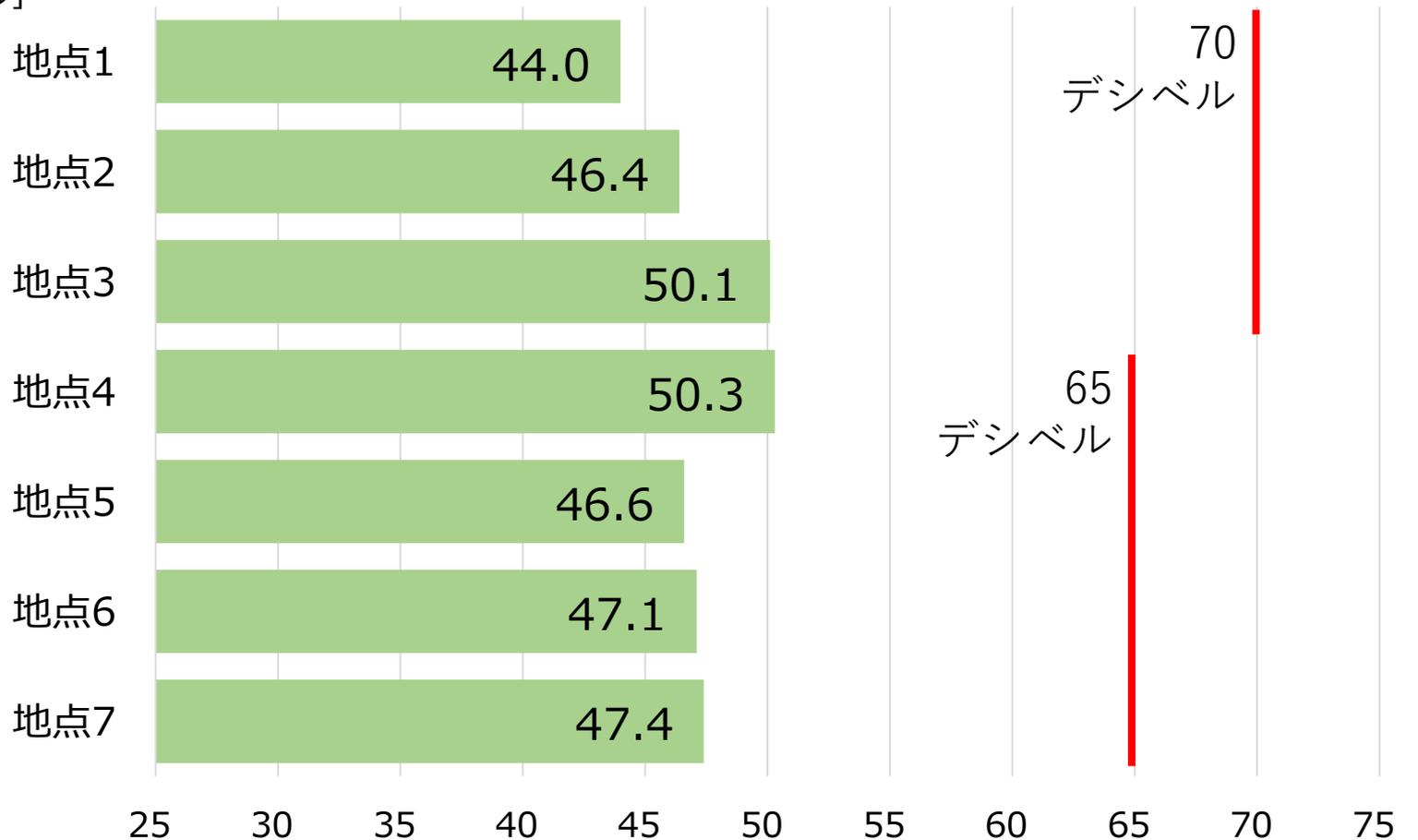
予測結果

準備書P. 6.9-42

開催中(関係車両の走行)

■ 振動レベル

[デシベル]



※グラフは、昼間の、各地点の振動レベルが高い方の道路端の値を表示しています。

主な環境の保全のための措置

準備書P6.9-43、14

開催中(関係車両の走行)

- 公共交通機関の利用促進を図るとともに、パークアンドライドの導入、駐車場の事前予約の導入等により、会場周辺への交通集中を抑制し、来場車両による負荷を低減
- 輸送車両や搬出入車両は効率的な運行を行うとともに、エコドライブを徹底
- 自家用車での来場者に対しては、エコドライブ徹底や環境配慮型車両（EV等）での来場を推奨

●環境保全目標

周辺的生活環境に著しい影響を及ぼさないこと

地域社会

予測条件（交通量、周辺道路の整備状況）

準備書 資料編P.資1.8-142

周辺道路の整備状況

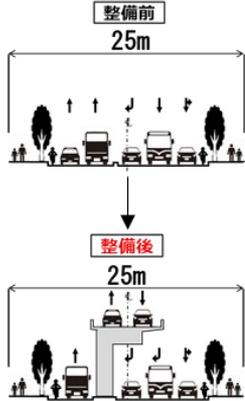
- 開催中及び撤去中は左図のとおり

交通量の予測条件

- 開催中は、より実態に即したものとなるよう、開催時の交通量を推計

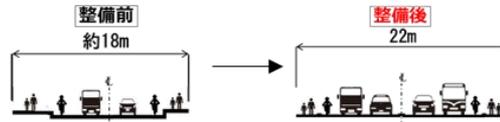
◆目黒交番前交差点の立体化

環状4号線を一部高架化

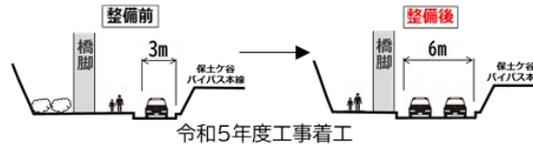


◆八王子街道

八王子街道の拡幅
(2車線→4車線)

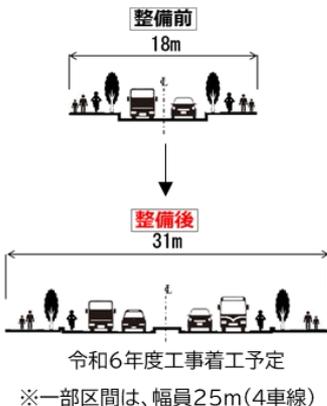


上川井IC出口
(横浜方面)の拡幅



◆環状4号線(地区内)

環状4号線を拡幅
(2車線→4車線)



◆地区内道路

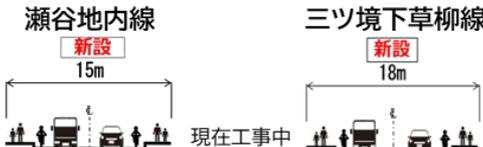
地区内に道路を新設



地区内に道路を新設



◆瀬谷地内線・三ツ境下草柳線



予測結果

準備書P. 6.10-40、44

工事中(工事用車両の走行)

【交通混雑】

■ 交差点需要率 (本事業)

予測地点	区分	工事中	限界需要率
地点1 (目黒)	平日	0.629	0.889
	休日	0.680	0.894
地点2 (目黒交番前)	平日	0.819	0.900
	休日	0.658	0.894
地点3 (上川井IC)	平日	0.702	0.847
	休日	0.492	0.829
地点4 (滝沢)	平日	0.456	0.904
	休日	0.374	0.900
地点4 (瀬谷土橋公園入口)	平日	0.524	0.913
	休日	0.348	0.900

※ピーク時間帯：17時～18時



- 工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中) ● 予測地点
- 工事用車両の専用出入口
- 工事用車両の走行ルート (撤去中)

予測結果

準備書P. 6.10-40、50

他事業を考慮した工事中(工事用車両の走行) 【交通混雑】

■ 交差点需要率 (他事業を考慮)

予測地点	時期	工事中	限界 需要率
地点1 (目黒)	平日	0.638	0.889
	休日	0.680	0.894
地点2 (目黒交番前)	平日	0.844	0.900
	休日	0.685	0.894
地点3 (上川井IC)	平日	0.727	0.847
	休日	0.502	0.829
地点4 (滝沢)	平日	0.467	0.904
	休日	0.391	0.900
地点4 (瀬谷土橋公園入口)	平日	0.532	0.913
	休日	0.375	0.900

※ピーク時間帯：17時～18時



-  工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
  予測地点
-  工事用車両の専用出入口
-  工事用車両の走行ルート (撤去中)

予測結果

準備書P. 6.10-40、47

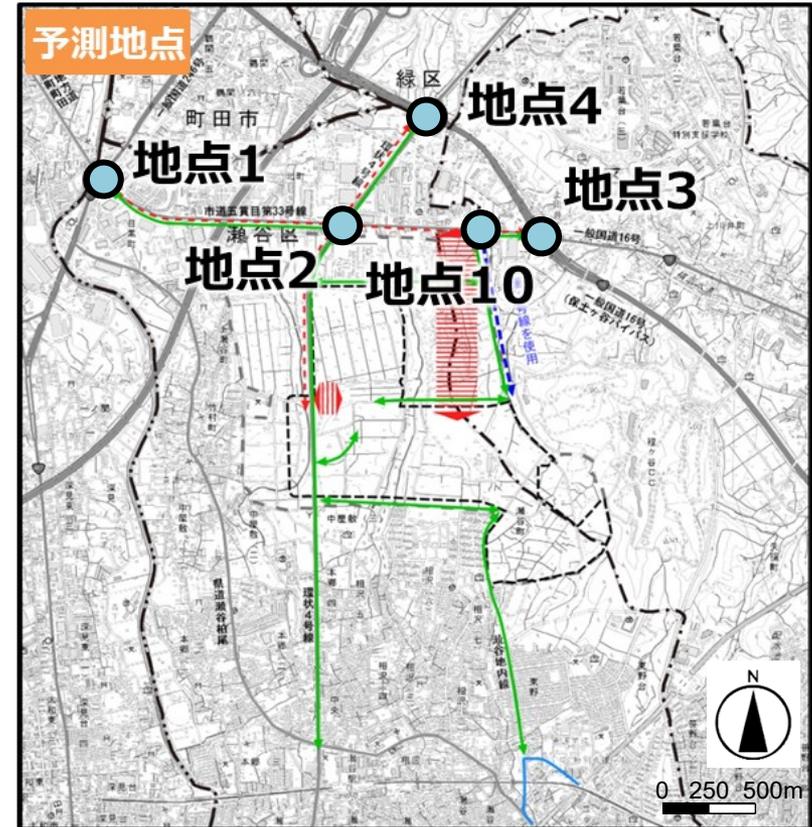
撤去中(工事用車両の走行)

【交通混雑】

■ 交差点需要率

予測地点	時期	撤去中	限界 需要率
地点1 (目黒)	平日	0.629	0.889
	休日	0.680	0.894
地点2 (目黒交番前)	平日	0.332	0.900
	休日	0.398	0.894
地点3 (上川井IC)	平日	0.655	0.847
	休日	0.528	0.829
地点4 (滝沢)	平日	0.457	0.904
	休日	0.379	0.900
地点4 (瀬谷土橋公園入口)	平日	0.536	0.913
	休日	0.339	0.900
地点10	平日	0.191	0.518
	休日	0.176	0.518

※ピーク時間帯：17時～18時



- 工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
- 工事用車両の走行ルート (撤去中)
- 工事用車両の専用出入口
- 予測地点

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.10-67、39

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)

- 工事用車両については、合理的な運行計画を検討し、車両台数の削減、ルート分散化
- 工事用車両の待機スペースを確保し、路上駐車及び出入口での滞留を防止するとともに、出入口には誘導員を配置
- 工事関係者に対し、出退勤時間をずらすなど交通渋滞の回避に努めることを周知徹底

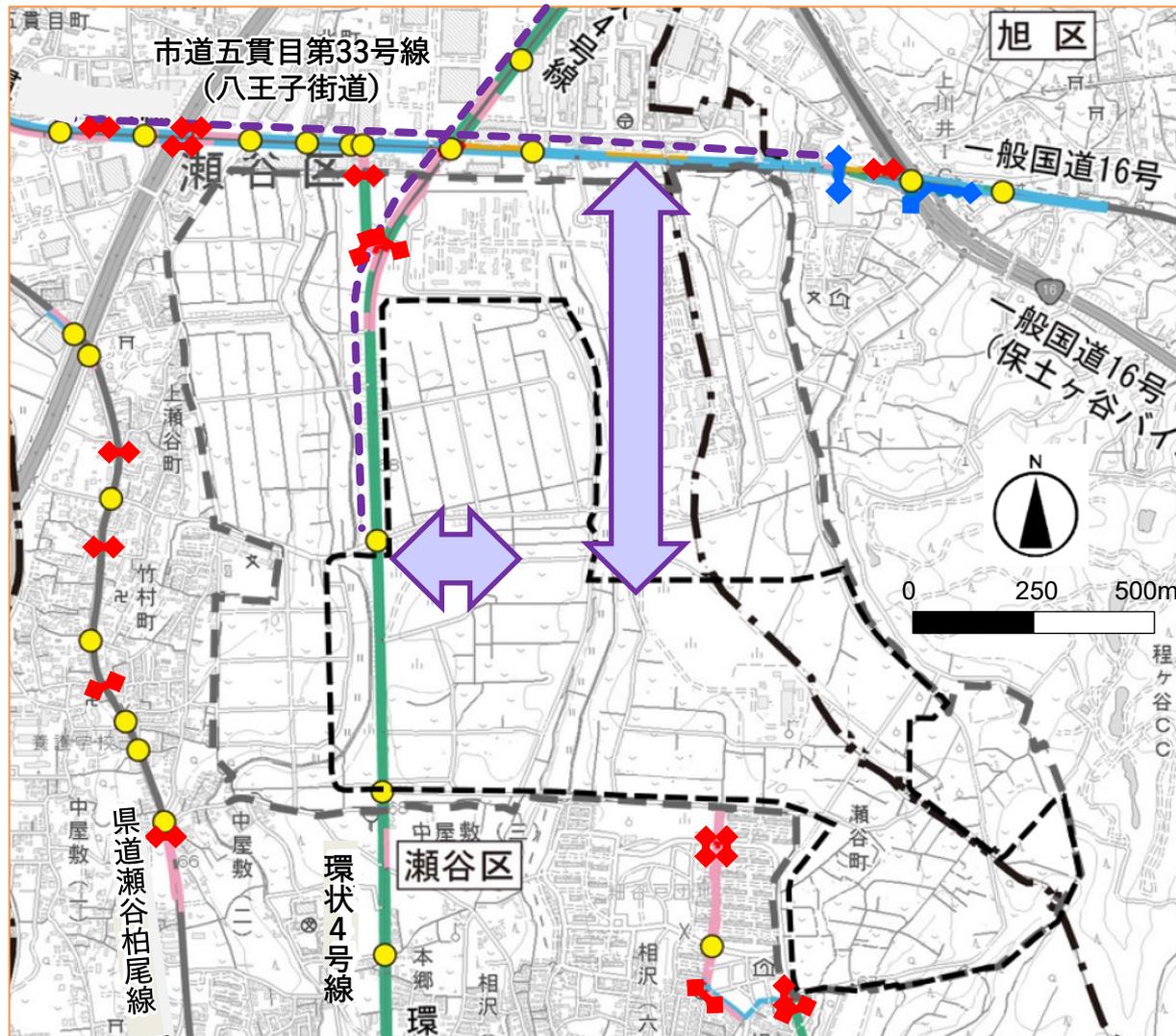
●環境保全目標

周辺交通に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書P. 6.10-53

工事中及び撤去中(工事用車両の走行に伴う歩行者の安全)



- 工事用車両の走行ルート
- ↕ 工事用車両の出入口
- 信号機
- ◆ 横断歩道
- ◆ 歩道橋
- マウントアップ
- マウントアップ+ガードレール
- マウントアップ+植栽帯
- マウントアップ+植栽帯 +ガードレール

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.10-67、39

工事中及び撤去中(工事用車両の走行に伴う歩行者の安全)

- 工事用車両の出入口に誘導員を配置し、歩行者や自転車等の安全を確保
- 通学時間帯における搬出入を、可能な限り抑えた運行計画を策定
- 工事用車両の走行経路は、可能な限り住宅地を避けた経路を設定
- 工事用車両には、規制速度、走行ルート of 厳守を徹底

●環境保全目標

歩行者・自転車の安全な通行が確保されること

予測結果

準備書P. 6.10-54、60～63

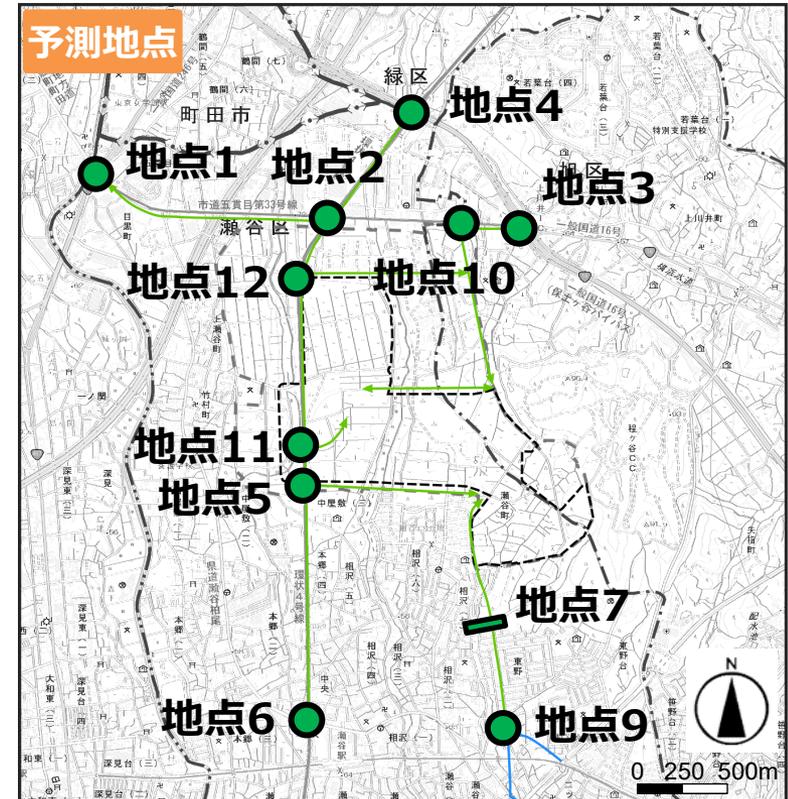
開催中(関係車両の走行)

【交通混雑】

■ 交差点需要率

予測地点	ピーク時間帯	開催中	限界需要率
地点1(目黒)	17～18時	0.793	0.894
地点2(目黒交番前)	17～18時	0.370	0.912
地点3(上川井IC)	20～21時	0.732	0.836
地点4(滝沢)	10～11時	0.754	0.873
地点4(土橋公園入口)	17～18時	0.550	0.850
地点5(消防署出張所北側)	17～18時	0.398	0.880
地点6(瀬谷中学校前)	16～17時	0.647	0.840
地点9	17～18時	0.515	0.917
地点10	20～21時	0.455	0.518
地点12	20～21時	0.978	0.867

予測地点	可能交通容量(台/h)	ピーク時流入交通量(台/h)	交通容量比
地点7	1,518	668	0.440

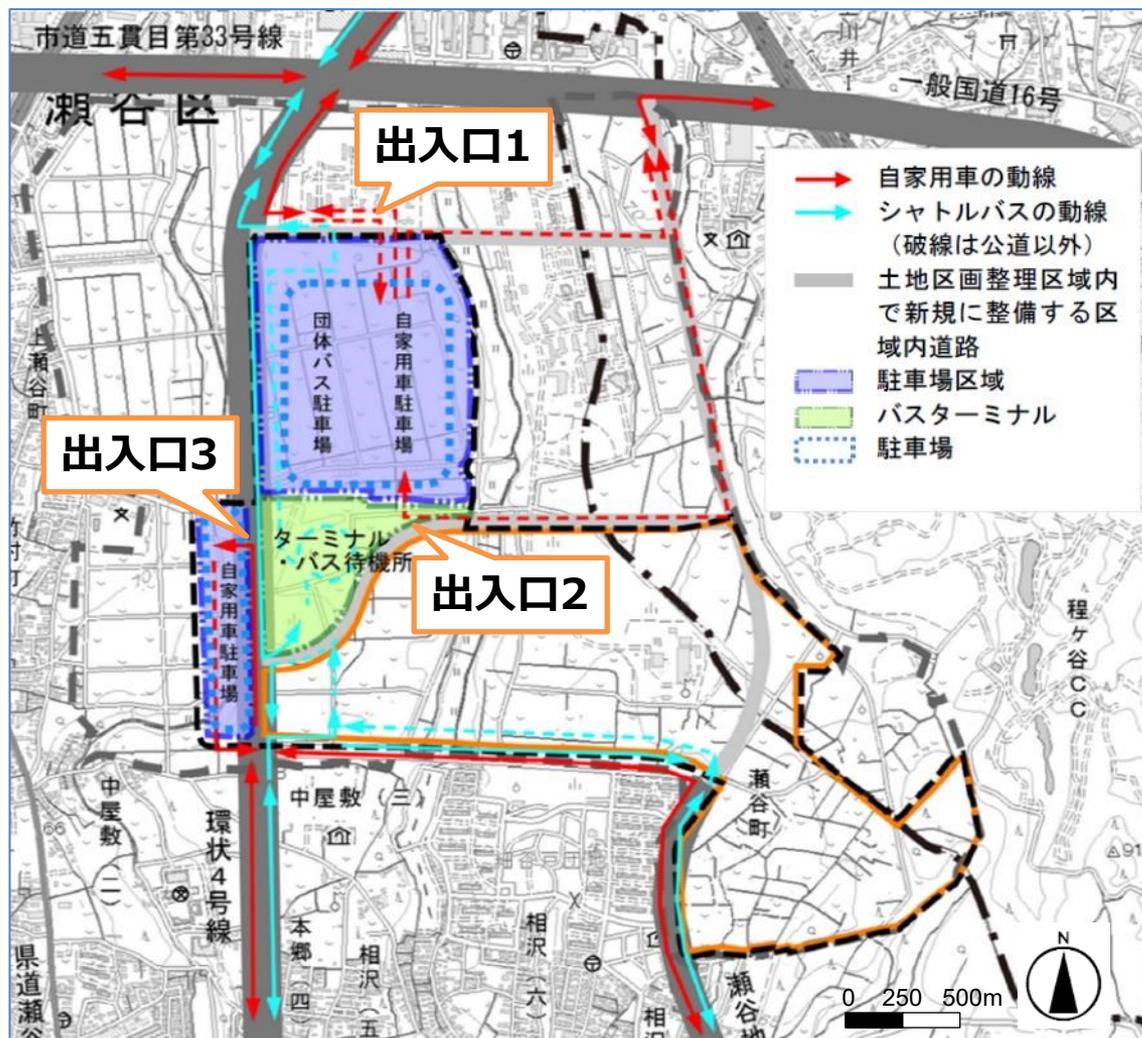


- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 関係車両の走行ルート
- 予測地点

予測結果

準備書P. 6.10-64

会場隣接駐車場の出入り口付近における滞留について



■ 滞留長の予測結果

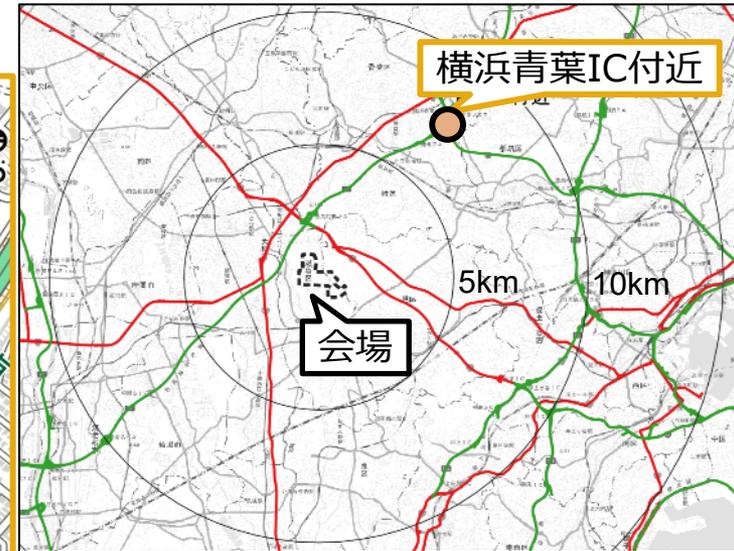
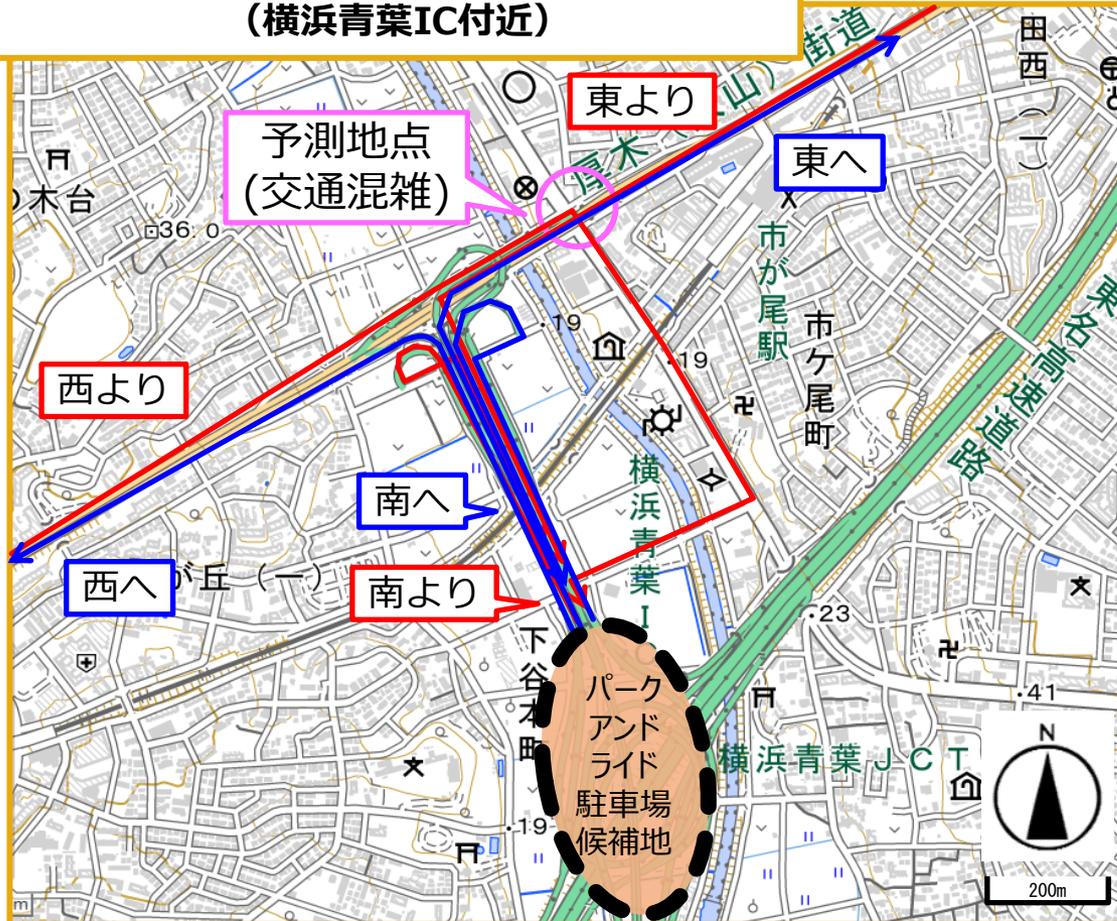
予測地点	滞留長
出入口1	約69m
出入口2	約47m
出入口3	滞留は生じない

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.10-69~73

パークアンドライドの実施による交通渋滞への影響と対策

各方面⇔パークアンドライド駐車場
(横浜青葉IC付近)



- 一般国道
- 高速自動車道など

区分	想定台数
自家用車	600台/日
シャトルバス	52台/日



主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.10-68、39

開催中(関係車両の走行)

- 公共交通利用を推奨し、会場近傍4駅からシャトルバスを運行
- 多客日などの混雑時にはパークアンドライドを導入
- 駐車場の事前予約の導入など、会場周辺へ自家用車（来場者）が過度に集中することを抑制
- 入庫待ち車両の滞留防止のため滞留スペースを確保
- ピーク時間を避けた帰宅行動をアナウンス

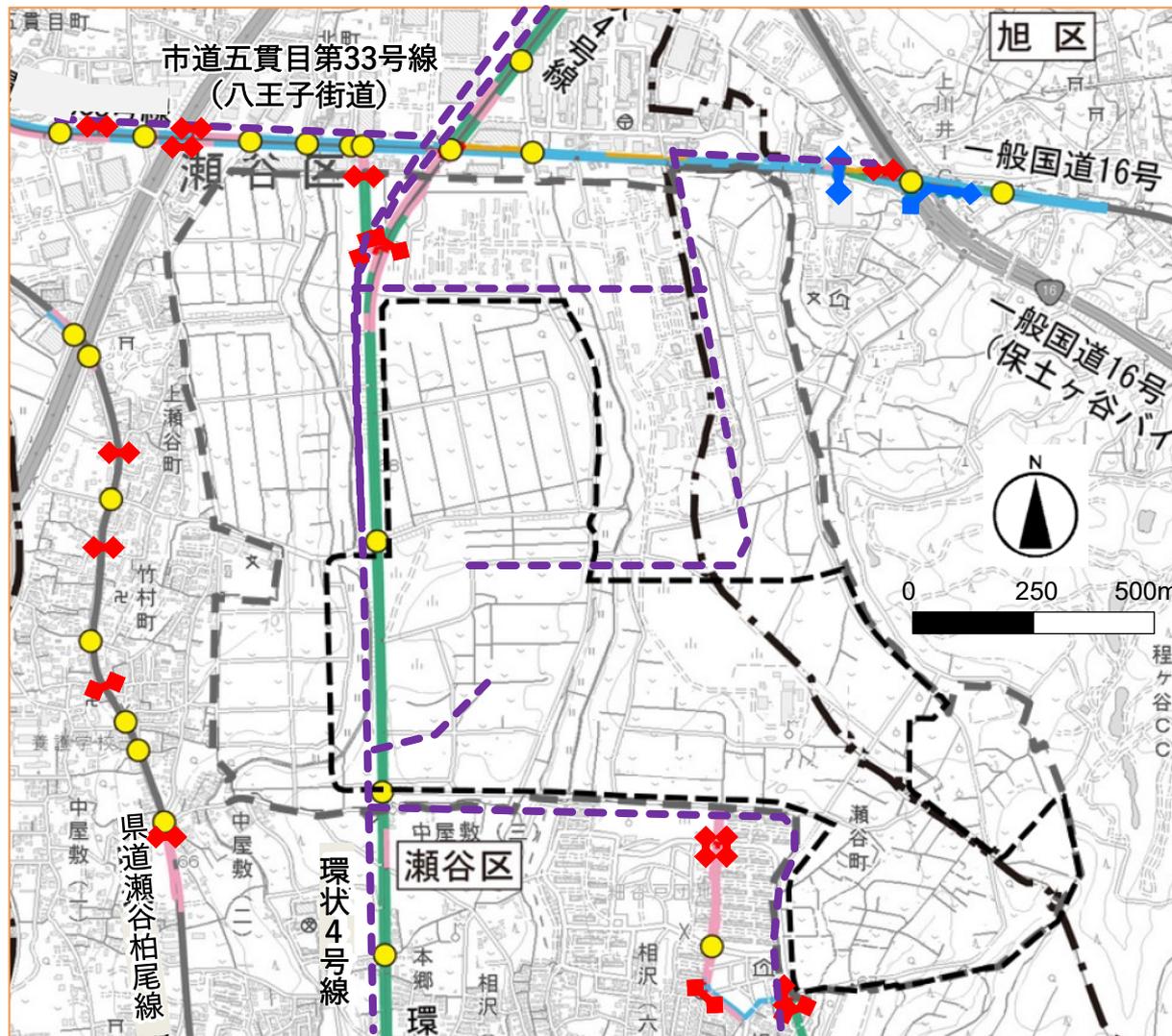
●環境保全目標

周辺交通に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書P. 6.10-65

開催中(関係車両の走行に伴う歩行者の安全)

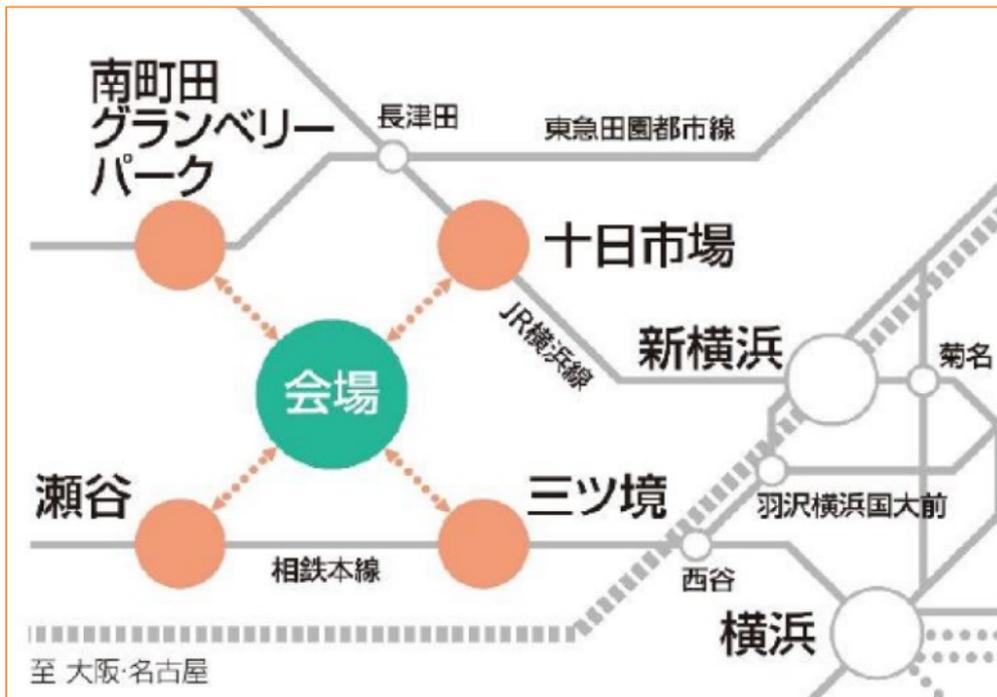


- 関係車両の走行ルート
- 信号機
- ◆◆ 横断歩道
- ◆◆ 歩道橋
- マウントアップ
- マウントアップ+ガードレール
- マウントアップ+植栽帯
- マウントアップ+植栽帯
+ガードレール

予測結果

準備書P. 6.10-57

鉄道駅からシャトルバスへの乗換え結節点における対策



駅名	シャトルバス 台数 (延台/日)
瀬谷駅	約700
三ツ境駅	約350
南町田 グランベリー パーク駅	約650
十日市場駅	約900
合計	約2,600

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.10-68、39

開催中(関係車両の走行に伴う歩行者の安全)

- 車両の出入口は、歩行者の出入口と分離する等、歩行者の安全に配慮
- 歩行者の横断については、乱横断を避けるため、適切な案内誘導により、信号のある場所で行うよう誘導
- シャトルバスの運用にあたっては、鉄道駅からシャトルバスへの乗り換え時に過度な滞留が発生しないよう鉄道事業者やバス事業者等の関係者と連携し対策を実施

●環境保全目標

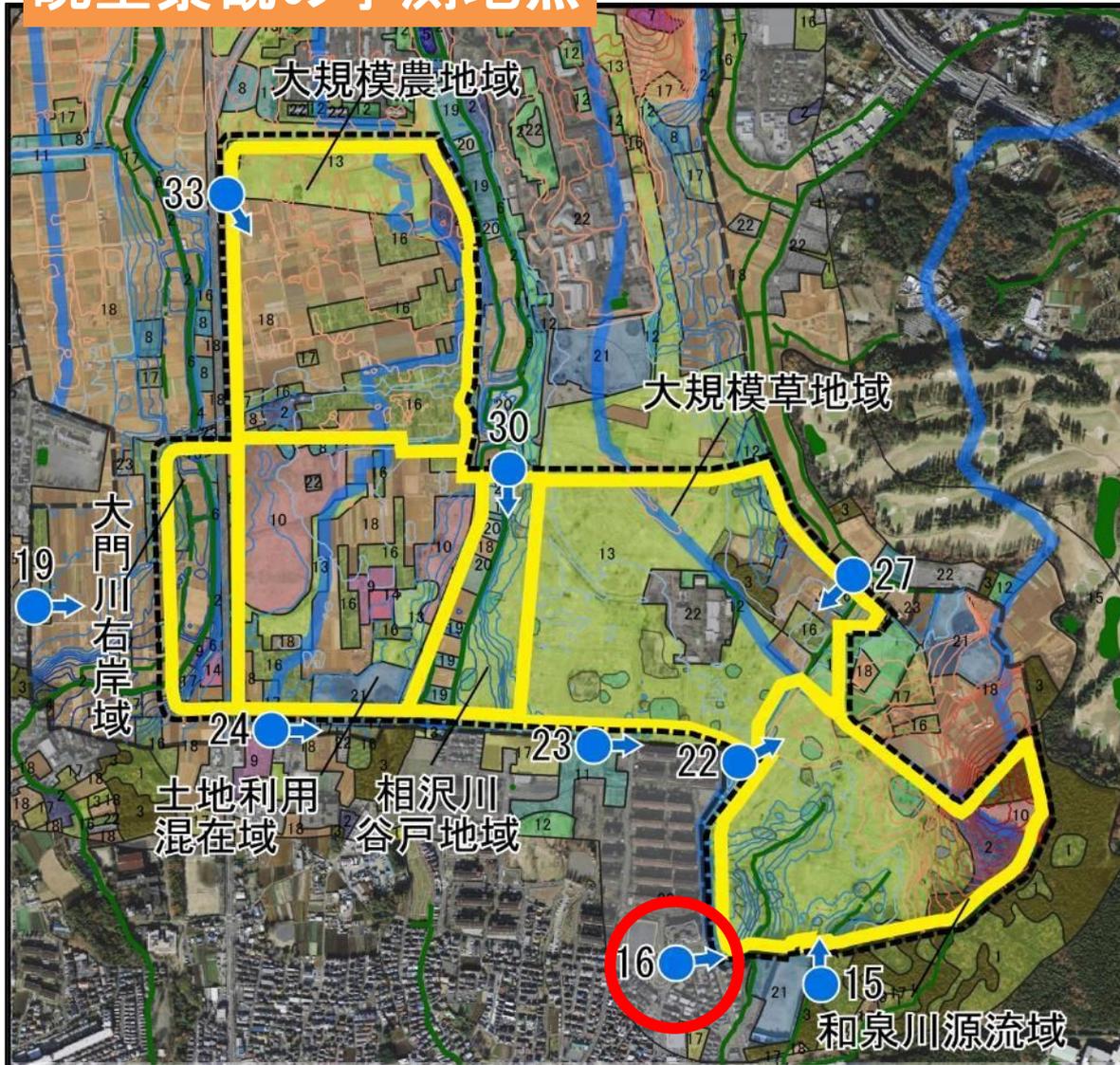
歩行者・自転車の安全な通行が確保されること

景 観

予測結果

準備書P. 6.11-32

眺望景観の予測地点



対象事業実施区域

土地区画整理事業実施区域

河川

流域界

景観区

眺望景観の予測地点

撮影方向



0 100 200 300 400 500 m



予測結果

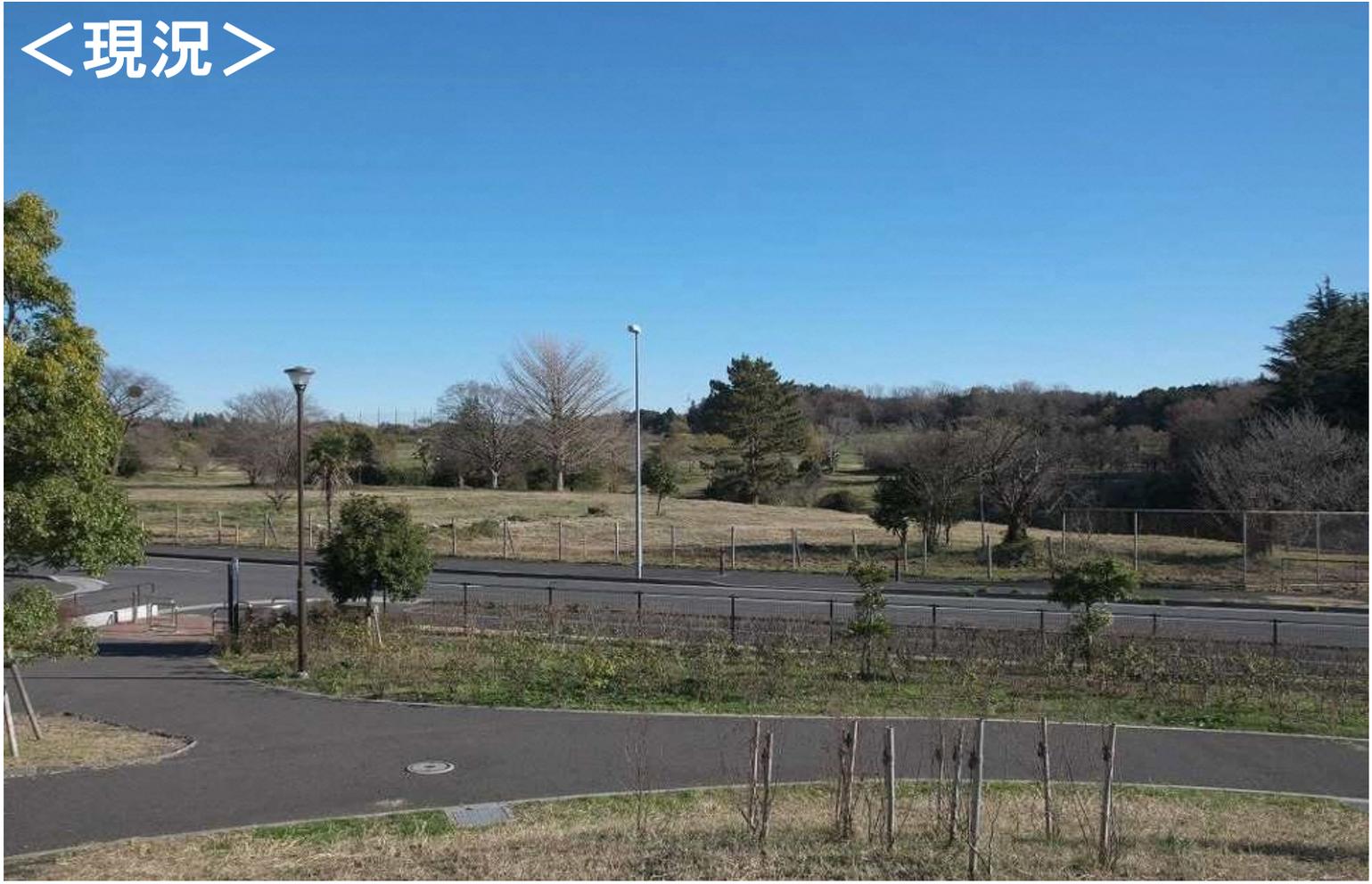
準備書P. 6.11-38



開催中(会場施設等の存在)

- 眺望景観 (地点16) 瀬谷みはらし公園

<現況>



予測結果

準備書P. 6.11-39

開催中(会場施設等の存在)

■ 眺望景観 (地点16) 瀬谷みはらし公園

<整備前>



公園の一次整備による植栽

舗装前の園路

注：横浜市が整備する施設については、既存資料等を元に想定して作成しています。



予測結果

準備書P. 6.11-39

開催中(会場施設等の存在)

■ 眺望景観（地点16） 瀬谷みはらし公園

<開催中>

本博覧会で整備する
会場施設

瀬谷市民の森との
連続性に配慮した植栽

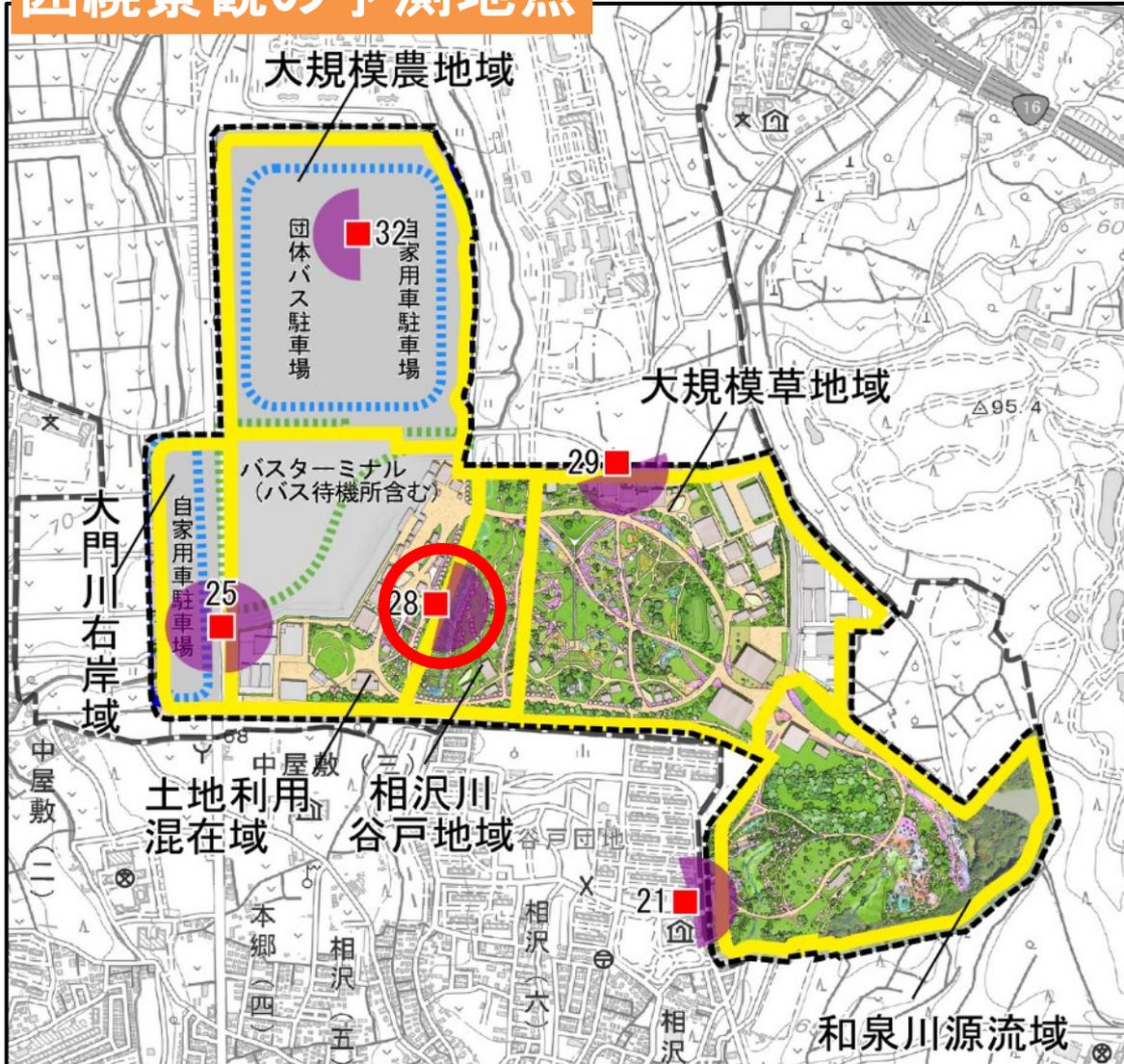


注：横浜市が整備する施設については、既存資料等を元に想定して作成しています。

予測結果

準備書P. 6.11-33

圍繞景観の予測地点



-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  景観区
-  圍繞景観の予測地点
-  撮影範囲



0 100 200 300 400 500 m



困繞景観の価値認識の対象と代表的な指標例

価値の分類	認識項目	代表的な指標(例)
普遍価値	自然性	植生自然度、緑被率、大径木の存在、水際線の形態、河川の流路の形状、水の清浄さ 等
	視認性	見られやすさ(被視頻度) 等
	利用性	利用者数、利用のしやすさ、利用者の属性の幅 等
固有価値	固有性	地名とかかわりの深い要素の存在 他にはない独特の要素の存在 等
	親近性	地域の人々に親しまれている要素の存在 等

予測結果

準備書P. 6.11-59

開催中(会場施設等の存在)

囲繞景観 (地点28)
相沢川谷戸地域

<現況>



<整備前>



<開催中>



価値軸	認識項目	価値の変化
普遍価値	自然性	(◎)○→◎
	視認性	(◎)△→◎
	利用性	(○)△→◎

価値軸	認識項目	価値の変化
固有価値	固有性	(◎)△→○
	親近性	(○)△→◎

() 内は現況の参考表示

※ ◎:高い、○:中程度、△:低い

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.11-66、27

開催中(会場施設等の存在)

- 公園整備事業による敷地境界の植栽を活用するとともに、博覧会でも植栽を実施
- 駐車場やバスターミナルでは、周辺景観との調和を考慮した植栽等による修景を実施
- 会場内の建築物及び工作物の形状、デザイン・色彩等に配慮
- 保全対象種の生息・生育環境等に配慮した園路の配置及び利用

●環境保全目標

周辺景観との調和を図り、眺望を著しく阻害しないこと

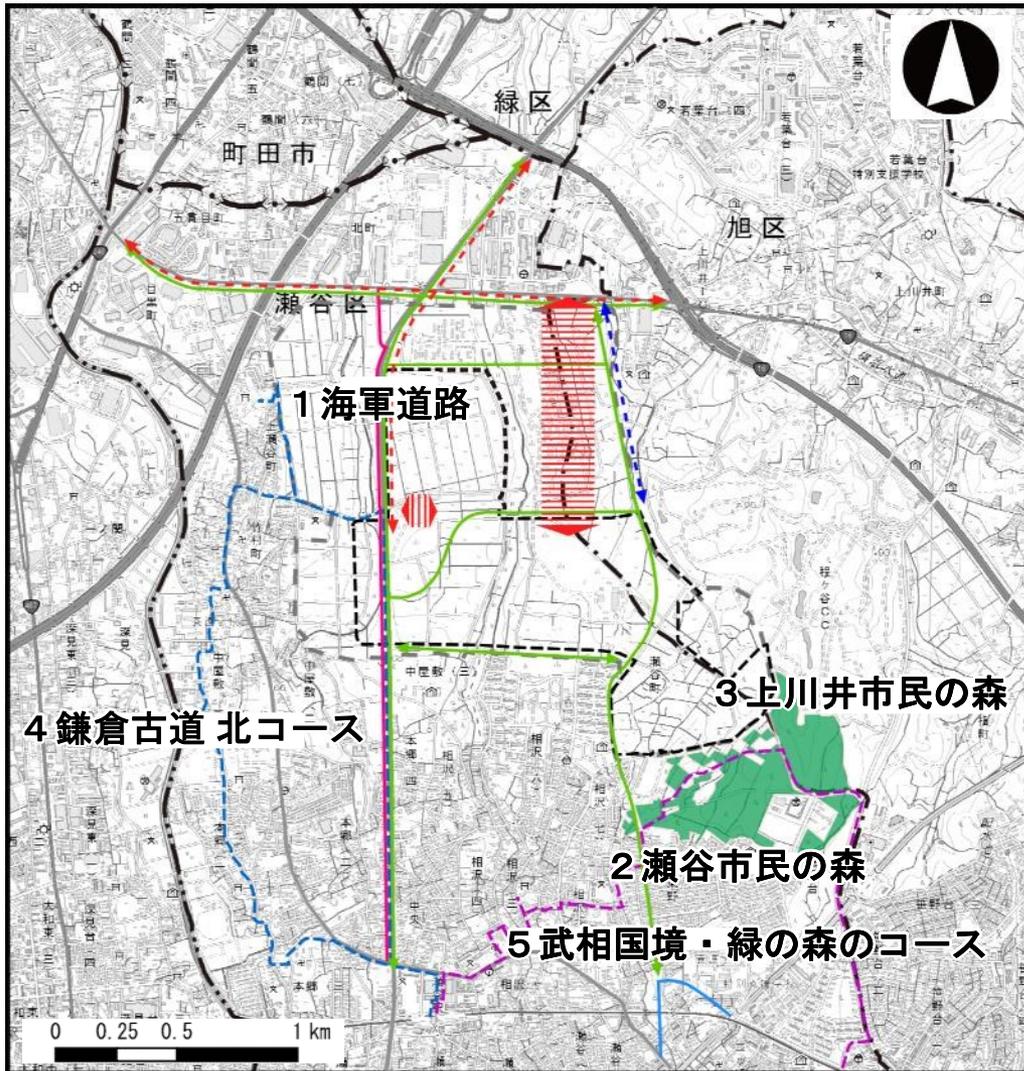
触れ合い活動の場

予測結果

準備書P. 6.12-4

触れ合い活動の場の予測地点

1	海軍道路
2	瀬谷市民の森
3	上川井市民の森
4	鎌倉古道 北コース
5	武相国境・緑の森のコース



注：本事業による触れ合い活動の場やアクセス経路の改変はありません。

- 対象事業実施区域
- 工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
- 工事用車両の専用出入口
- 工事用車両の走行ルート (撤去中)
- 関係車両の走行ルート
- 整備計画中の道路
- 触れ合い活動の場
- 触れ合い活動の場



予測結果

準備書P. 6.12-13、14

**工事中、撤去中（工事用車両の走行）、
開催中（関係車両の走行、施設の供用（行催事の実施））**

【触れ合い活動の場の消失又は改変の程度】

- 触れ合い活動の場は、本博覧会の区域外に位置することから、消失又は改変は生じないと予測

【触れ合い活動の場の利用状況の変化の程度】

- 歩道が整備されるため、歩行者への影響は小さいと予測
- 音響設備の使用が想定される行催事施設等からの離隔は十分に確保され、既存樹林による遮蔽効果等もあることから、影響は小さいと予測

【触れ合い活動の場までの経路等に与える改変の程度】

- 触れ合い活動の場は、本博覧会の区域外のため、経路等の改変はなく、影響は生じないと予測

主な環境の保全のための措置

準備書P. 6.12-15、11

工事中及び撤去中(工事用車両の走行)

- 工事内容、作業期間、アクセス経路等について周辺住民等に周知
- 工事用車両の出入口付近に誘導員を配置
- 運転者に教育を実施、規制速度、走行ルート of 厳守を徹底

開催中(施設の供用、関係車両の走行)

- 公共交通機関等の利用促進のため、利用者に対しHPで周知
- HP等で来場者に安全運転の周知、歩行者優先等を励行
- 搬入車両の運転者に対しガイドラインなどで安全運転を周知
- 屋外で音響設備、夜間照明を使用する際に、スピーカーや照明の設置方向等に関する運営ルールを設定

●環境保全目標

自然との触れ合い活動の場の持つ機能に著しい影響を及ぼさないこと

5. 事後調査



事後調査項目、調査時期・頻度及び調査方法

- ・パークアンドライド駐車場の位置など不確定要素があるため、開催中の会場及びパークアンドライド駐車場周辺の交通混雑の影響について、事後調査項目として選定

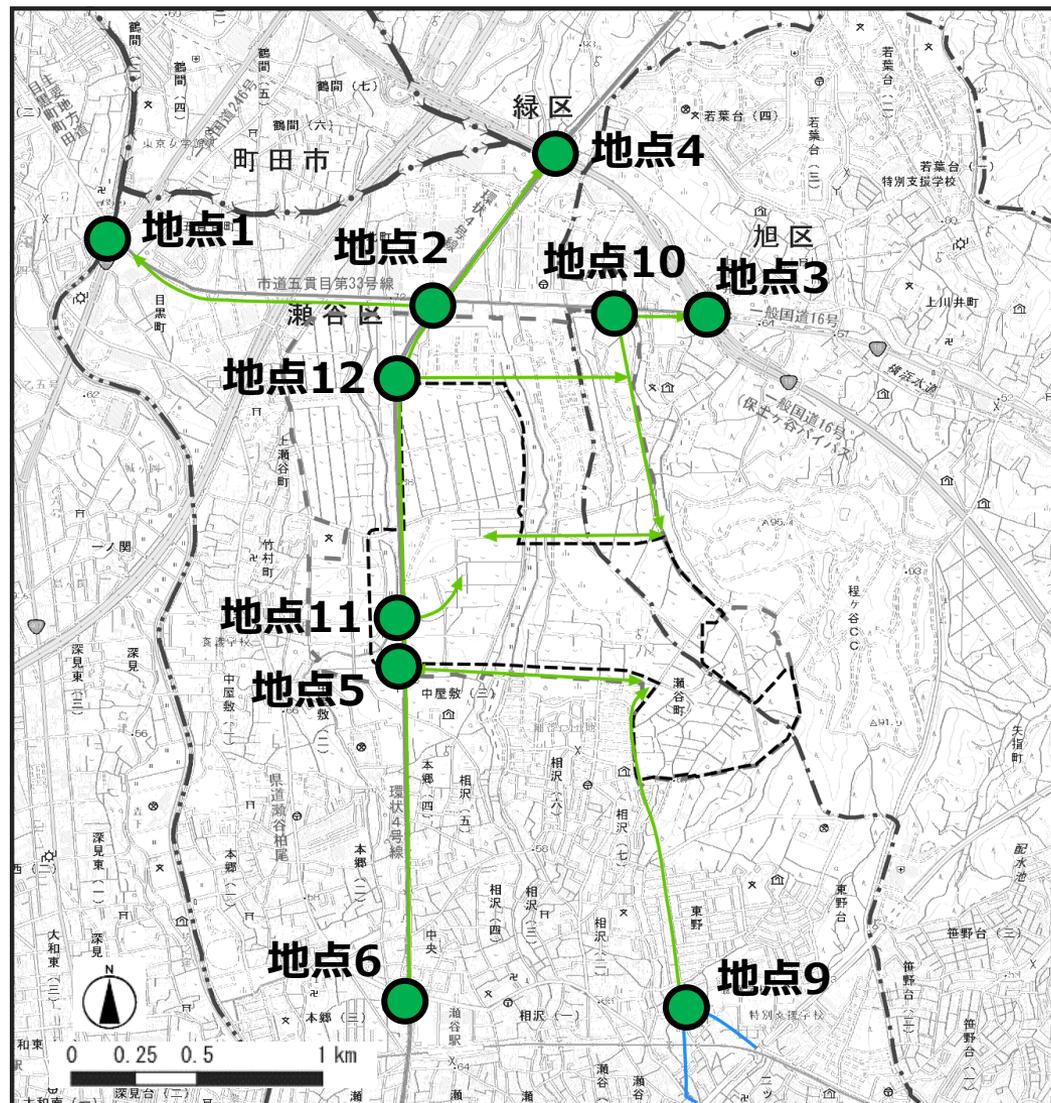
評価項目（細目）	地域社会（交通混雑）
区 分	開催中
調査項目	交差点交通量及び渋滞長、信号現示
調査頻度	開催期間中に1回
調査時期	開催期間中の多客日となることが想定される5月の連休期間

調査位置

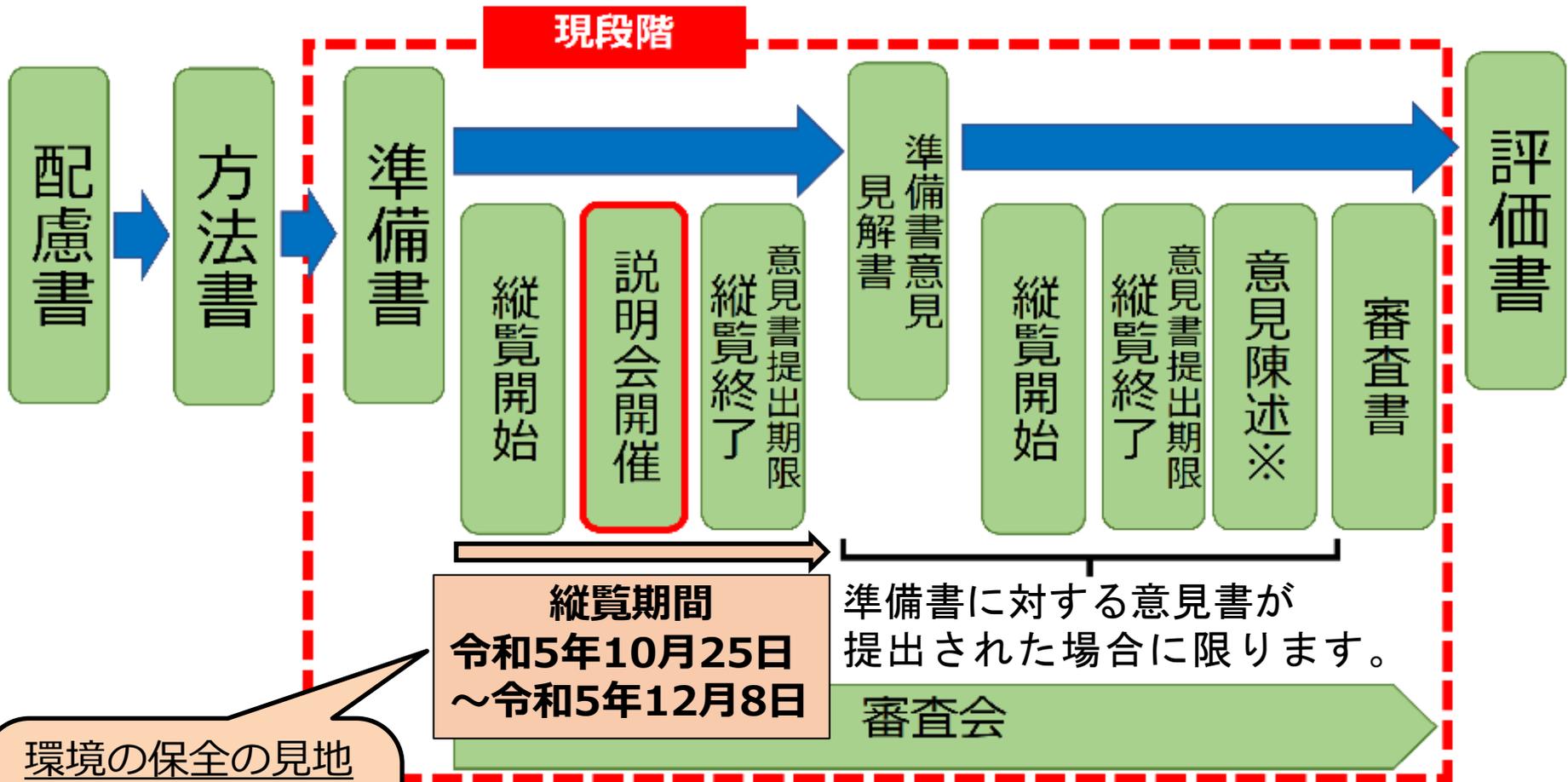
会場周辺の主要交差点
(地点1~6、地点9~12
の10地点：右図)

及び

パークアンドライド駐車場
周辺の主要交差点
(ただし、既存の駐車場
を活用する場合を除く)



6. 縦覧及び意見書の提出について



環境の保全の見地からご意見のある方は、意見書を提出することができます。

- ※ 審査会に対し意見を述べたい旨の申し出があった場合
- ※ 対象地域内に居住する方、及び対象地域内に事務所又は事業場を有する方又は法人その他の団体（法人その他の団体にあたっては、定款その他の規約により代表者が定められているものに限ります。）に限られます。

縦覧

期 間

令和5年10月25日（水）から
令和5年12月8日（金）まで（土・日・祝日を除く）

場 所

- ①環境創造局環境影響評価課
- ②瀬谷区役所区政推進課広報相談係
- ③旭区役所区政推進課広報相談係

時 間

午前 8 時45分～午後 5 時（①は午後 5 時 1 5 分まで）

閲覧

場 所

- ①中央図書館
- ②瀬谷図書館
- ③旭図書館

市ホームページでの公開

横浜市 環境アセスメント 園芸博覧会



提出期限

令和5年12月8日（金）まで
（窓口での受付は、土・日・祝日を除く）

提出方法

①または②の方法で提出してください。

①**意見書用紙**にご記入の上、以下の提出先へ
持参または**郵送**（当日消印有効）

・環境創造局環境影響評価課

※意見書用紙は、縦覧窓口で配布しています。

②横浜市ホームページから**電子申請**で提出

ご清聴ありがとうございました

